

第2章 一般高齢者、在宅要支援認定者・事業対象者調査

1. 回答者属性

(1) 調査票の回答者

(単位:%)

	あて名のご本人	あて名の方の配偶者 (夫・妻)	あて名の方のこども	あて名の方の親族	友人・知人	ケアマネジャー	施設の職員	ホームヘルパー	その他	無回答
一般高齢者 (回答者数 920)	91.7	1.7	1.1	0.0	0.1	—	—	—	0.2	5.0
要支援者・事業対象者 (回答者数 906)	83.3	2.3	5.2	1.2	0.0	0.2	0.0	0.0	1.5	6.2

(2) 年齢

あなたの年齢を教えてください。

一般高齢者では、「75～79 歳」が 25.3%と最も高く、次いで「70～74 歳」が 23.8%、「65～69 歳」が 22.8%となっている。

要支援者・事業対象者では、「85～89 歳」が 30.7%と最も高く、次いで「80～84 歳」が 27.7%、「75～79 歳」が 14.1%となっている。

(単位:%)

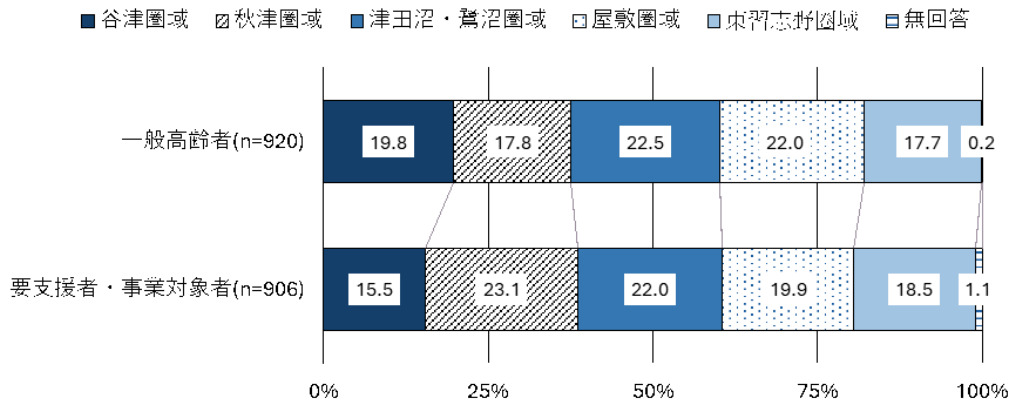
	65～ 69 歳	70～ 74 歳	75～ 79 歳	80～ 84 歳	85～ 89 歳	90～ 94 歳	95～ 99 歳	100 歳 以上	無回答
一般高齢者 (回答者数 920)	22.8	23.8	25.3	17.2	8.0	2.2	0.2	0.0	0.4
要支援者・事業対象者 (回答者数 906)	2.8	5.7	14.1	27.7	30.7	13.7	3.4	0.2	1.7

(3) 居住地区

お住いの地区名を教えてください。

一般高齢者では、津田沼・鷺沼圏域が22.5%と最も多く、次いで屋敷圏域が22.0%となっている。

要支援者・事業対象者では、秋津圏域が23.1%と最も多く、次いで津田沼・鷺沼圏域が22.0%となっている。

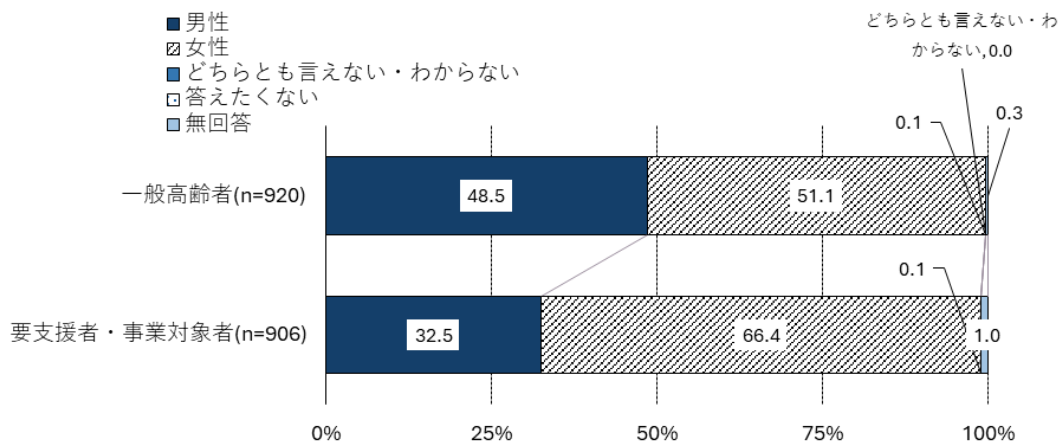


(4) 性別

あなたの性別をお答えください。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「女性」が最も高く、一般高齢者では51.1%、要支援者・事業対象者では66.4%となっている。

一方、「男性」は一般高齢者で48.5%、要支援者・事業対象者で32.5%となっている。「答えたくない」はそれぞれ0.1%である。

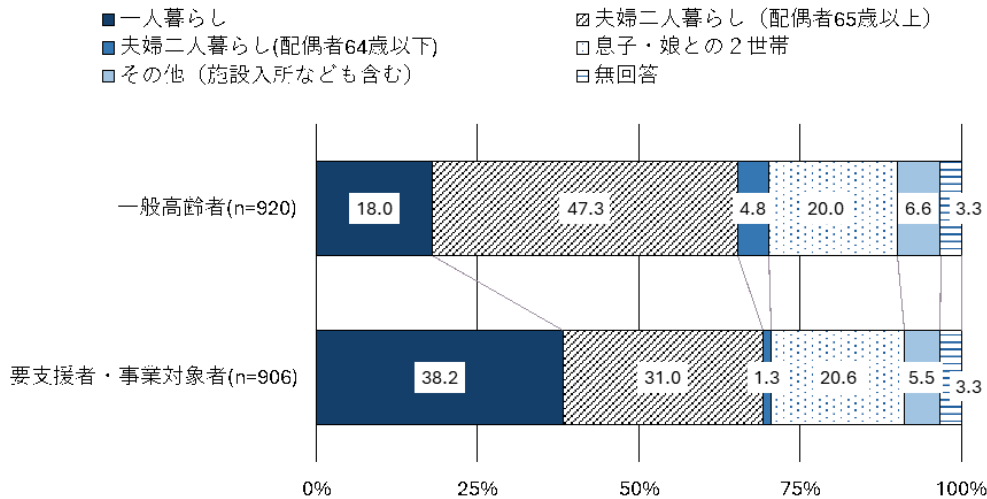


(5) 家族構成

家族構成をお答えください。

一般高齢者では、「夫婦二人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が 47.3%と最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」が 20.0%、「一人暮らし」が 18.0%となっている。

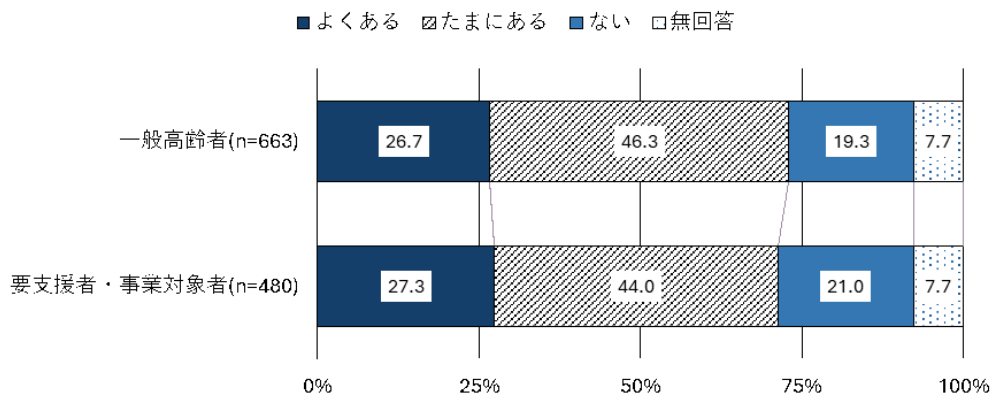
要支援者・事業対象者では、「一人暮らし」が 38.2%と最も高く、次いで「夫婦二人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が 31.0%、「息子・娘との2世帯」が 20.6%となっている。



(ご家族と同居されている方)日中、一人になることがありますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「たまにある」が最も高く、一般高齢者で 46.3%、要支援者・事業対象者で 44.0%となっている。

次いで「よくある」が一般高齢者で 26.7%、要支援者・事業対象者で 27.3%、「ない」が一般高齢者で 19.3%、要支援者・事業対象者で 21.0%となっている。

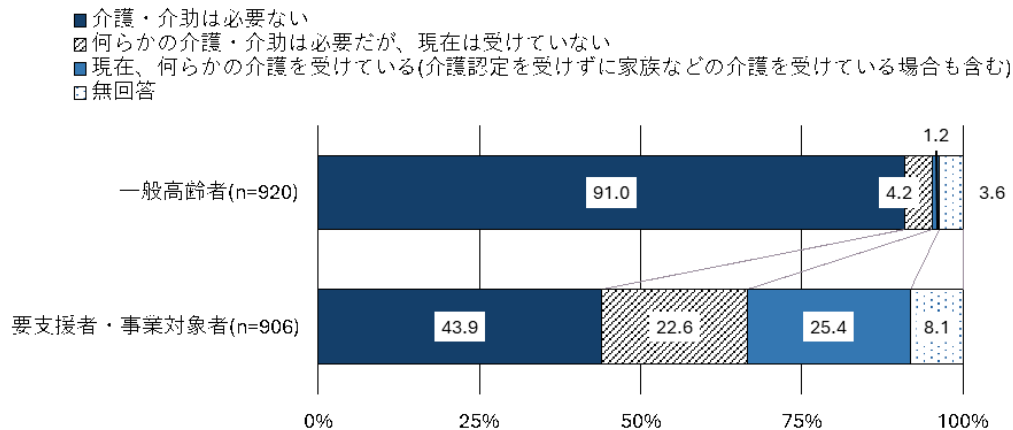


(6) 介護・介助の状況

あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。

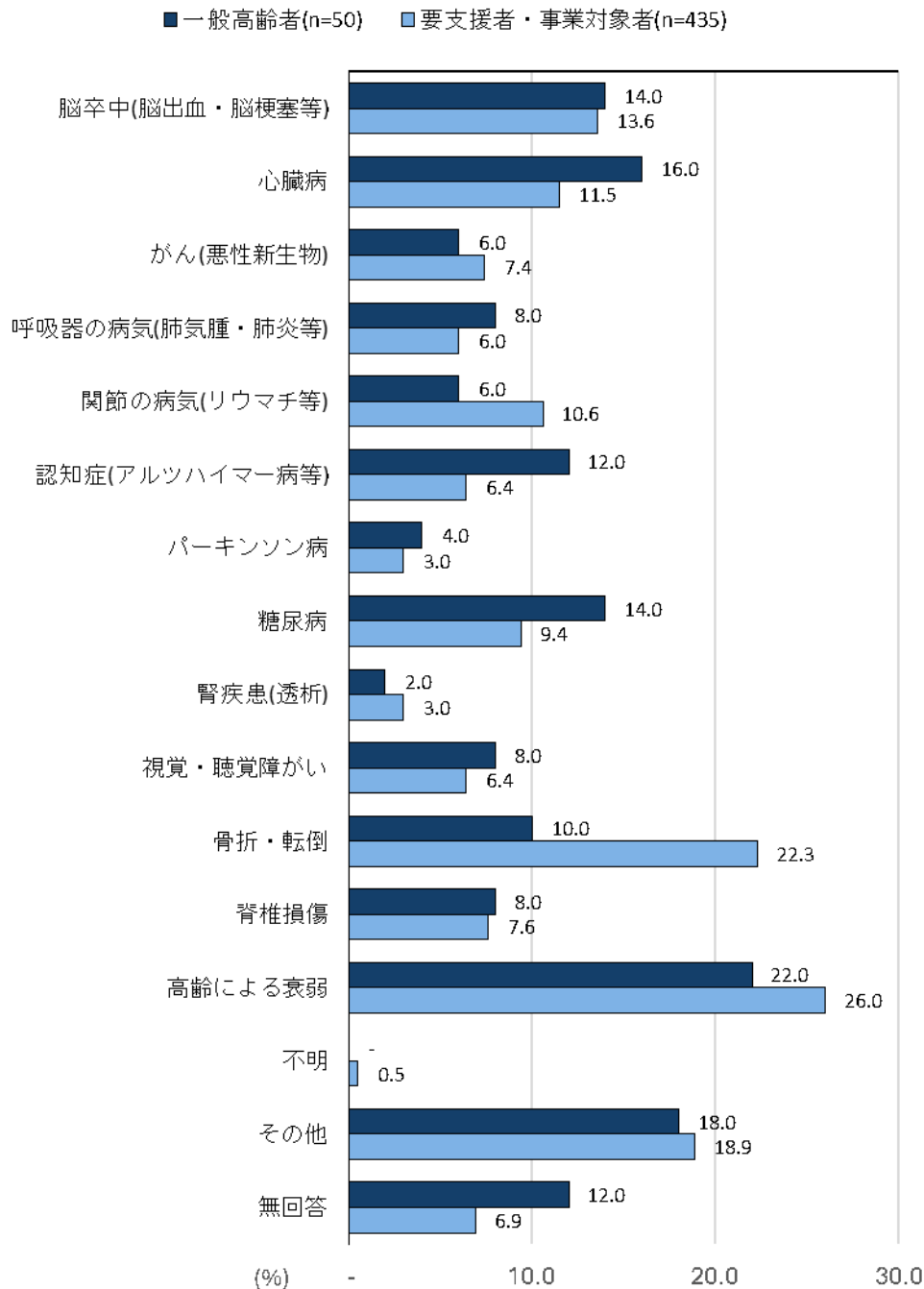
一般高齢者では、「介護・介助は必要ない」が91.0%と最も高く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が4.2%、「現在、何らかの介護を受けている」が1.2%となっている。

要支援者・事業対象者では、「介護・介助は必要ない」が43.9%と最も高く、次いで「現在、何らかの介護を受けている」が25.4%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が22.6%となっている。



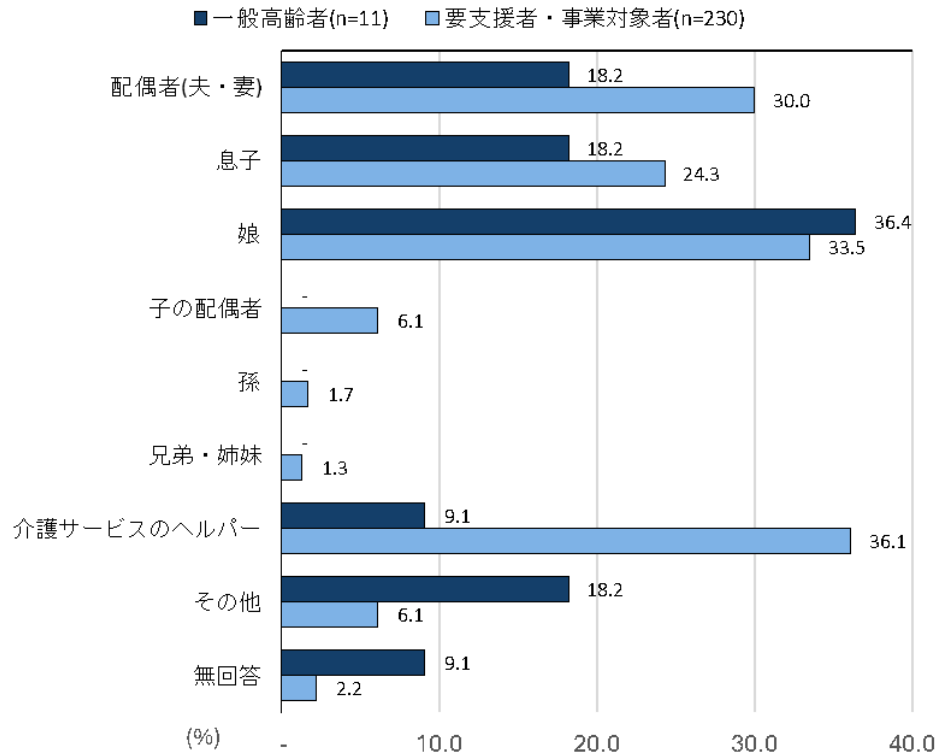
(介護が必要な方)介護・介助が必要となった主な原因は何ですか。(〇はいくつでも)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「高齢による衰弱」が最も高く、一般高齢者で 22.0%、要支援者・事業対象者で 26.0%となっている。次いで、一般高齢者では「心臓病」が 16.0%、要支援者・事業対象者では「骨折・転倒」が 22.3%となっている。



(現在、介護を受けている方)主にどなたの介護・介助を受けていますか。(○はいくつでも)

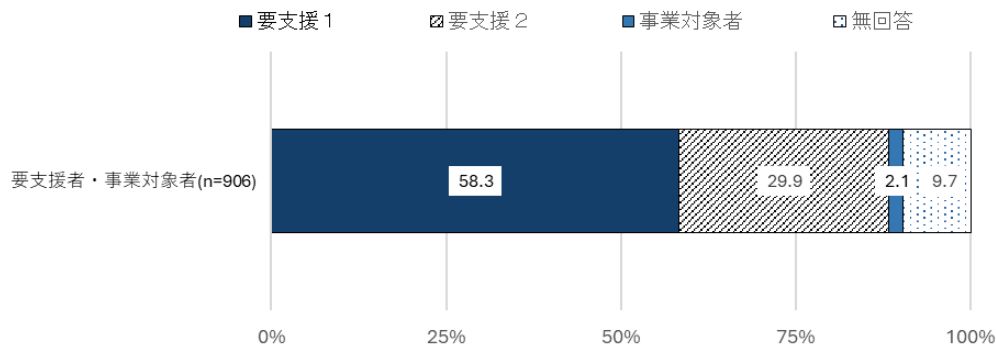
一般高齢者では「娘」が最も高く、36.4%となっており、次いで、「配偶者」、「息子」がともに18.2%となっている。要支援者・事業対象者では「介護サービスのヘルパー」が最も高く、36.1%となっており、次いで、「娘」が33.5%となっている。



(7) 要支援認定区分

(要支援者・事業対象者のみ)あなたの認定区分は次のどれにあたりますか。

「要支援 1」が58.3%と最も高く、次いで「要支援 2」が29.9%、「事業対象者」が2.1%となっている。

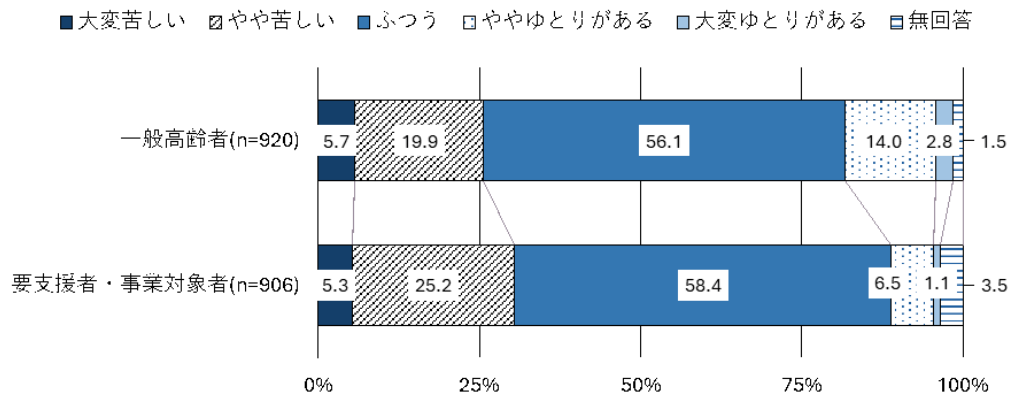


(8) 経済状況

現在の暮らしの状況を経済的に見てどう感じていますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「ふつう」が最も高く、一般高齢者で 56.1%、要支援者・事業対象者で 58.4%となっている。

「やや苦しい」は要支援者・事業対象者が 25.2%で、一般高齢者の 19.9%を 5.3 ポイント上回っている。一方で「ややゆとりがある」は要支援者・事業対象者が 6.5%で、一般高齢者の 14.0%を 7.5 ポイント下回っている。

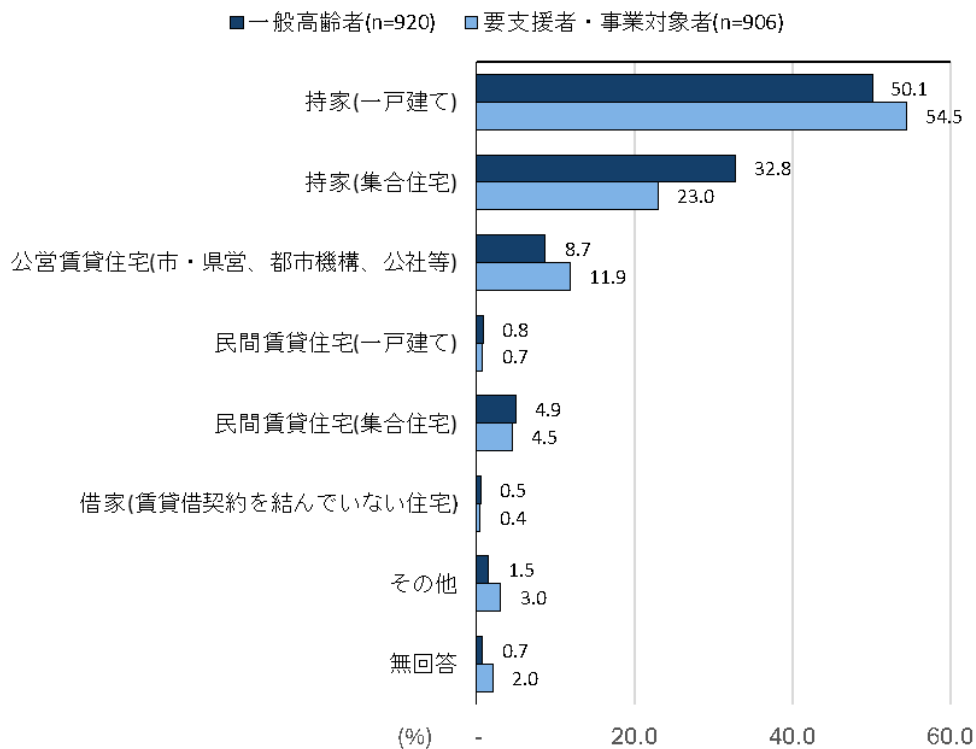


(9) 住まいの形態

お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「持家(一戸建て)」が最も高く、一般高齢者で 50.1%、要支援者・事業対象者で 54.5%となっている。

「持家(集合住宅)」は一般高齢者が 32.8%で、要支援者・事業対象者の 23.0%を 9.8 ポイント上回っている。

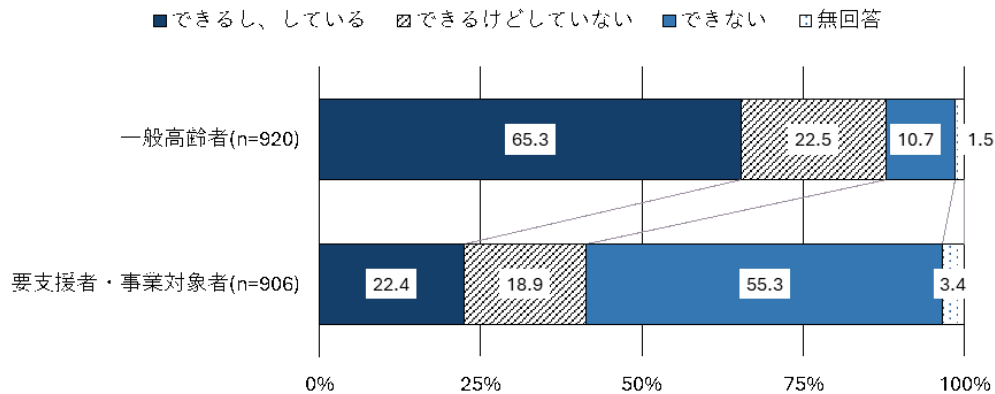


2. からだを動かすことについて

(1) 運動機能の状況

階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。

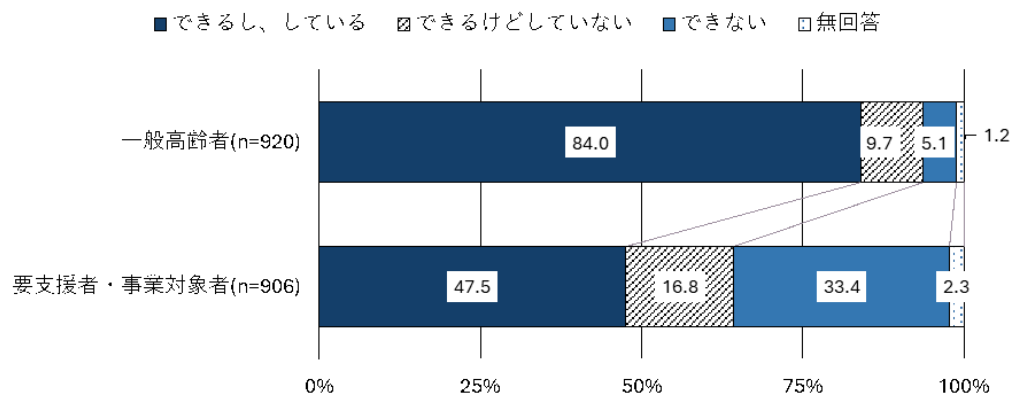
一般高齢者では、「できるし、している」が65.3%と最も高く、要支援者・事業対象者では「できない」が55.3%と最も高くなっている。



椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。

「できるし、している」は一般高齢者が84.0%であるのに対し要支援者・事業対象者は47.5%と大幅に下回っている。

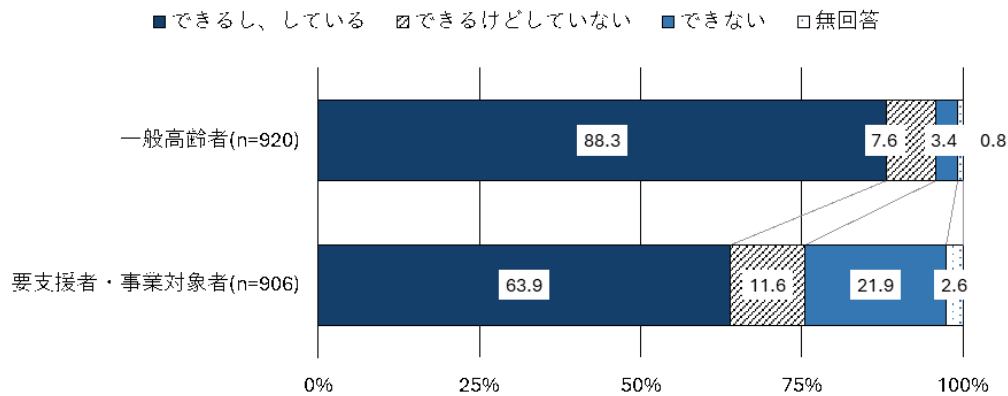
「できない」は要支援者・事業対象者の33.4%で一般高齢者が5.1%を28.3ポイント上回っている。



15 分位続けて歩いていますか。(買い物、散歩など、目的は問いません)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「できるし、している」が最も高く、一般高齢者で 88.3%、要支援者・事業対象者で 63.9%となっている。

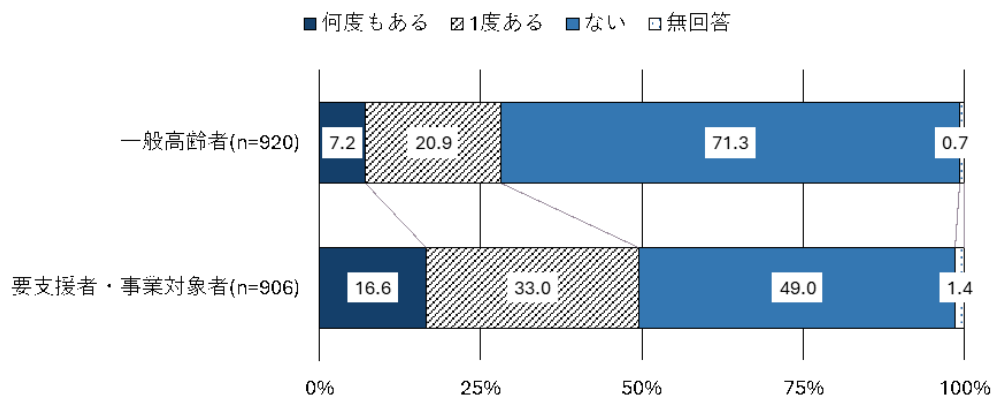
「できない」は要支援者・事業対象者が 21.9%で、一般高齢者の 3.4%を 18.5 ポイント上回っている。



過去1年間に転んだ経験がありますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「ない」が最も高く、一般高齢者で 71.3%、要支援者・事業対象者で 49.0%となっている。

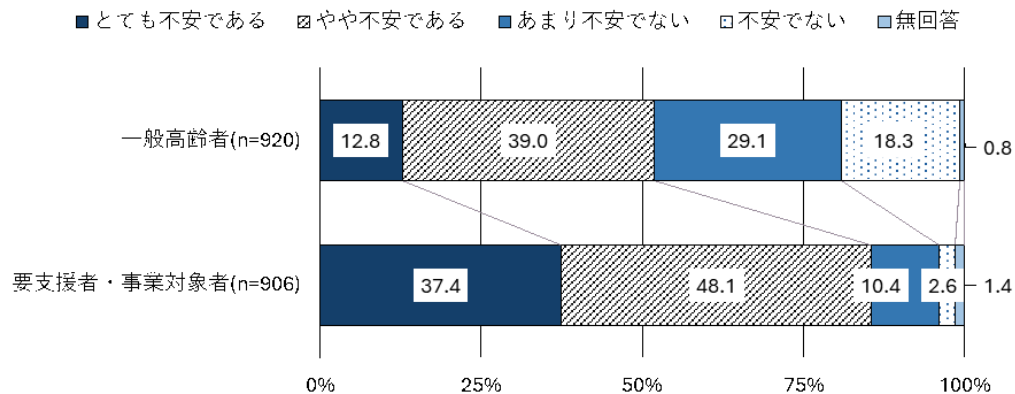
「何度もある」は要支援者・事業対象者が 16.6%で、一般高齢者の 7.2%を 9.4 ポイント上回っている。



転倒に対する不安は大きいですか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「やや不安である」が最も高く、一般高齢者で 39.0%、要支援者・事業対象者で 48.1%となっている。

「とても不安である」は要支援者・事業対象者が 37.4%で、一般高齢者の 12.8%を 24.6 ポイント上回っている。

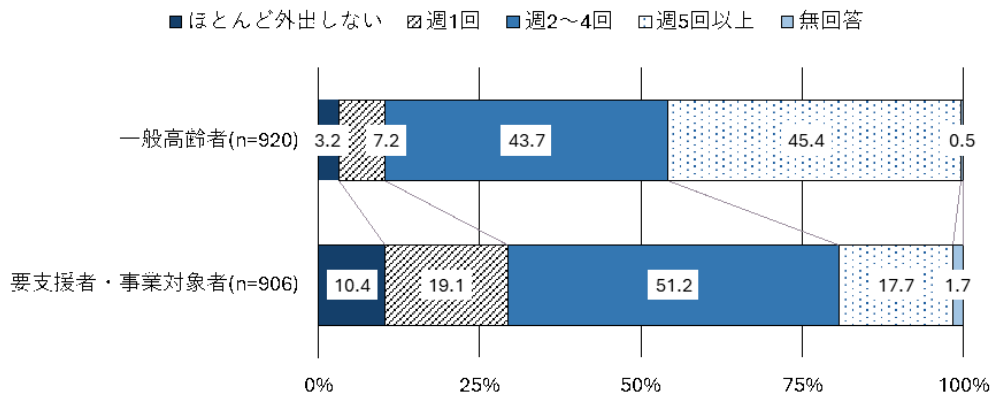


(2) 外出の頻度

週に1回以上は外出していますか。(手段・目的は問いません)

一般高齢者では、「週5回以上」が 45.4%と最も高く、要支援者・事業対象者では「週2～4回」が 51.2%と最も高くなっている。

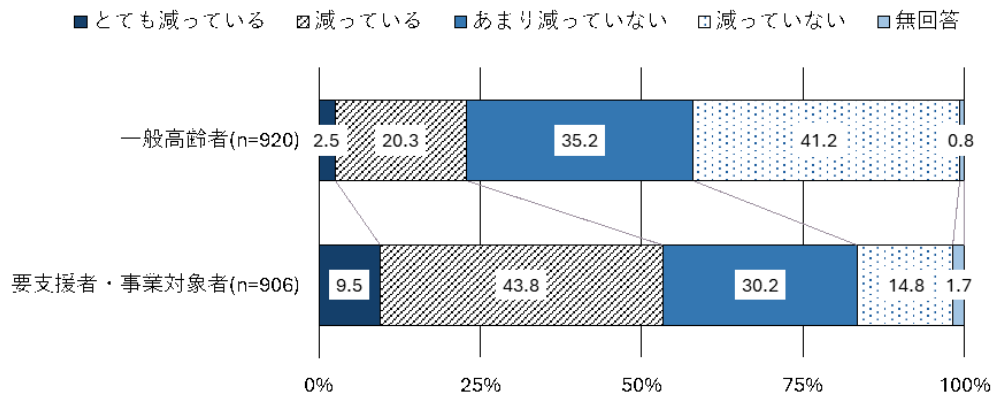
「週5回以上」は一般高齢者が 45.4%で、要支援者・事業対象者の 17.7%を 27.7 ポイント上回っている。



昨年(令和6年)と比べて外出の回数が減っていますか。

一般高齢者では、「減っていない」が41.2%と最も高く、要支援者・事業対象者では「減っている」が43.8%と最も高くなっている。

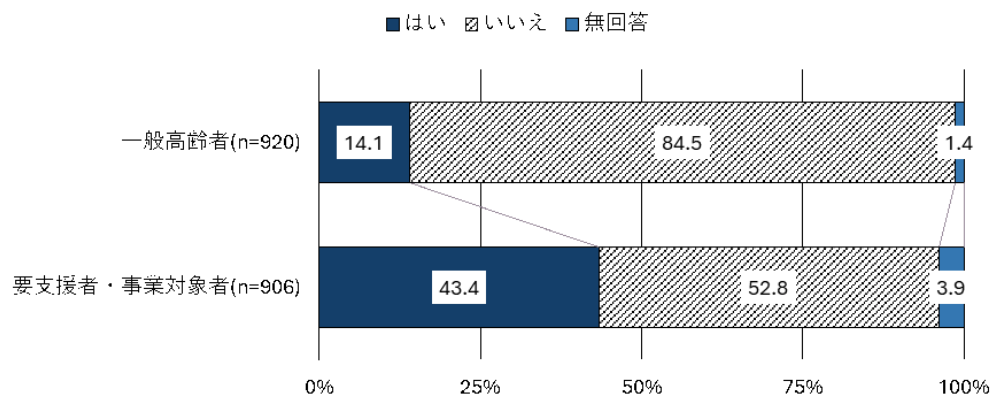
「減っている」は要支援者・事業対象者が43.8%で、一般高齢者の20.3%を23.5ポイント上回っている。



外出を控えていますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「いいえ」が最も高く、一般高齢者で84.5%、要支援者・事業対象者で52.8%となっている。

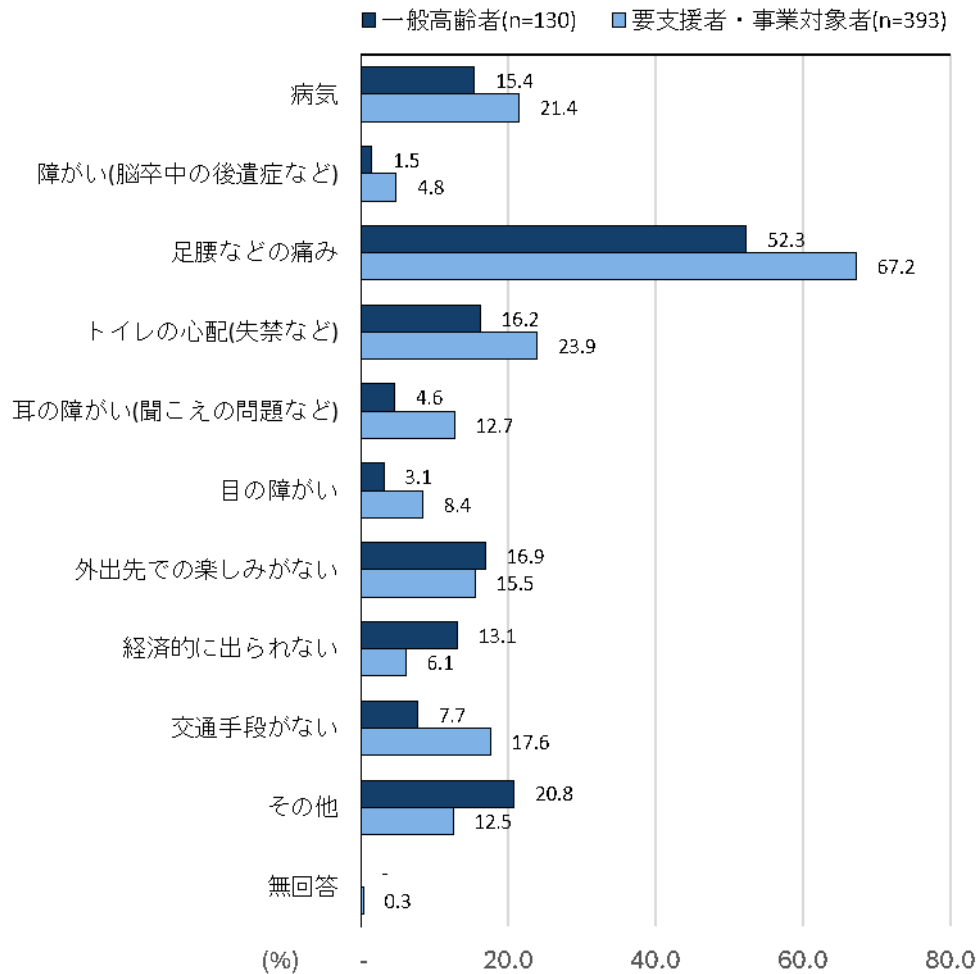
「はい」は要支援者・事業対象者が43.4%で、一般高齢者の14.1%を29.3ポイント上回っている。



(外出を控えている方)外出を控えている理由は、次のどれですか。(〇はいくつでも)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「足腰などの痛み」が最も高く、一般高齢者で 52.3%、要支援者・事業対象者で 67.2%となっている。

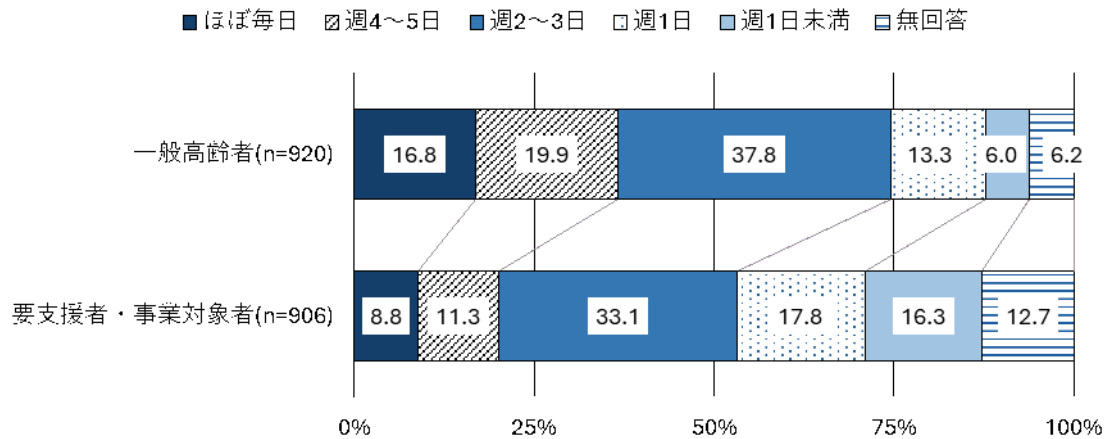
次いで、一般高齢者では「外出先での楽しみがない」が 16.9%となっており、要支援者・事業対象者では「トイレの心配」が 23.9%となっている。



買い物、散歩で外出する頻度はどのくらいですか。

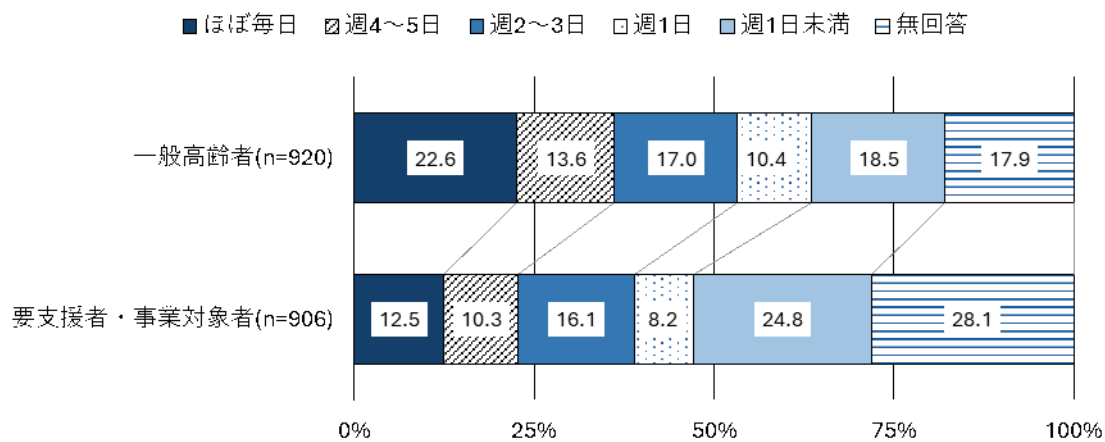
①買い物

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「週2～3日」が最も高く、一般高齢者で37.8%、要支援者・事業対象者で33.1%となっている。「ほぼ毎日」は一般高齢者が16.8%で、要支援者・事業対象者の8.8%を8.0ポイント上回っている。



②散歩

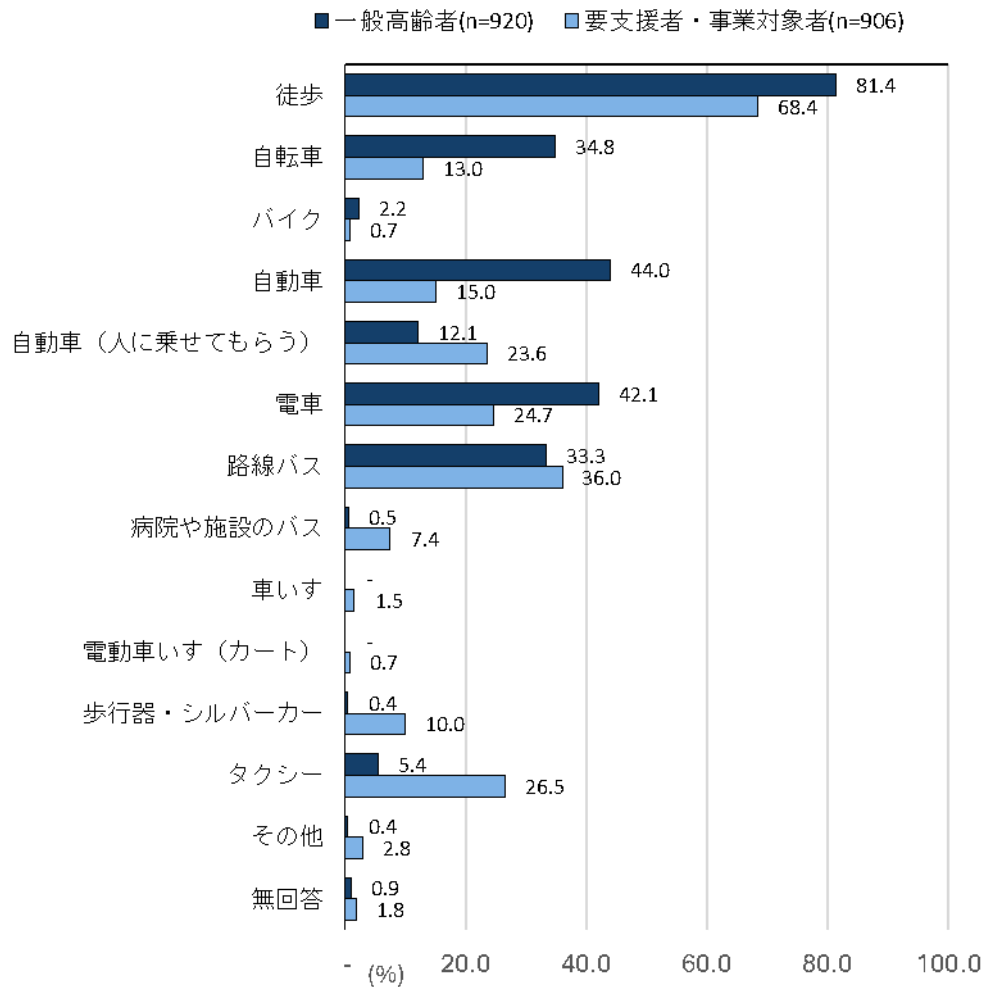
一般高齢者では、「ほぼ毎日」が22.6%と最も高く、次いで「週1日未満」が18.5%となっている。要支援者・事業対象者では、「週1日未満」が24.8%と最も高く、次いで「週2～3日」が16.1%となっている。



(3) 移動手段

外出する際の移動手段は何ですか。(〇はいくつでも)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「徒歩」が最も高く、一般高齢者で 81.4%、要支援者・事業対象者で 68.4%となっている。次いで、一般高齢者では「自動車」が 44.0%、「電車」が 42.1%となっており、要支援者・事業対象者では「路線バス」が 36.0%、「タクシー」が 26.5%となっている。



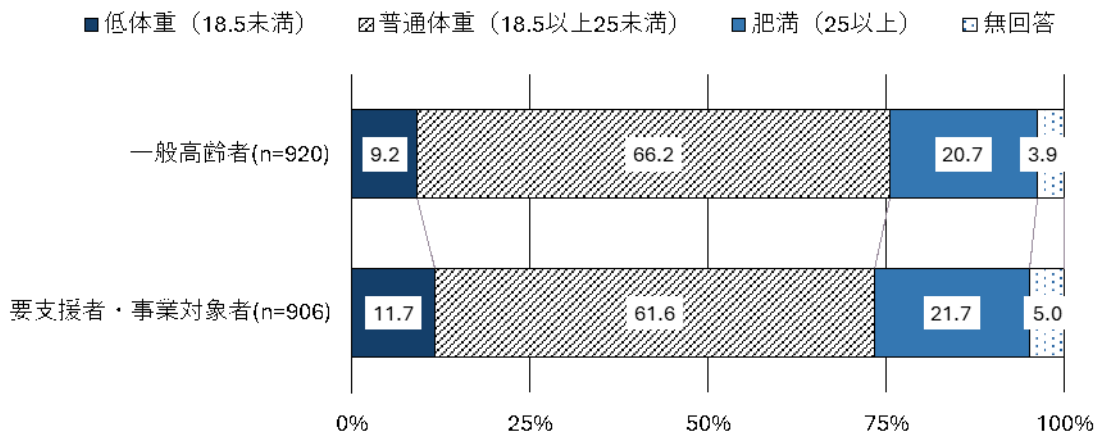
3. 食べることについて

(1) BMI

身長・体重を教えてください。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「普通体重」が最も高く、一般高齢者で 66.2%、要支援者・事業対象者で 61.6%となっている。

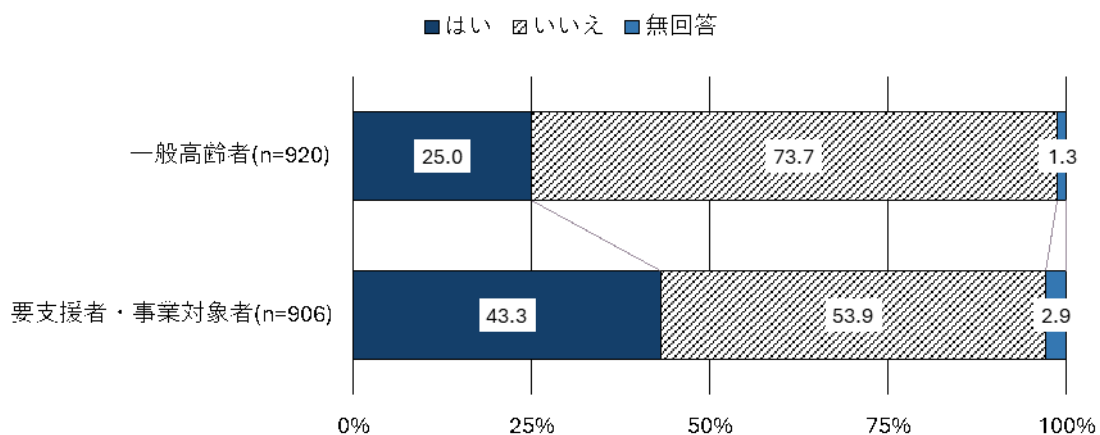
「低体重」は要支援者・事業対象者が 11.7%で、一般高齢者の 9.2%を 2.5 ポイント上回っている。



(2) 口腔機能の状況

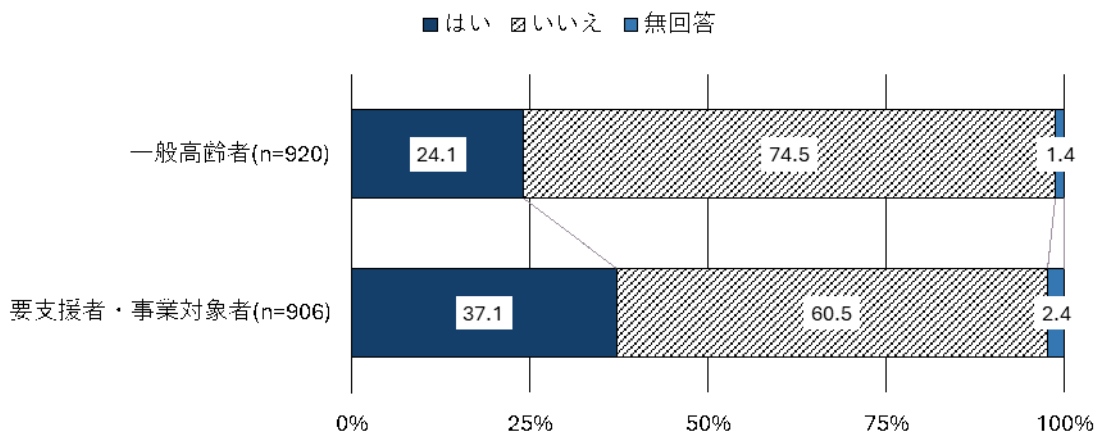
半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。

要支援者・事業対象者の「はい」が 43.3%で、一般高齢者の 25.0%を 18.3 ポイント上回っている。



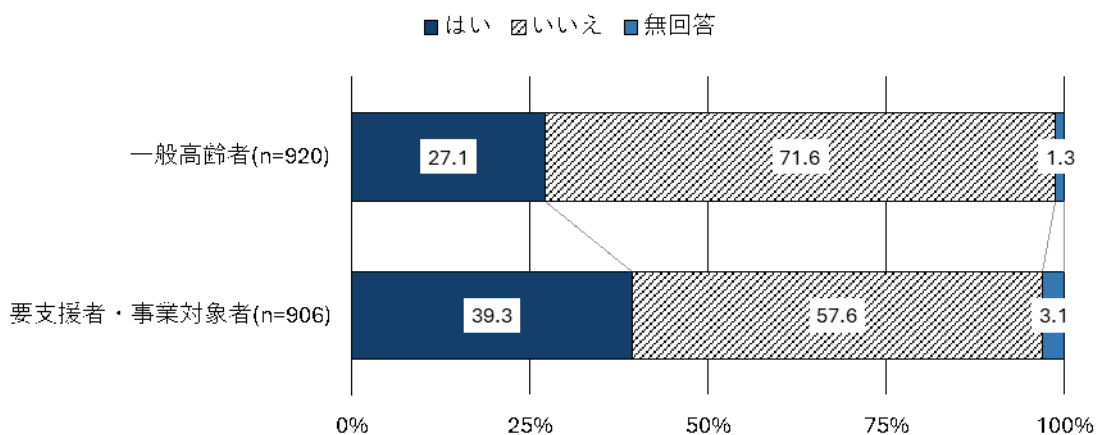
お茶や汁物等でむせることがありますか。

「はい」は要支援者・事業対象者が 37.1%で、一般高齢者の 24.1%を 13.0 ポイント上回っている。



口の渇きが気になりますか。

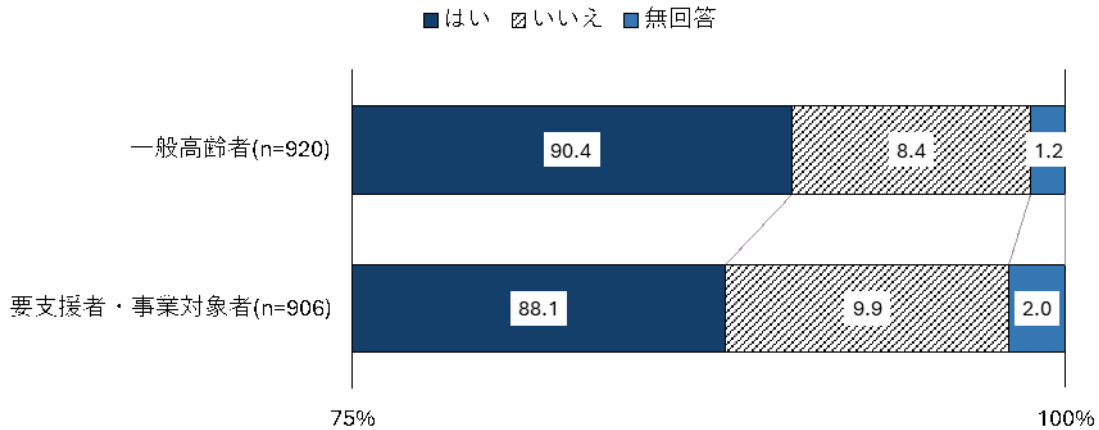
「はい」は要支援者・事業対象者が 39.3%で、一般高齢者の 27.1%を 12.2 ポイント上回っている。



(3) 口腔ケアの状況

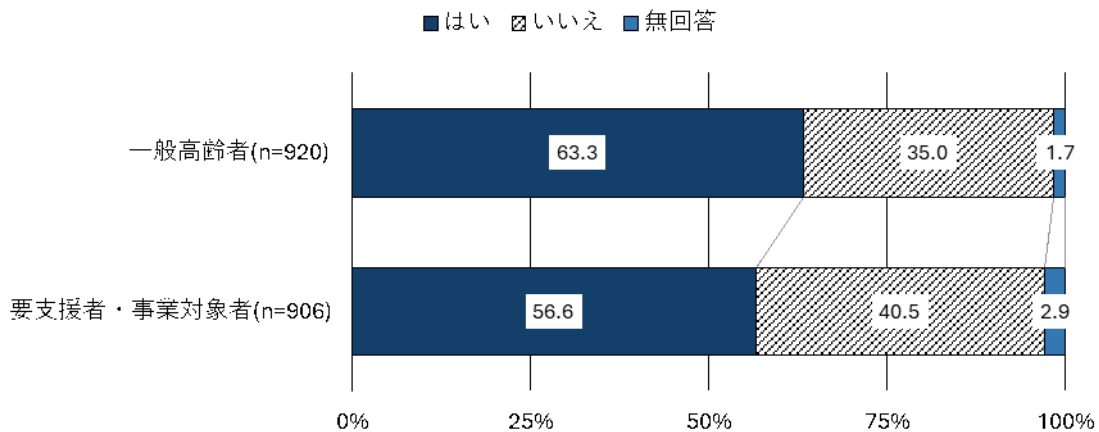
歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日していますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「はい」が最も高く、一般高齢者で 90.4%、要支援者・事業対象者で 88.1%となっている。



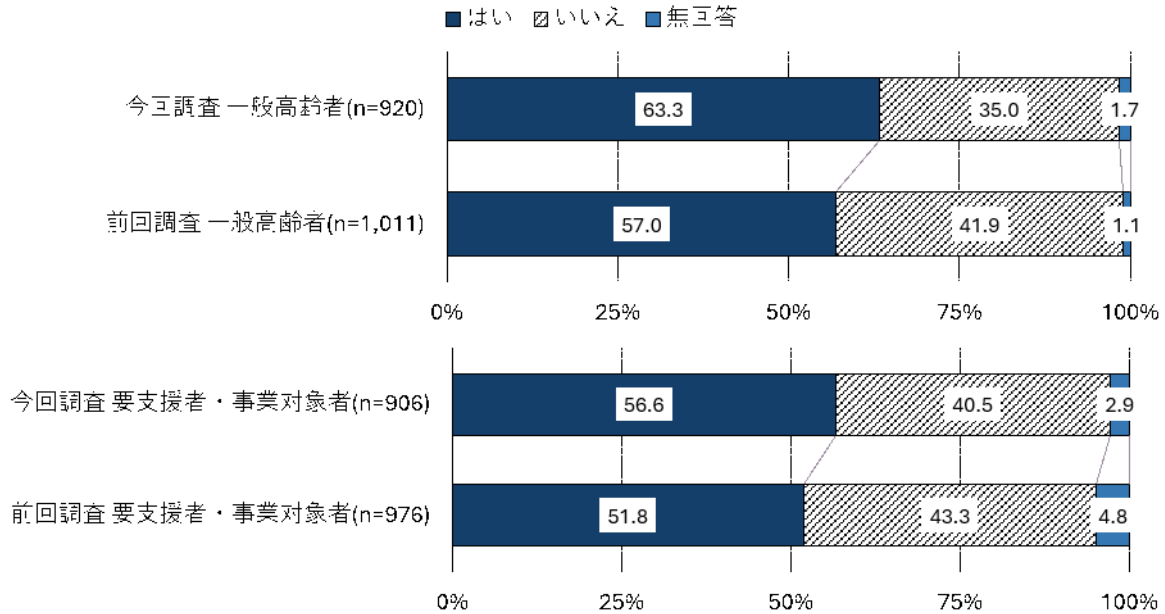
定期的に歯科を受診(※健診を含む)していますか。

「はい」は一般高齢者が 63.3%で、要支援者・事業対象者の 56.6%を 6.7 ポイント上回っている。



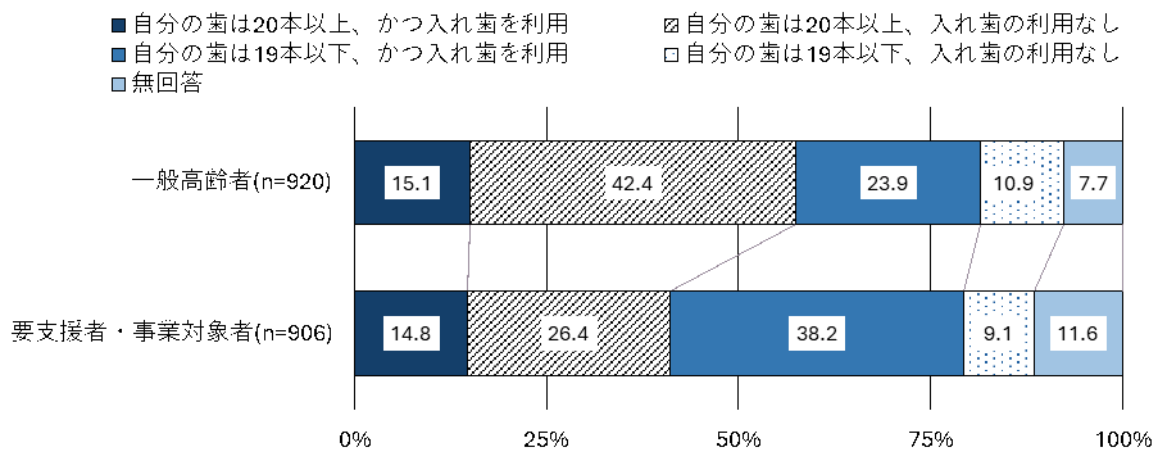
【経年比較】

前回調査と比較すると、一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに受診していると回答した割合が5ポイント前後上昇している。



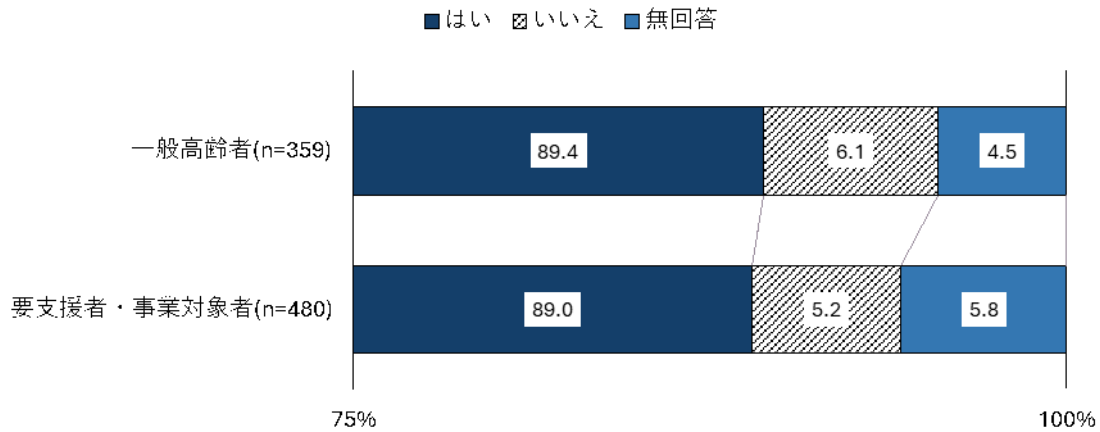
歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。

一般高齢者では、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が42.4%と最も高く、要支援者・事業対象者では「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が38.2%と最も高くなっている。



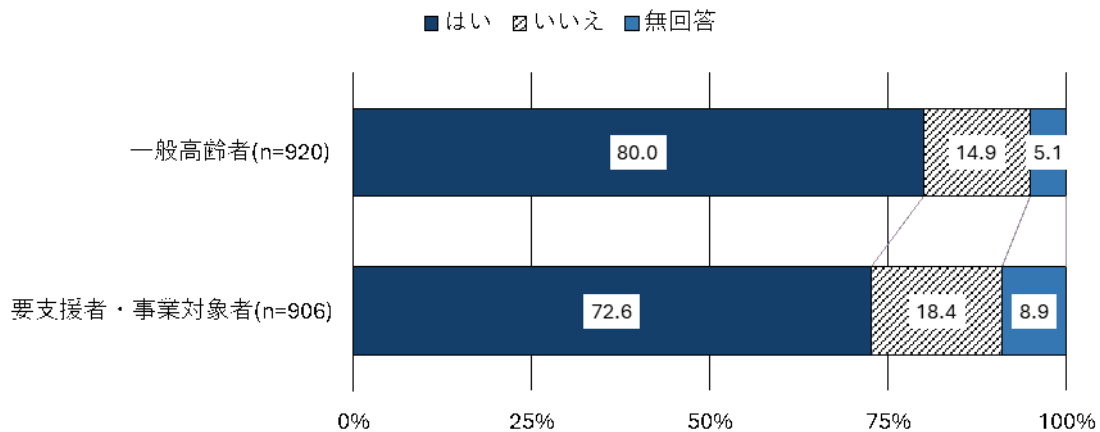
(入れ歯を利用している方)毎日入れ歯の手入れをしていますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「はい」が約9割となっている。



噛み合わせは良いですか。

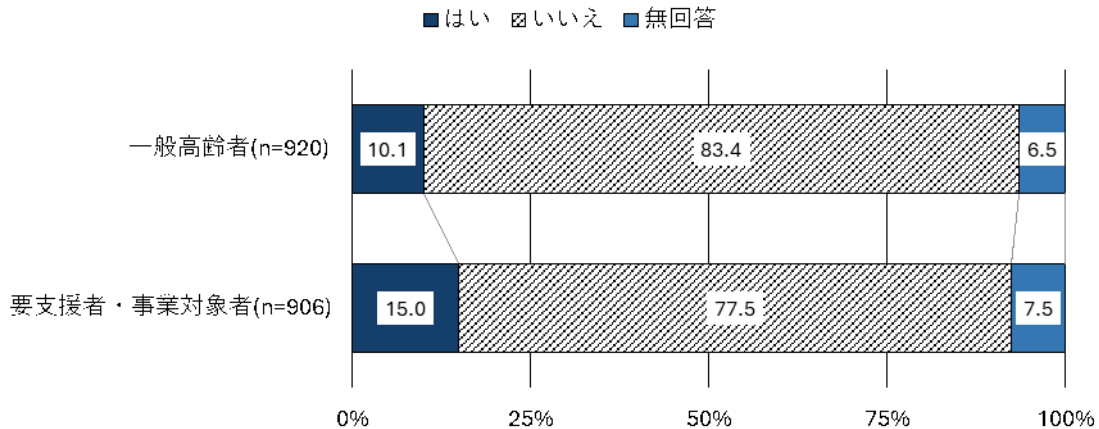
「はい」は一般高齢者が80.0%で、要支援者・事業対象者の72.6%を7.4ポイント上回っている。



(4) 体重減少の状況

6 か月で 2～3kg の体重減少がありましたか。

「はい」は要支援者・事業対象者が 15.0%で、一般高齢者の 10.1%を 4.9 ポイント上回っている。

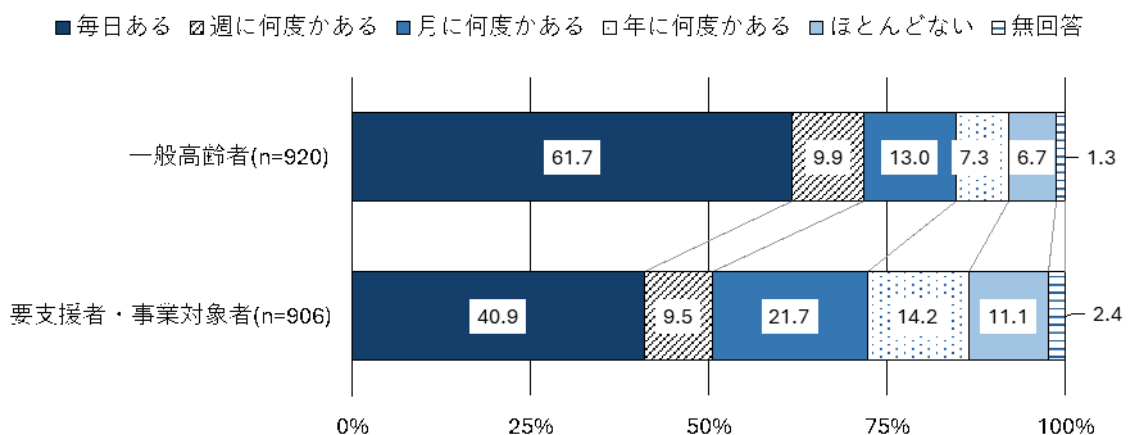


(5) 共食の状況

どなたかと食事をとにもする機会がありますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「毎日ある」が最も高く、一般高齢者で 61.7%、要支援者・事業対象者で 40.9%となっている。

「毎日ある」は一般高齢者が 61.7%で、要支援者・事業対象者の 40.9%を 20.8 ポイント上回っている。



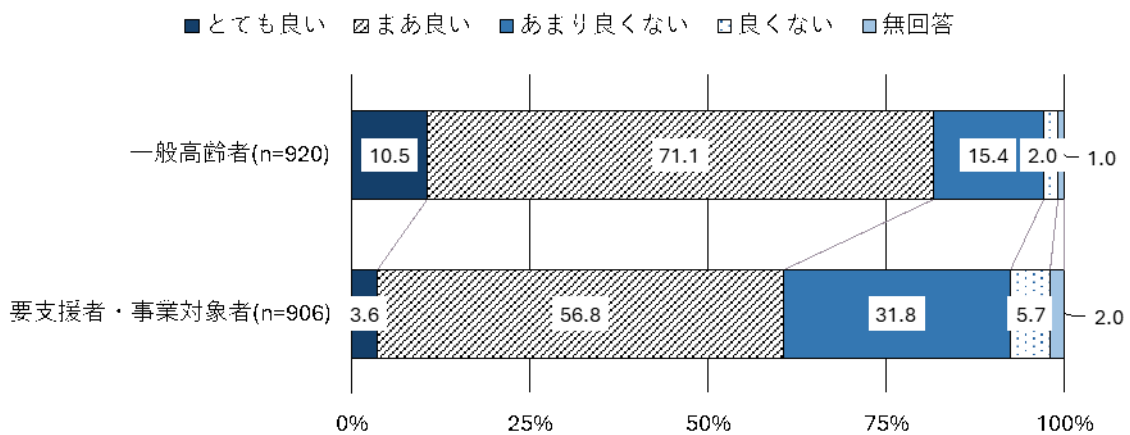
4. 健康について

(1) 主観的健康観

あなたの健康状態はいかがですか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「まあ良い」が最も高く、一般高齢者で 71.1%、要支援者・事業対象者で 56.8%となっている。

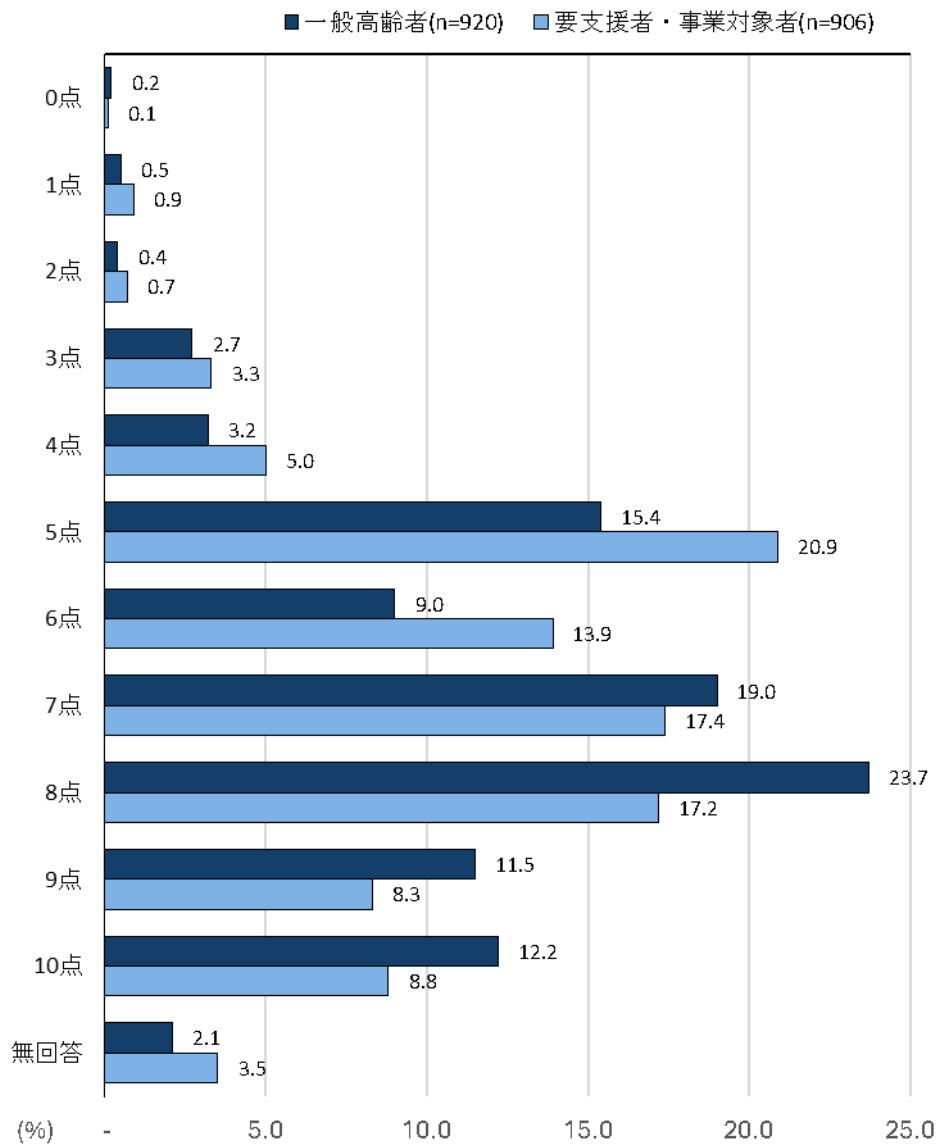
「あまり良くない」は要支援者・事業対象者が 31.8%で、一般高齢者の 15.4%を 16.4 ポイント上回っている。



(2) 主観的幸福感

あなたは、現在どの程度幸せですか。

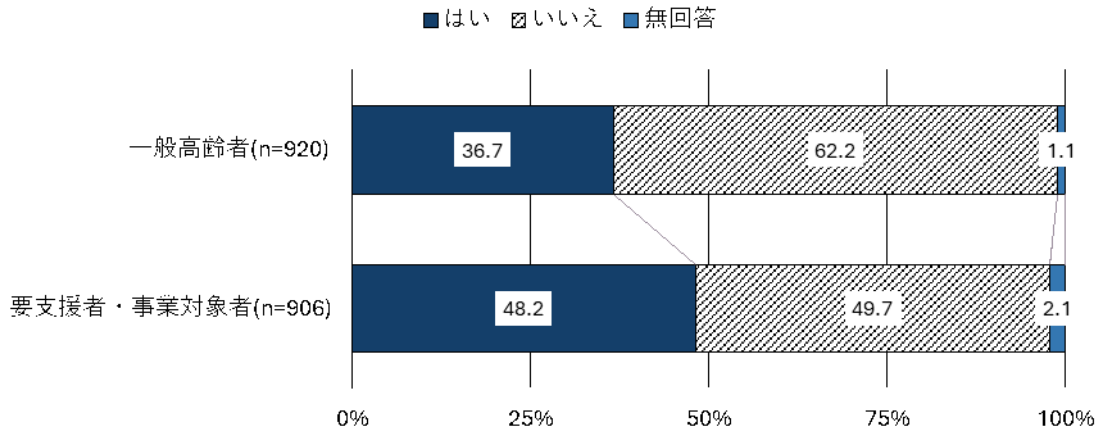
一般高齢者では「8点」が23.7%と最も高く、要支援者・事業対象者では「5点」が20.9%と最も高くなっている。



(3) うつ傾向

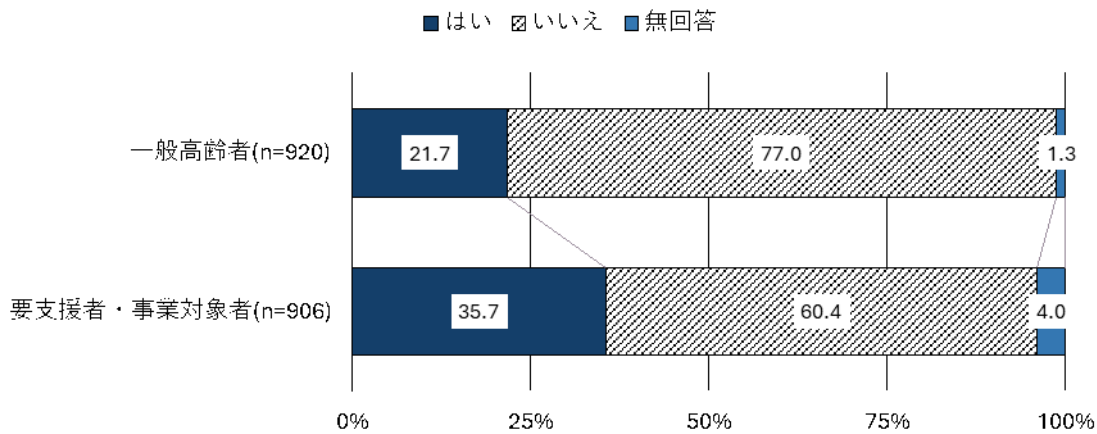
この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。

「はい」は要支援者・事業対象者が48.2%で、一般高齢者の36.7%を11.5ポイント上回っている。



この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。

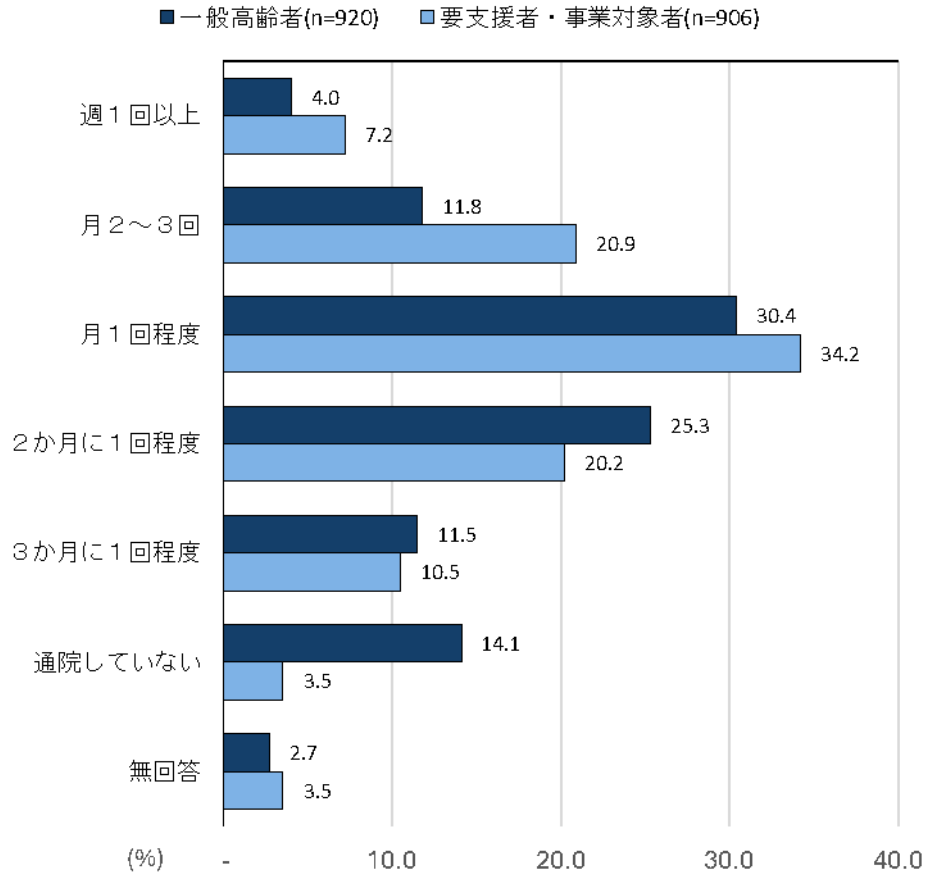
「はい」は要支援者・事業対象者が35.7%で、一般高齢者の21.7%を14.0ポイント上回っている。



(4) 通院の状況

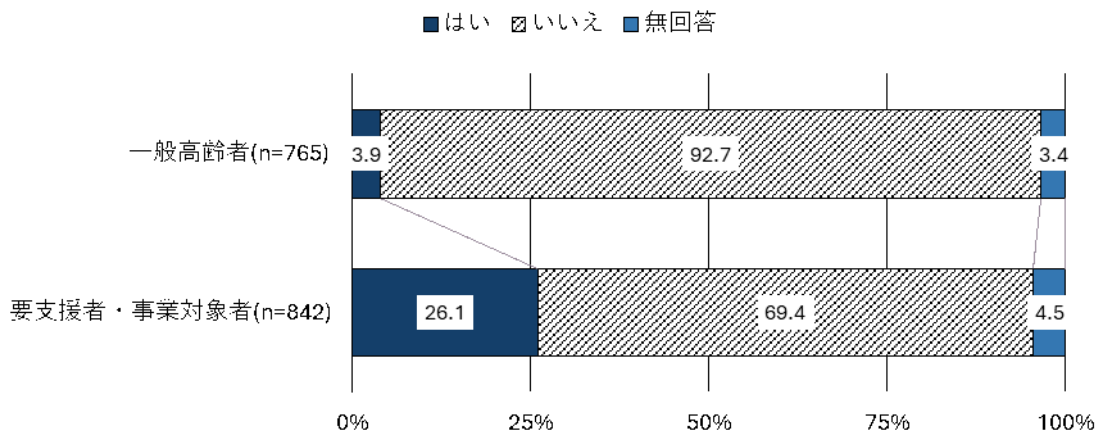
現在、病院・医院(診療所・クリニック)に通院していますか。また、その頻度はどれくらいですか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「月1回程度」が最も高く、一般高齢者で30.4%、要支援者・事業対象者で34.2%となっている。



(通院している方)通院に介助が必要ですか。

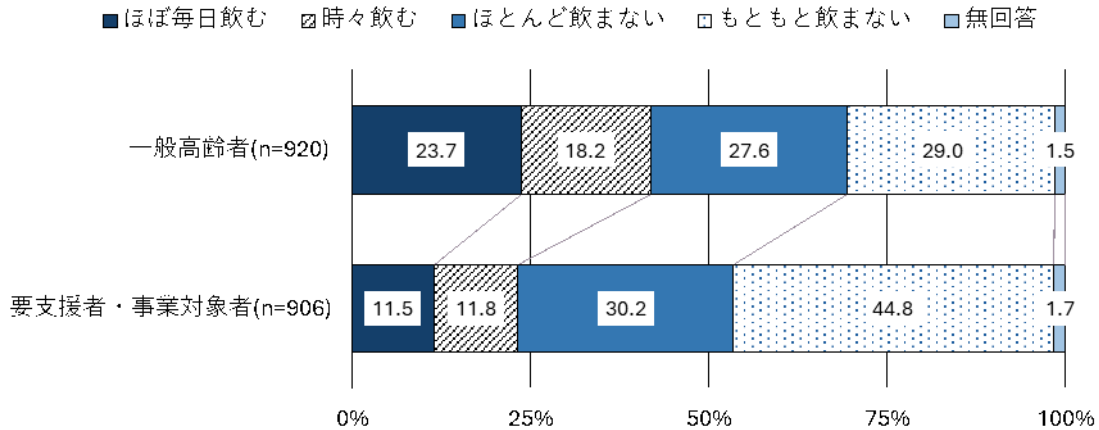
「はい」は要支援者・事業対象者が26.1%で、一般高齢者の3.9%を22.2ポイント上回っている。



(5) 飲酒習慣

お酒は飲みますか。

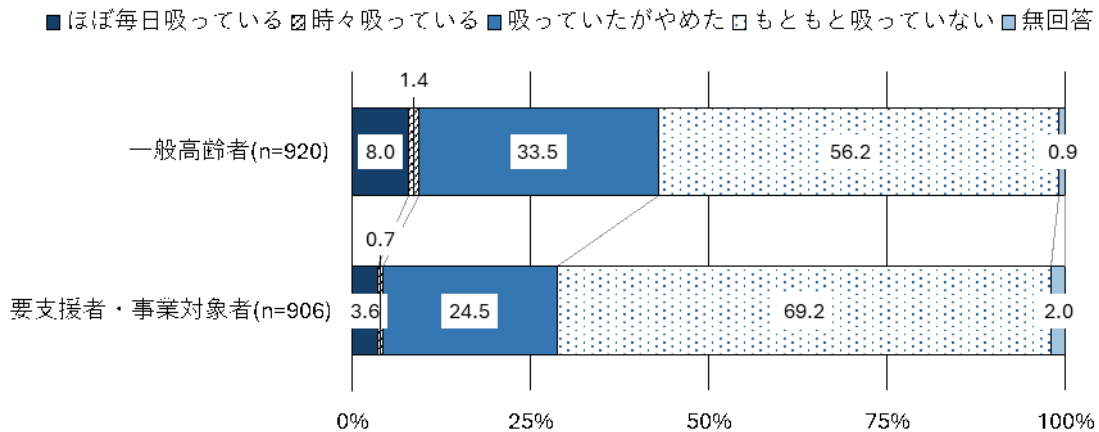
一般高齢者と要支援者・事業対象者でともに「もともと飲まない」が最も高く、一般高齢者では29.0%で要支援者・事業対象者では44.8%となっている。



(6) 喫煙習慣

タバコは吸っていますか。

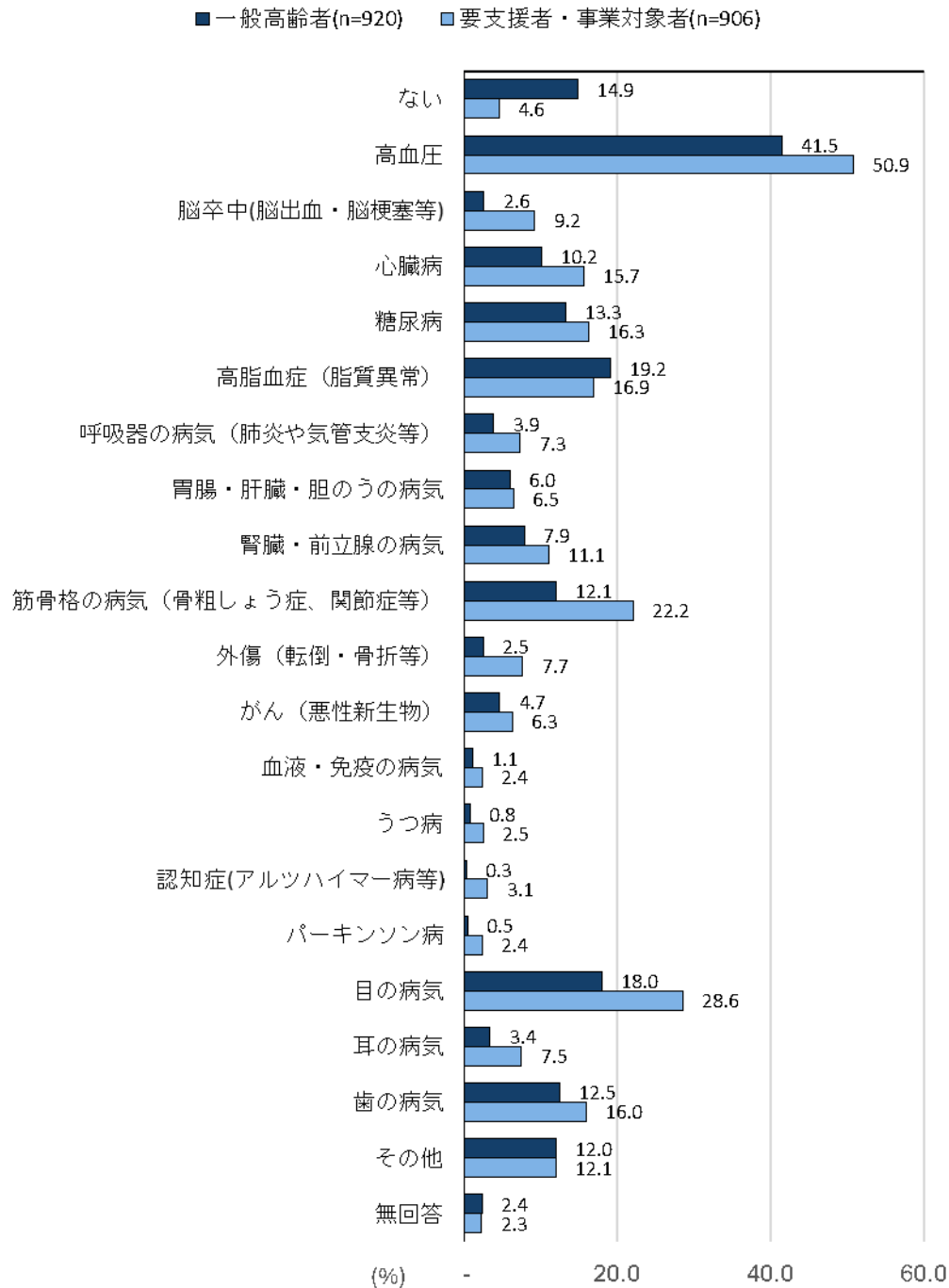
一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「もともと吸っていない」が最も高く、一般高齢者で56.2%、要支援者・事業対象者で69.2%となっている。



(7) 治療中や後遺症のある病気

現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(〇はいくつでも)

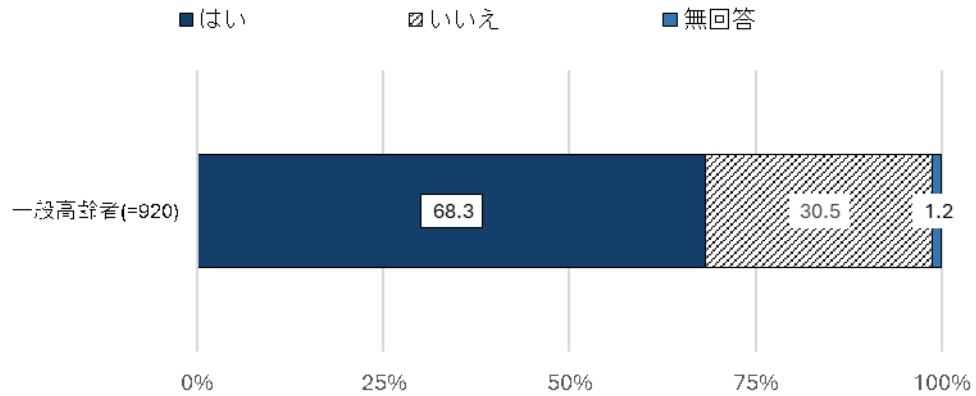
一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「高血圧」が最も高く、一般高齢者で 41.5%、要支援者・事業対象者で 50.9%となっており、要支援者・事業対象者が 9.4 ポイント上回っている。次いで、一般高齢者では「高脂血症」が 19.2%、「目の病気」が 18.0%となっており、要支援者・事業対象者では、「目の病気」が 28.6%、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」が 22.2%となっている。



(8) 健康診査、がん検診の状況(一般高齢者のみ)

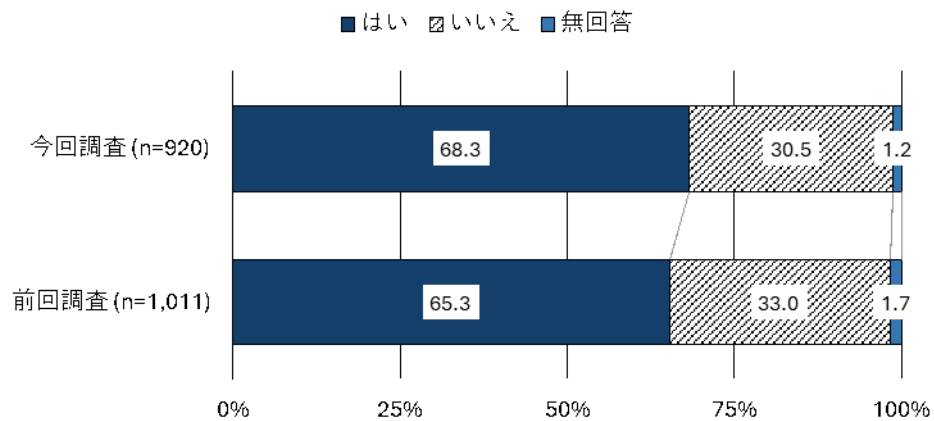
あなたは、1年以内に健康診査を受けましたか。

「はい」が68.3%、「いいえ」が30.5%となっている。



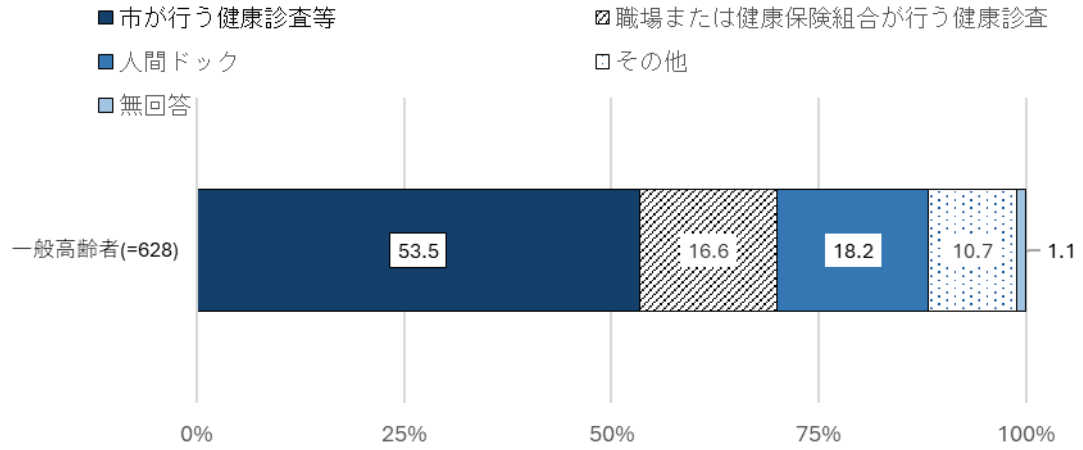
【経年比較】

前回調査と比較すると、受診割合がわずかに上昇している。



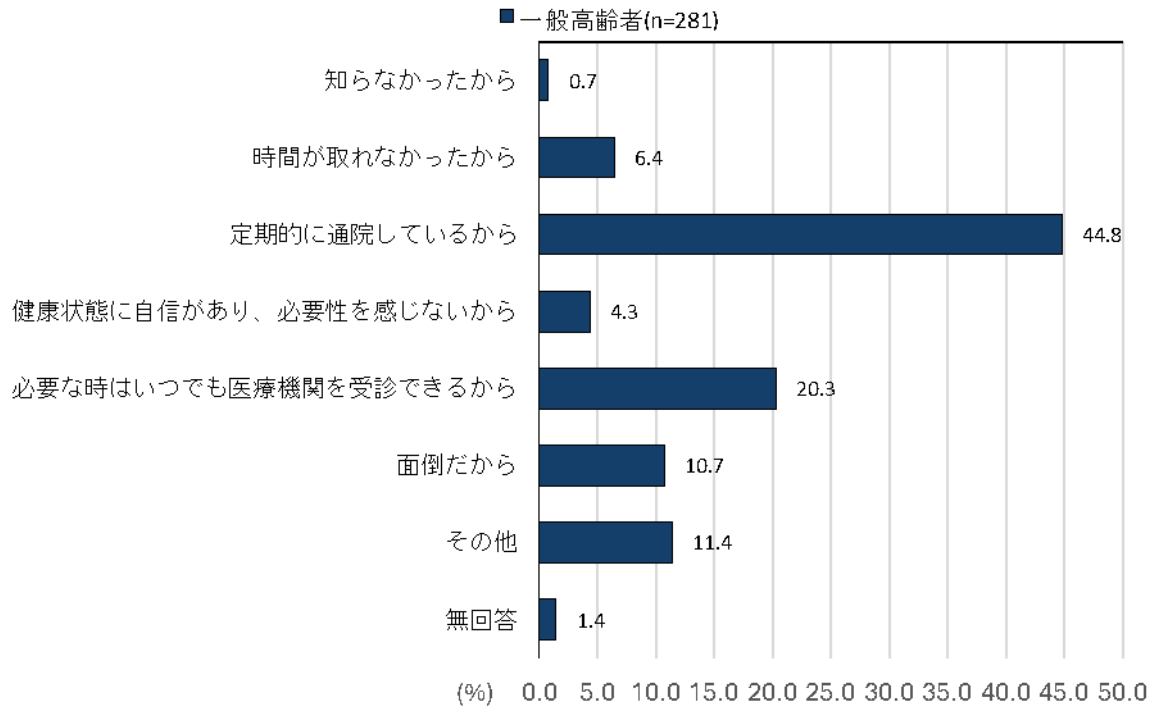
(1年以内に健康診査を受けた方)どちらで健康診査を受けましたか。

「市が行う健康診査等」が53.5%と最も高く、次いで「人間ドック」18.2%、「職場または健康保険組合」16.6%となっている。



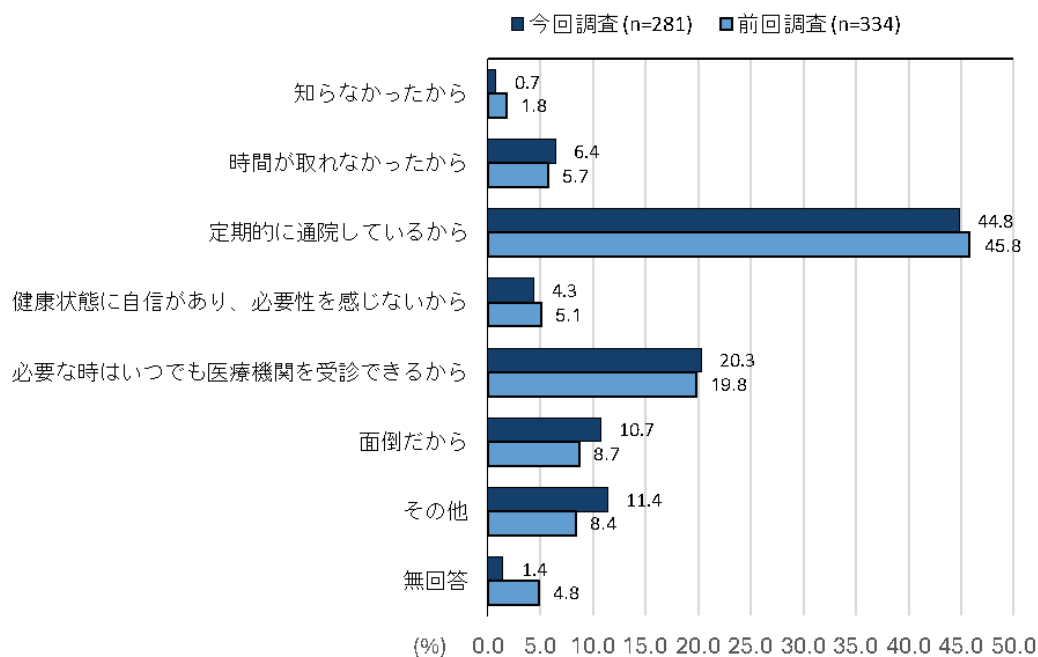
(1年以内に健康診査を受けてない方)健康診査を受けなかった理由は何ですか。

「定期的に通院しているから」が44.8%と最も高く、次いで「必要な時はいつでも医療機関を受診できるから」が20.3%、「面倒だから」が10.7%となっている。



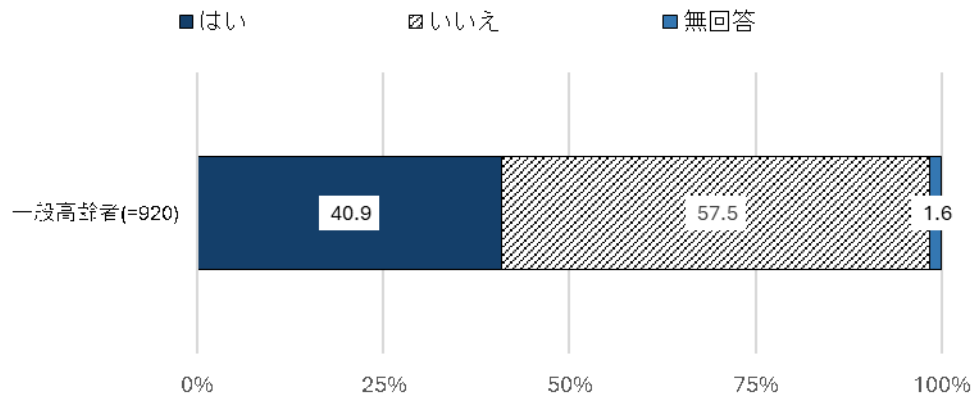
【経年比較】

前回調査と比較しても、概ね同程度の結果となっている。



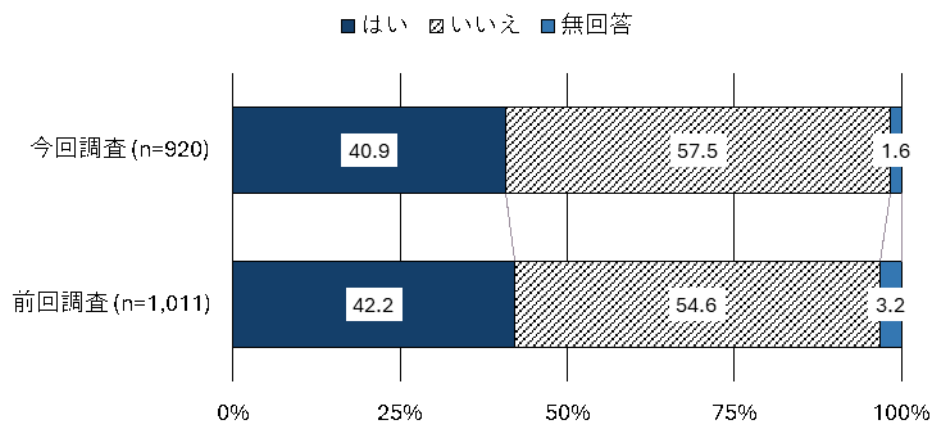
あなたは、1年以内にがん検診を受けましたか。

「受けた」が40.9%、「受けていない」が57.5%となっている。



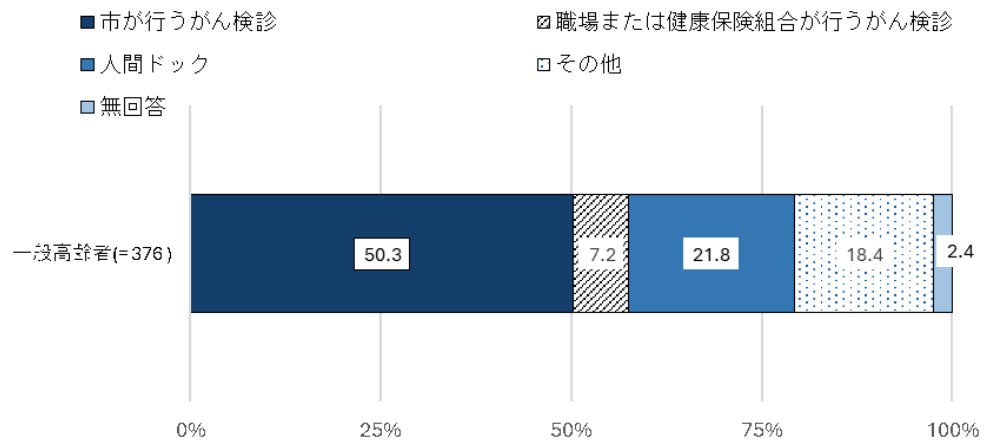
【経年比較】

前回調査と比較すると大きな差は見られないが、受診割合がわずかに下がっている。



(1年以内にがん検診を受けた方)どちらでがん検診を受けましたか。

「市が行うがん検診」が50.3%と最も高く、次いで「人間ドック」が21.8%となっている。



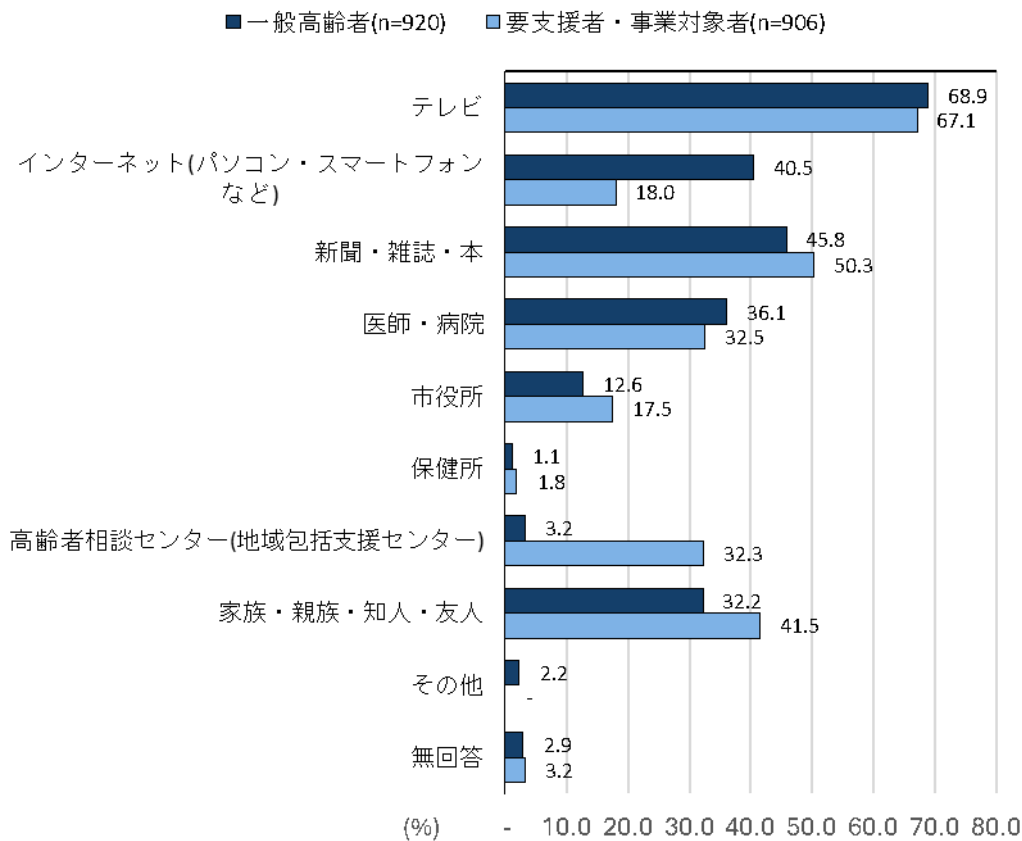
(9) 医療・介護についての知識・情報の入手元

医療や介護についての知識や情報を、何から得ていますか。(〇はいくつでも)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「テレビ」が最も高く、一般高齢者で 68.9%、要支援者・事業対象者で 67.1%となっている。

また、「インターネット」は一般高齢者で 40.5%、要支援者・事業対象者で 18.0%と、一般高齢者が 22.5 ポイント上回っている。

一方、「高齢者相談センター」は一般高齢者で 3.2%、要支援者・事業対象者で 32.3%と、要支援者・事業対象者が 29.1 ポイント上回っている。

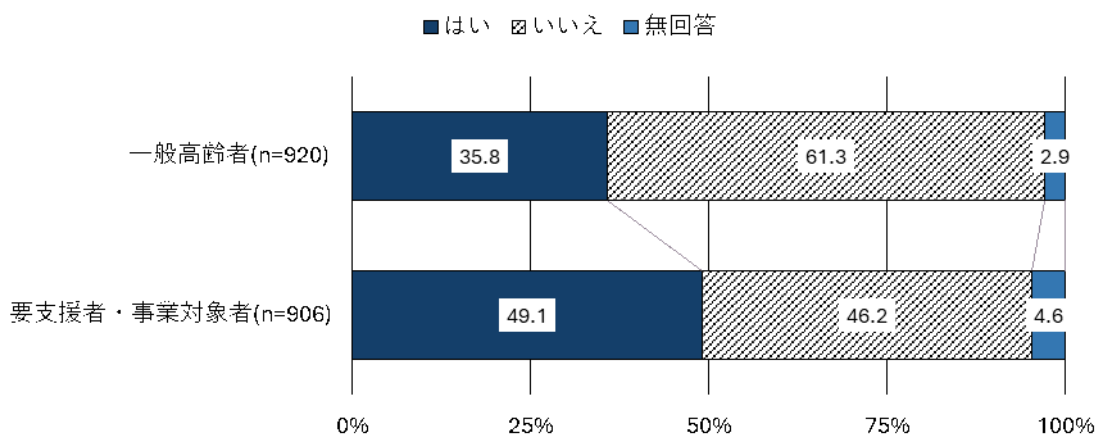


5. 毎日の生活について

(1) 認知機能の状況

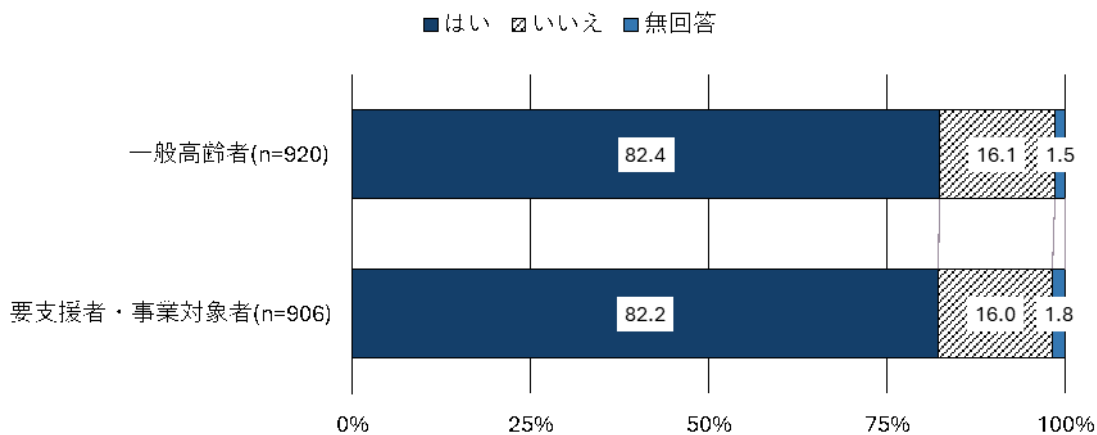
物忘れが多いと感じますか。

一般高齢者では「はい」が35.8%、要支援者・事業対象者では49.1%となっており、要支援者・事業対象者が13.3ポイント上回っている。



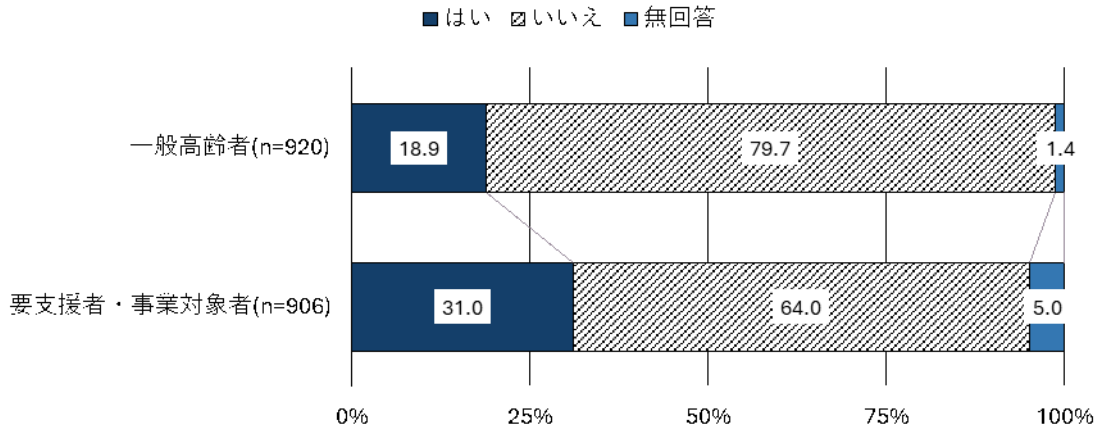
自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「はい」が約82%と同程度となっている。



今日が何月何日かわからない時がありますか。

一般高齢者では「はい」が18.9%、要支援者・事業対象者では31.0%となっており、要支援者・事業対象者が12.1ポイント上回っている。

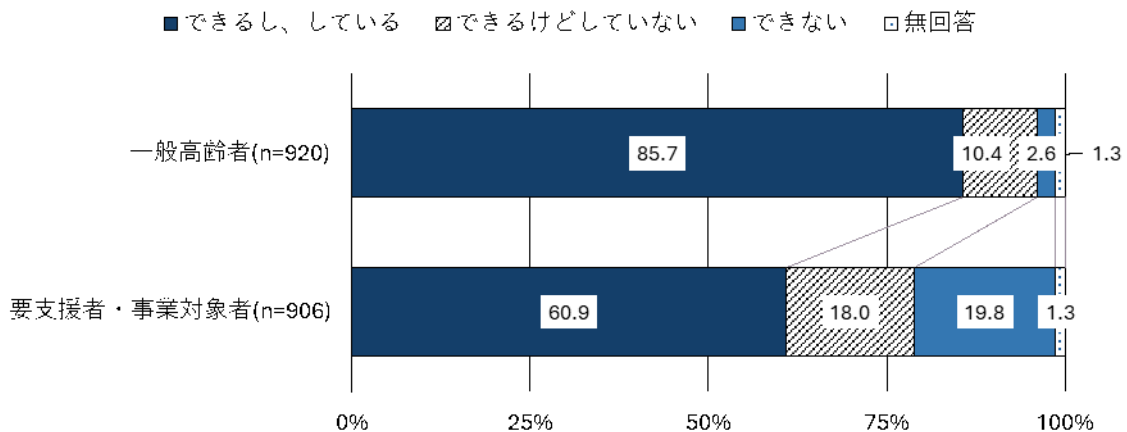


(2) 手段的日常生活動作(IADL)の状況

バスや電車を使って一人で外出していますか(自家用車でも可)。

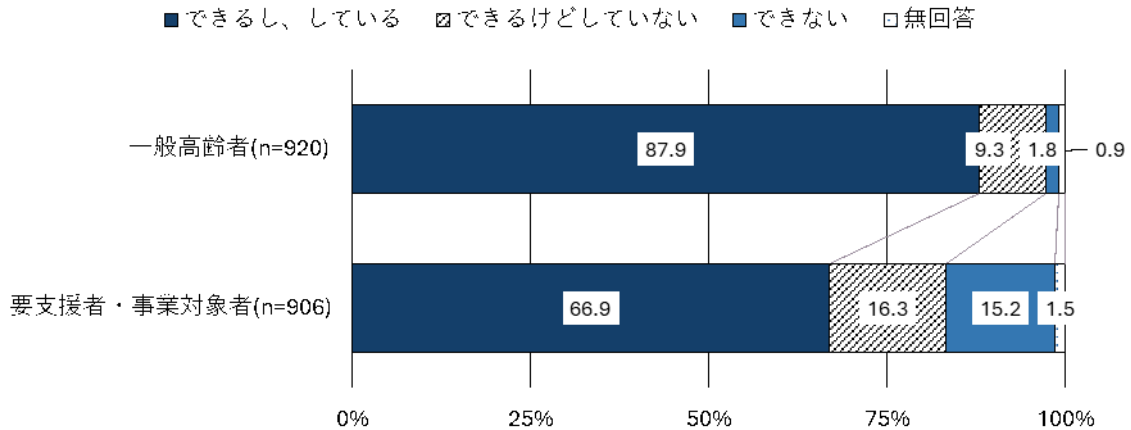
「できるけどしていない」は一般高齢者10.4%に対し、要支援者・事業対象者は18.0%と7.6ポイント上回っている。

一方、「できない」は一般高齢者2.6%に対し、要支援者・事業対象者は19.8%と、17.2ポイント上回っている。



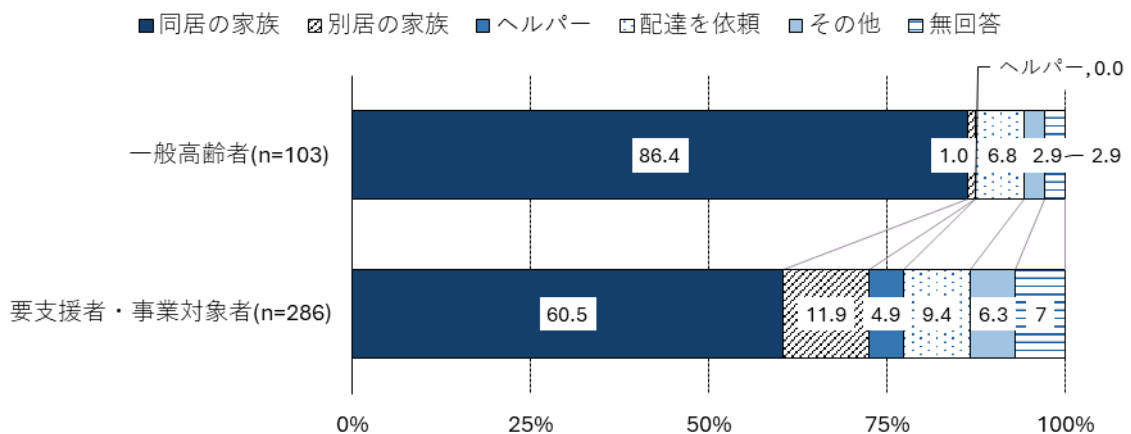
自分で食品・日用品の買い物をしていますか。

「できるけどしていない」は一般高齢者 9.3%に対し要支援者・事業対象者は 16.3%となっており、7 ポイント上回っている。「できない」は一般高齢者 1.8%に対し、要支援者・事業対象者では 15.2%となっており、13.4 ポイント上回っている。



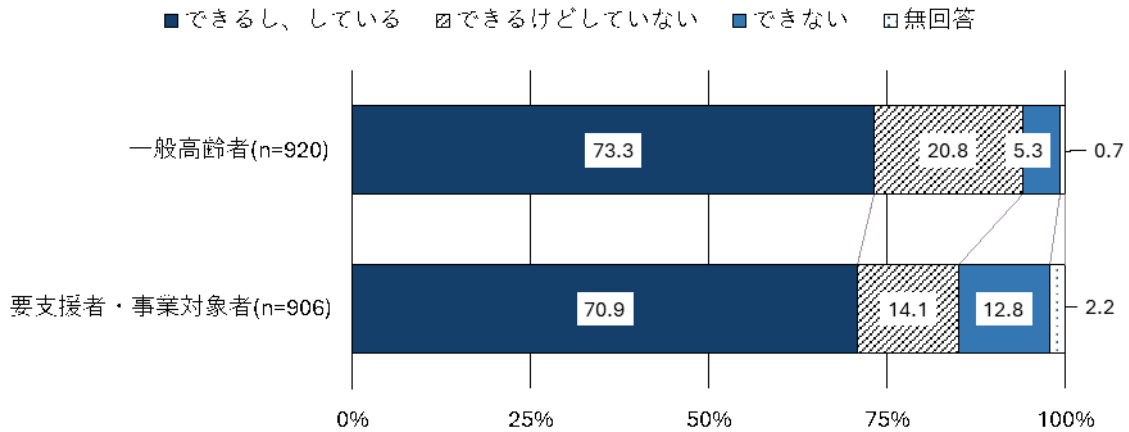
(自分で食品・日用品の買い物をしていない方)食品・日用品の買い物をする人は主にどなたですか。
(○は1つ)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「同居の家族」が最も高く、一般高齢者で 86.4%、要支援者・事業対象者で 60.5%となっており、25.9 ポイントの差がある。要支援者・事業対象者では「別居の家族」、「ヘルパー」、「配達を依頼」の割合が高くなっている。



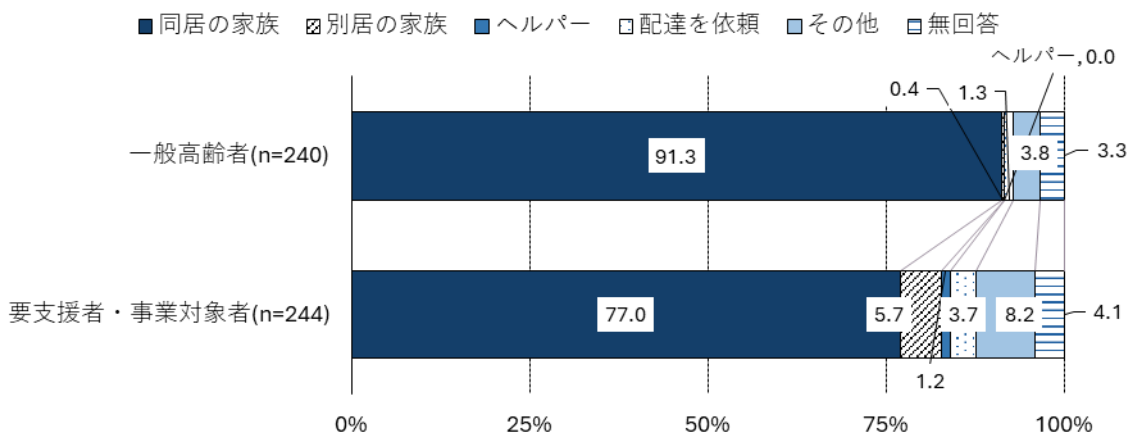
自分で食事の用意をしていますか。

「できるけどしていない」は一般高齢者 20.8%に対し、要支援者・事業対象者は 14.1%と 6.7 ポイントの差がある。「できない」は一般高齢者 5.3%に対し、要支援者・事業対象者では 12.8%となっており、7.5 ポイント上回っている。



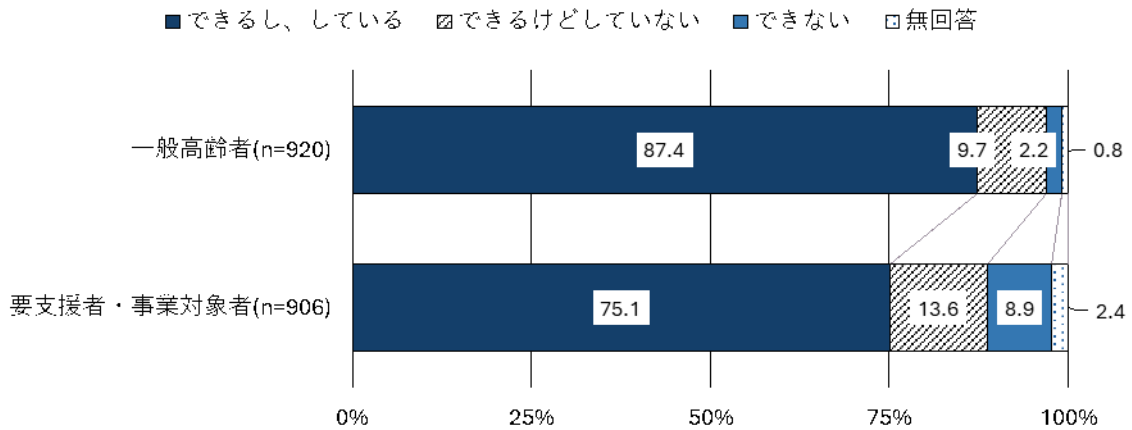
(自分で食事の用意をしていない方)食事の用意をする人は主にどなたですか。
(○はひとつ)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「同居の家族」が最も高く、一般高齢者で 91.3%、要支援者・事業対象者で 77.0%となっている。要支援者・事業対象者は「別居の家族」、「ヘルパー」、「配達を依頼」の割合がそれぞれ高くなっている。



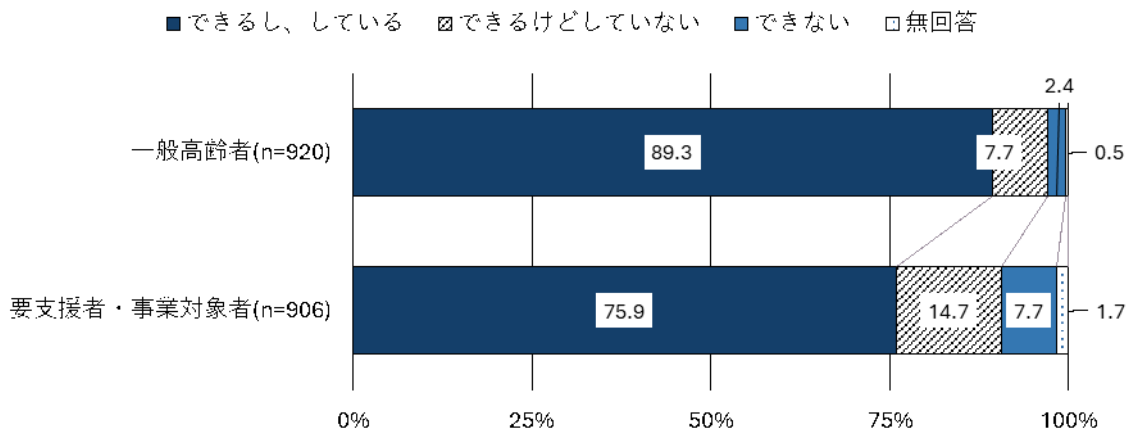
自分で請求書の支払いをしていますか。

「できるけどしていない」は一般高齢者 9.7%に対し要支援者・事業対象者は 13.6%と 3.9 ポイント上回っている。「できない」は一般高齢者 2.2%に対し、要支援者・事業対象者では 8.9%と 6.7 ポイント上回っている。



自分で預貯金の出し入れをしていますか。

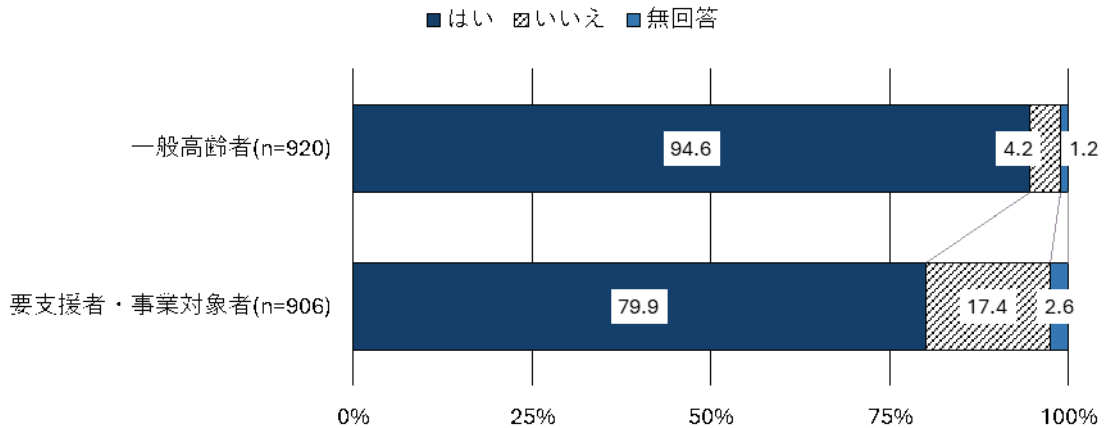
「できるけどしていない」は一般高齢者で 7.7%、要支援者・事業対象者で 14.7%となっており、7 ポイントの差がある。「できない」は一般高齢者 2.4%に対し、要支援者・事業対象者が 7.7%と 5.3 ポイント上回っている。



(3) 知的能動性の状況

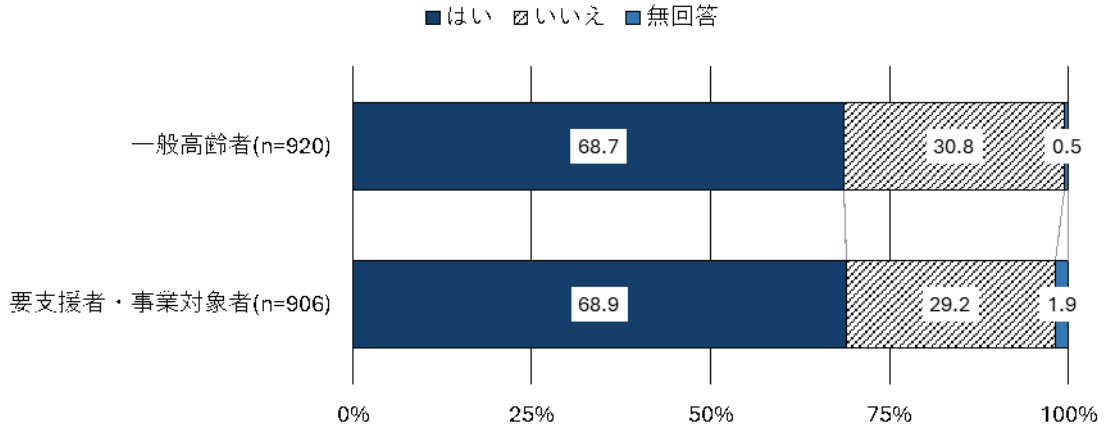
年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「はい」の割合が高い。「いいえ」が一般高齢者 4.2%に対し要支援者・事業対象者が 17.4%と 13.2 ポイント上回っている。



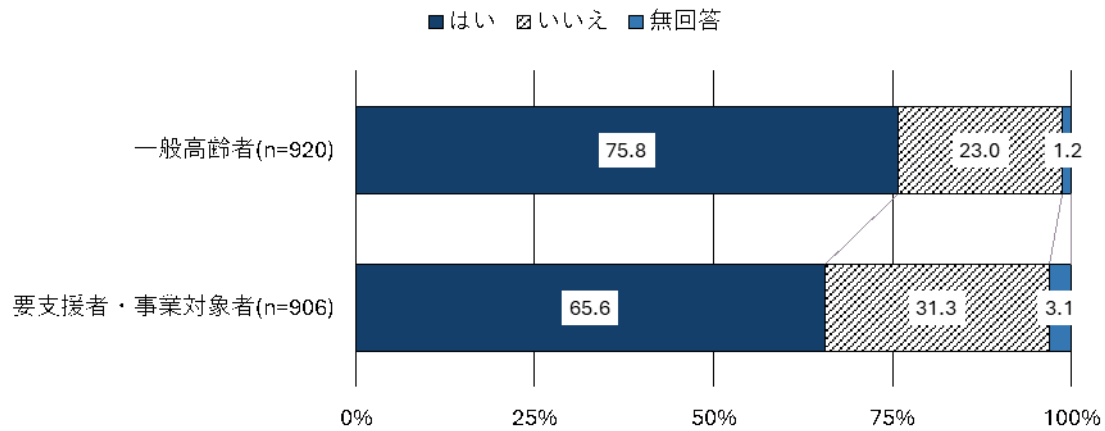
新聞を読んでいますか。

「はい」が一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに 7 割弱となっている。



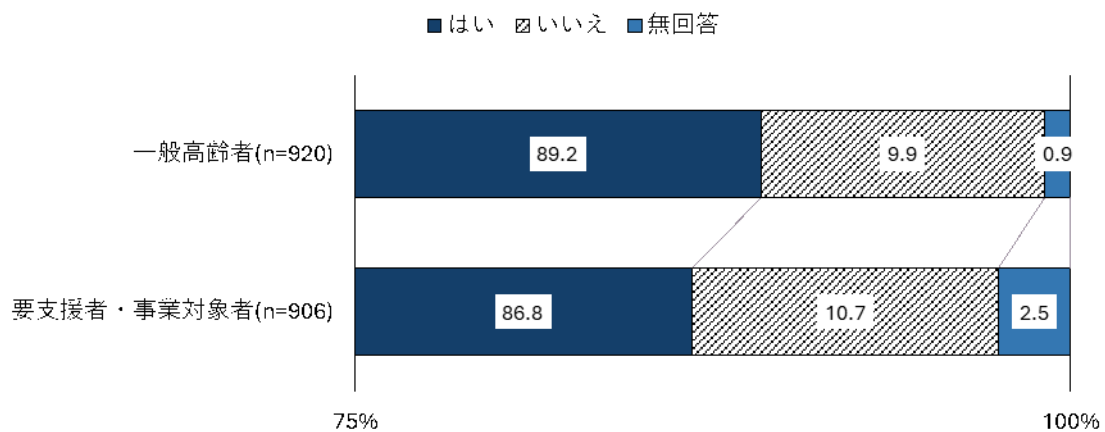
本や雑誌を読んでいますか。

「はい」が一般高齢者で 75.8%、要支援者・事業対象者で 65.6%となっている。



健康についての記事・番組に関心がありますか。

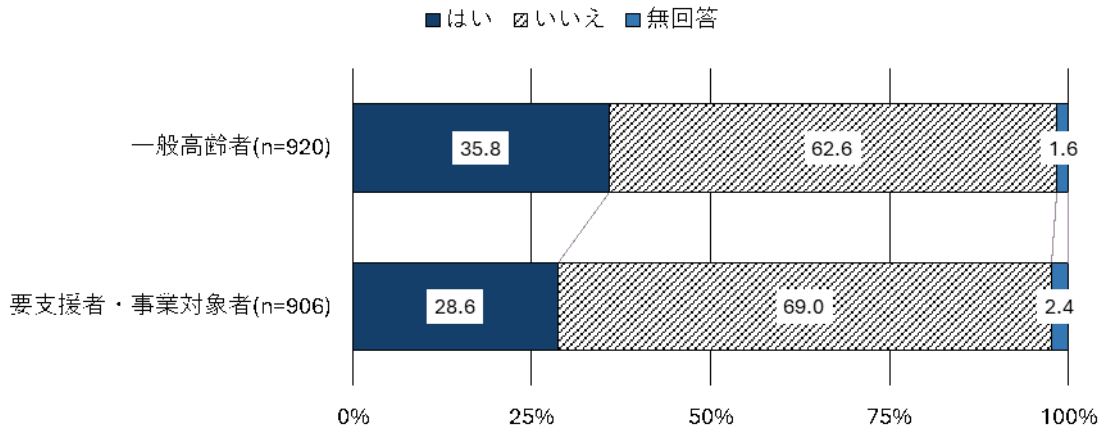
「はい」が一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに 9 割弱となっている。



(4) 他者との関わりの状況

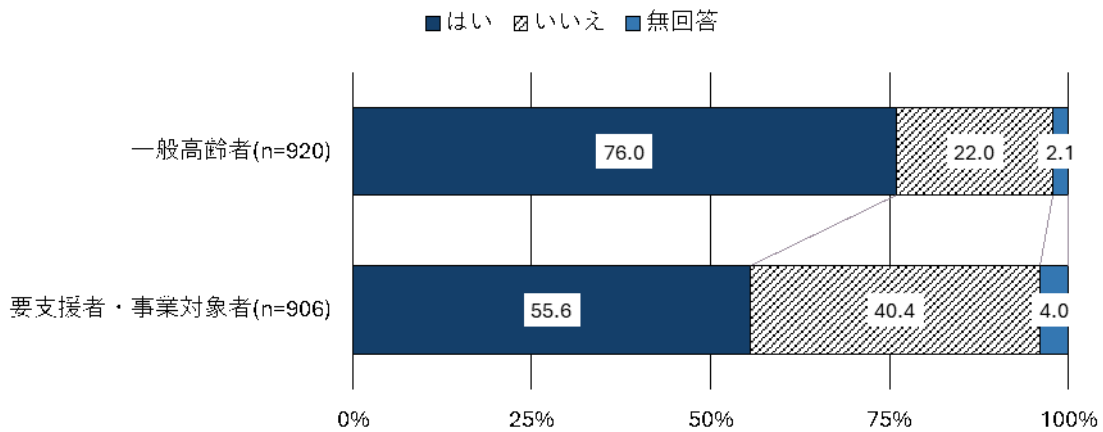
友人の家を訪ねていますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「いいえ」が過半数となっており、一般高齢者に対し要支援者・事業対象者が 6.4 ポイント高い。



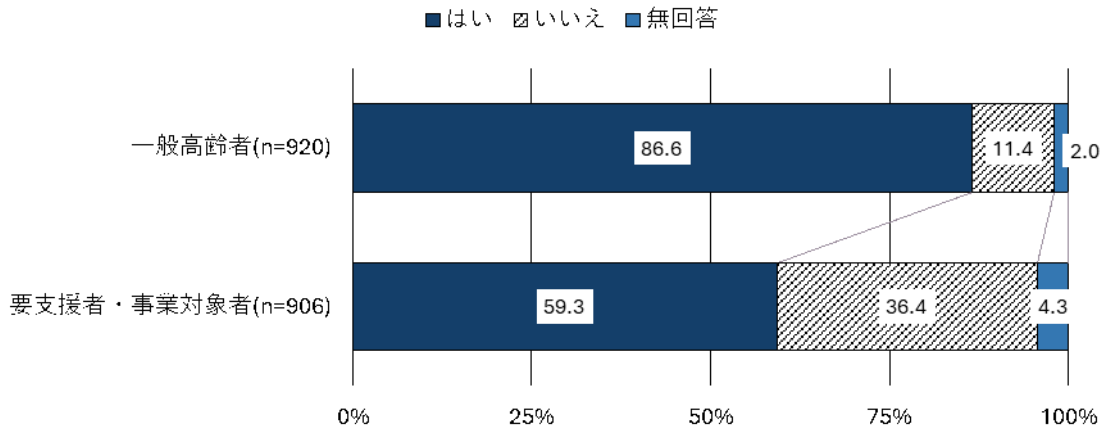
家族や友人の相談にのっていますか。

「はい」が一般高齢者 76.0%に対し要支援者・事業対象者では 55.6%と 20.4 ポイント下回っている。



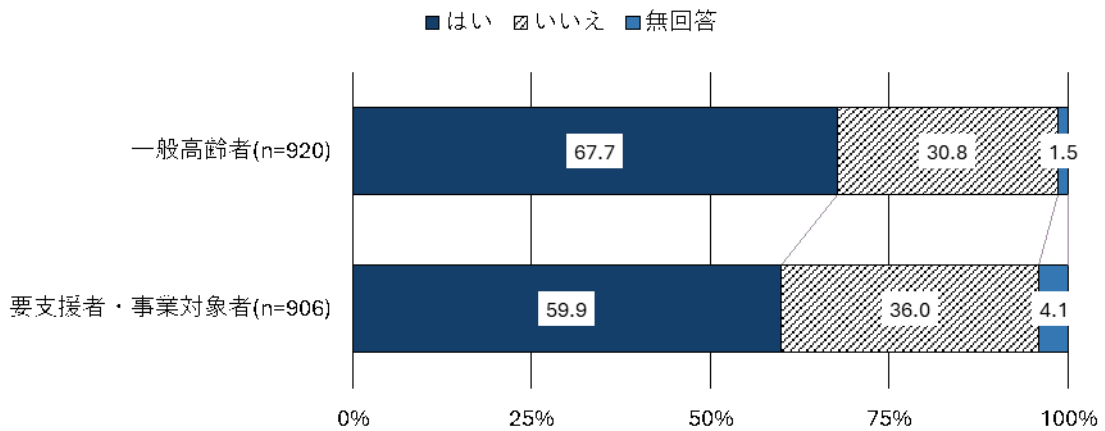
病人を見舞うことができますか。

「はい」が一般高齢者 86.6%に対し、要支援者・事業対象者では 59.3%と 27.3 ポイント下回っている。



若い人に自分から話しかけることがありますか。

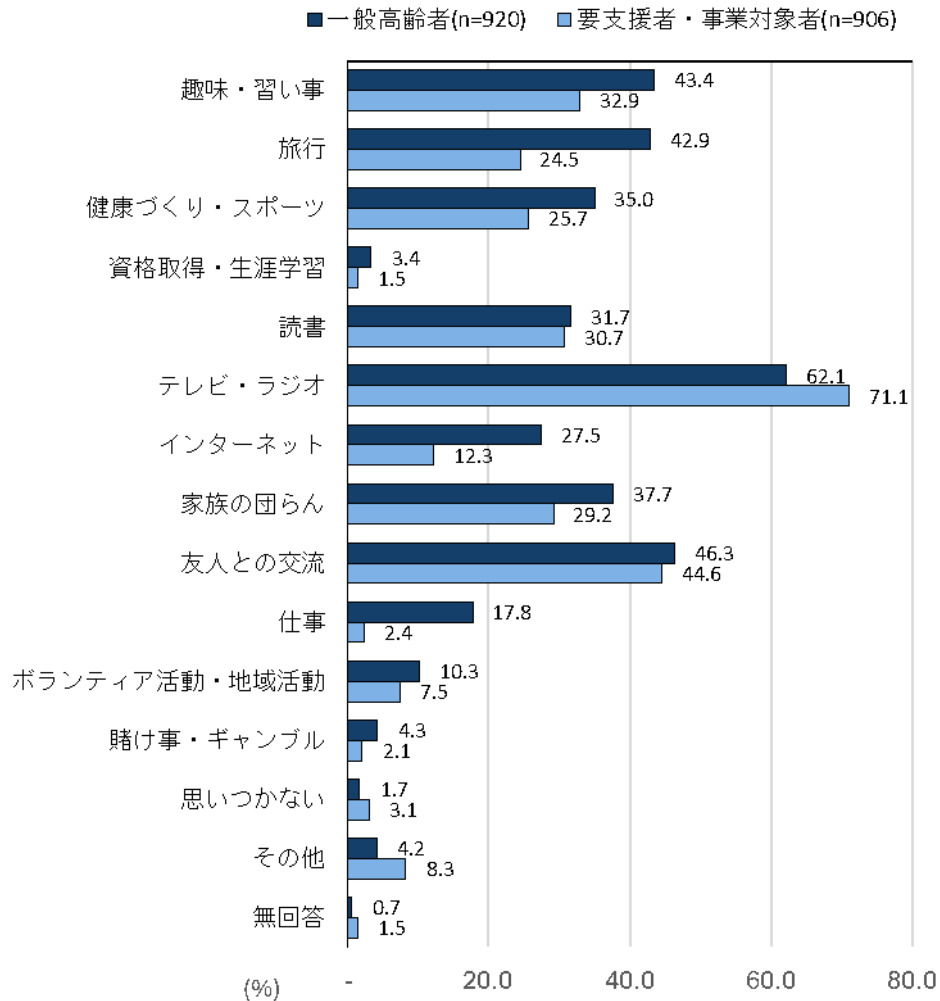
「はい」が一般高齢者 67.7%に対し、要支援者・事業対象者は 59.9%と 7.8 ポイント下回っている。



(5) 楽しみや生きがいの有無

あなたにとっての楽しみや生きがいはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「テレビ・ラジオ」が最も高く、一般高齢者で62.1%、要支援者・事業対象者で71.1%となっている。次いで、「友人との交流」が一般高齢者46.3%、要支援者・事業対象者は44.6%となっている。



6. 地域での活動・ボランティアについて

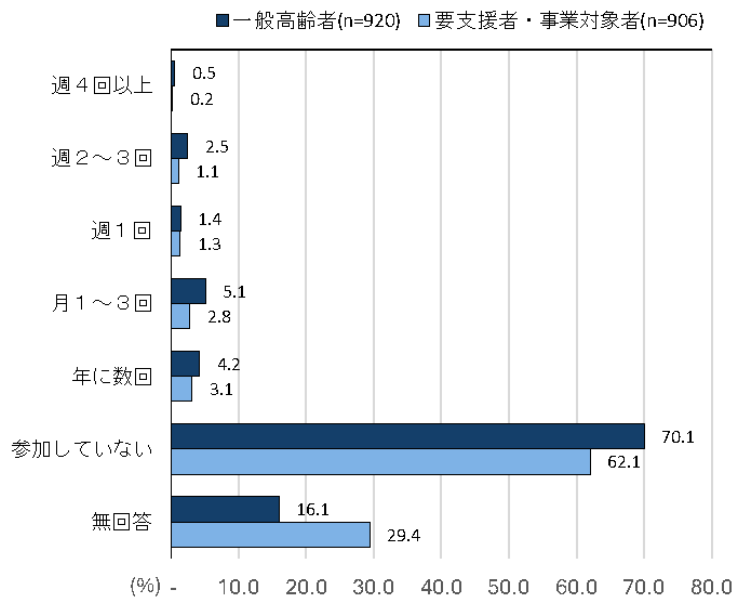
(1) 地域の会・グループ等への参加状況

以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか(個人の活動も含みます)。

①～⑩のすべての活動で、「参加していない」が過半数を占めている。

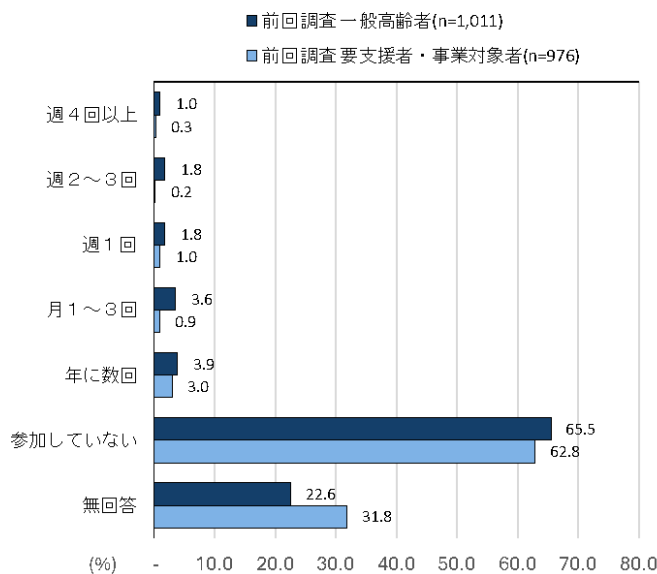
① ボランティア

「週4回以上」～「年に数回」参加している割合が一般高齢者では13.7%、要支援者・事業対象者は8.5%となっている。



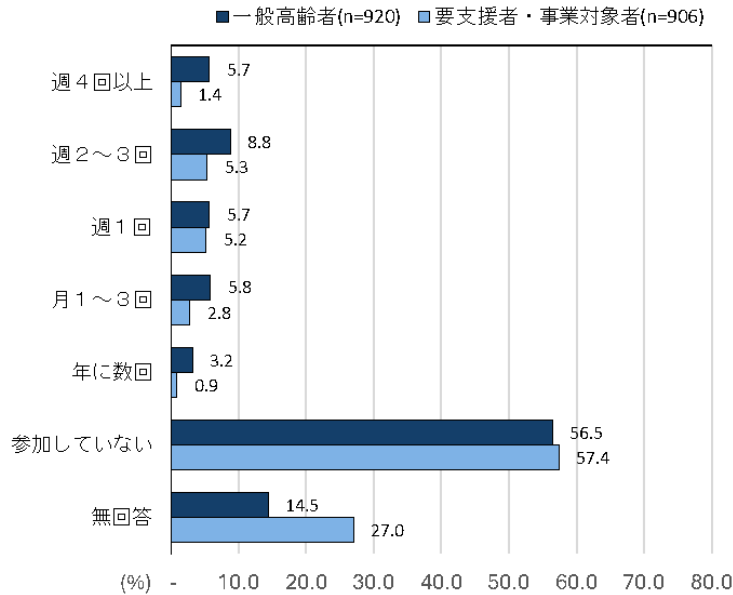
【前回調査】

前回調査における参加割合は一般高齢者で12.1%、要支援者・事業対象者で5.4%であり、今回調査で微増している。



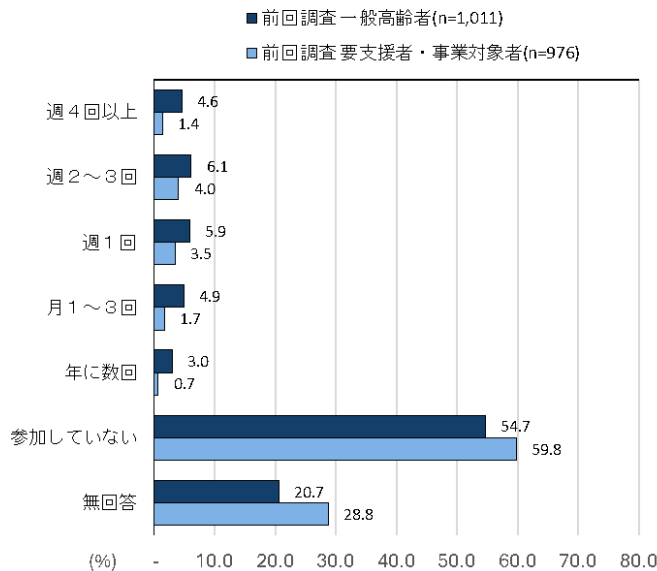
② スポーツ

「週4回以上」～「年に数回」参加している割合が一般高齢者では29.2%、要支援者・事業対象者は15.6%となっている。



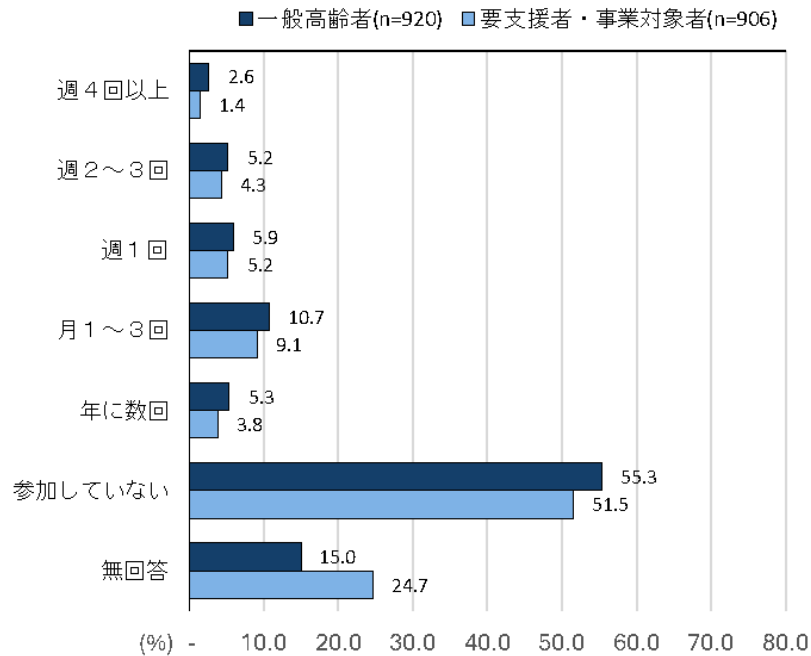
【前回調査】

前回調査における参加割合は一般高齢者で24.5%、要支援者・事業対象者で11.3%であり、今回調査で微増している。



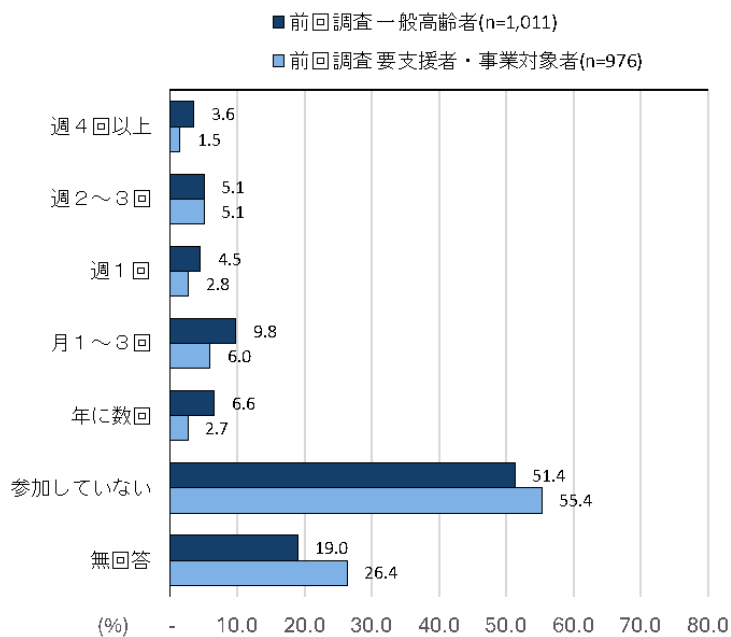
③ 趣味

「週4回以上」～「年に数回」参加している割合が一般高齢者では29.7%、要支援者・事業対象者は23.8%となっている。



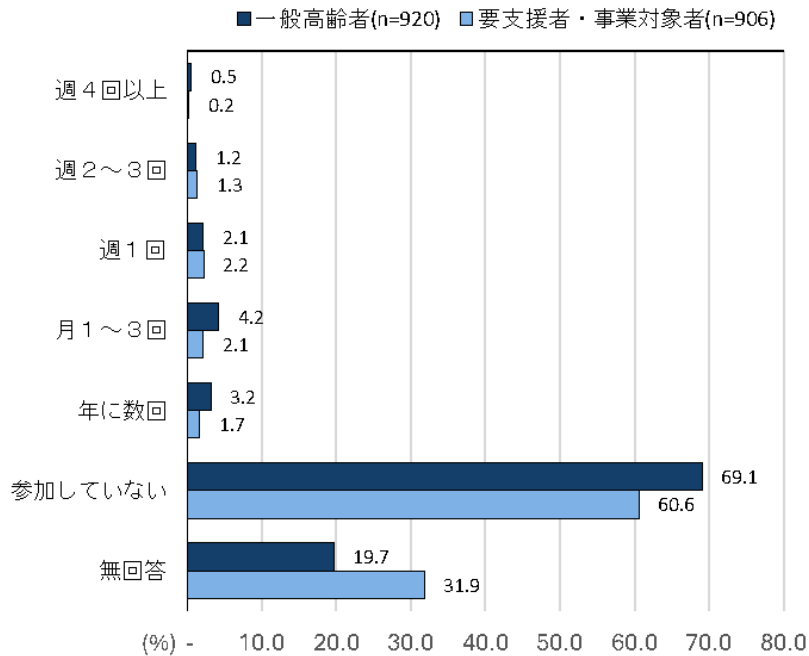
【前回調査】

前回調査における参加割合は一般高齢者では29.6%、要支援者・事業対象者で18.1%であり、今回調査では一般高齢者が同程度である一方、要支援者・事業対象者は前回より5.7ポイント高くなっている。



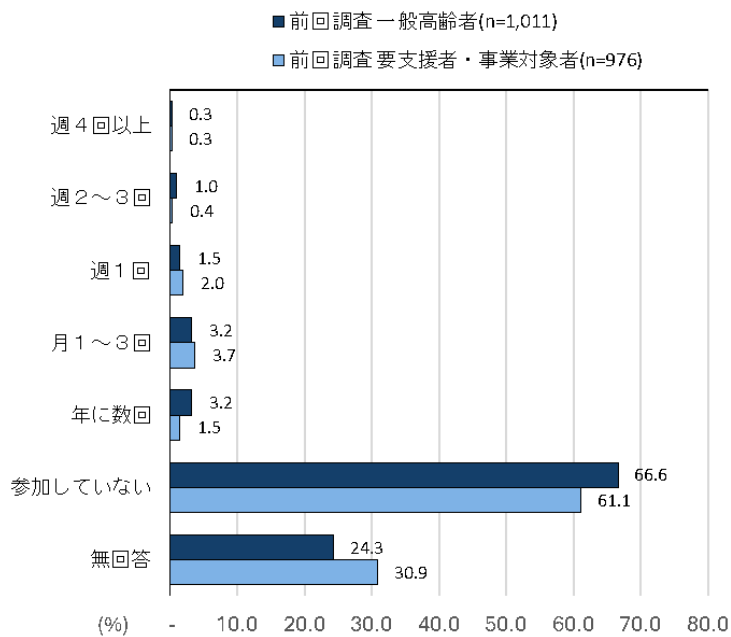
④ 学習・教養サークル

「週4回以上」～「年に数回」参加している割合が一般高齢者では11.2%、要支援者・事業対象者は7.5%となっている。



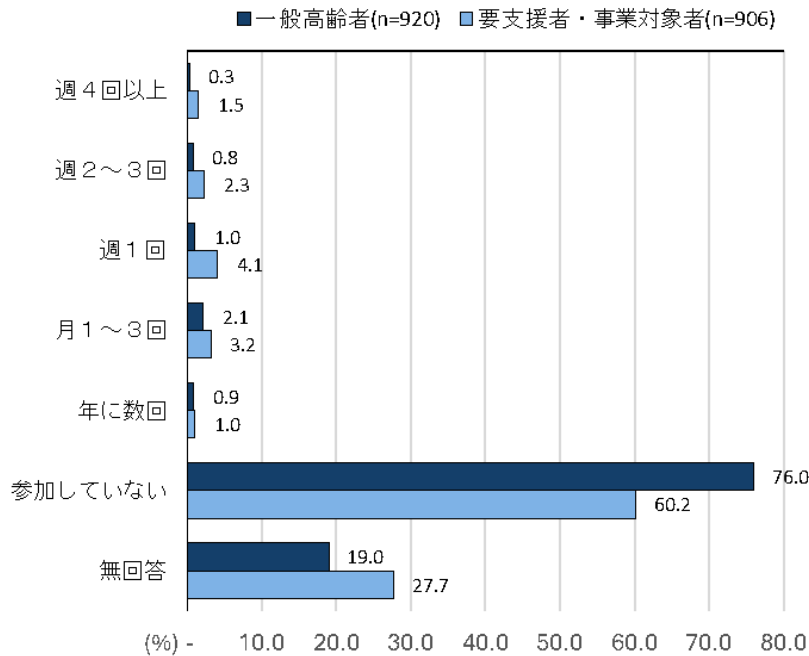
【前回調査】

前回調査における参加割合は一般高齢者で9.2%、要支援者・事業対象者で7.9%となっており、今回調査では一般高齢者が微増している一方、要支援者・事業対象者は同程度となっている。



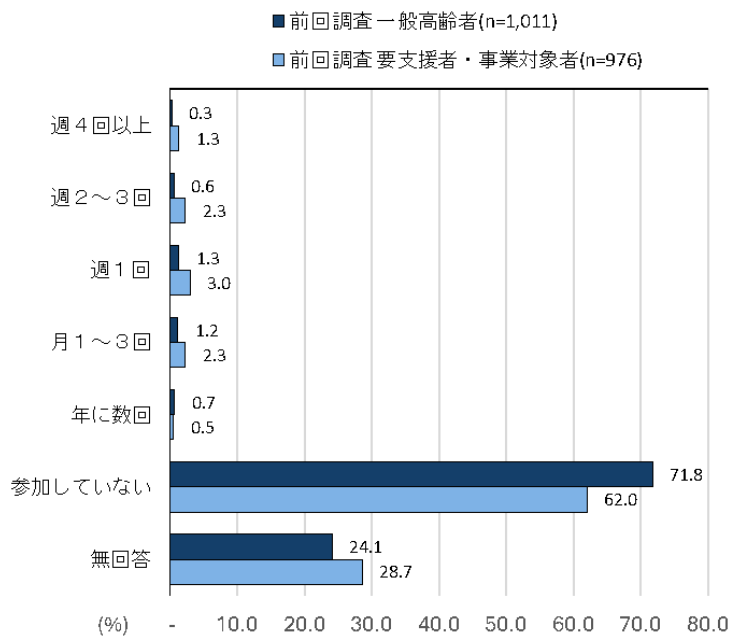
⑤ てんとうむし体操

「週4回以上」～「年に数回」参加している割合が一般高齢者では5.1%、要支援者・事業対象者は12.1%となっている。



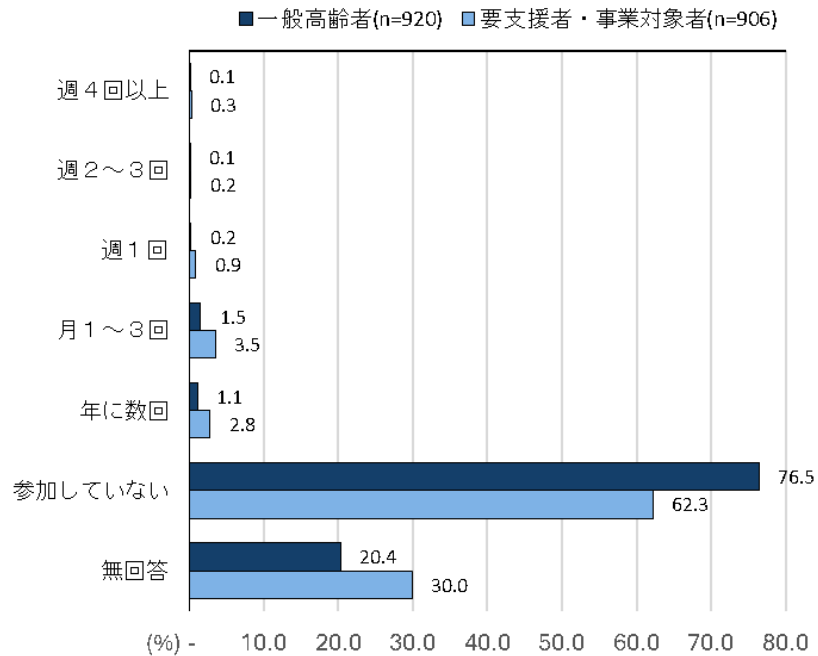
【前回調査】

前回調査における参加割合は一般高齢者で4.1%、要支援者・事業対象者で9.4%となっており、ともに前回よりも微増している。



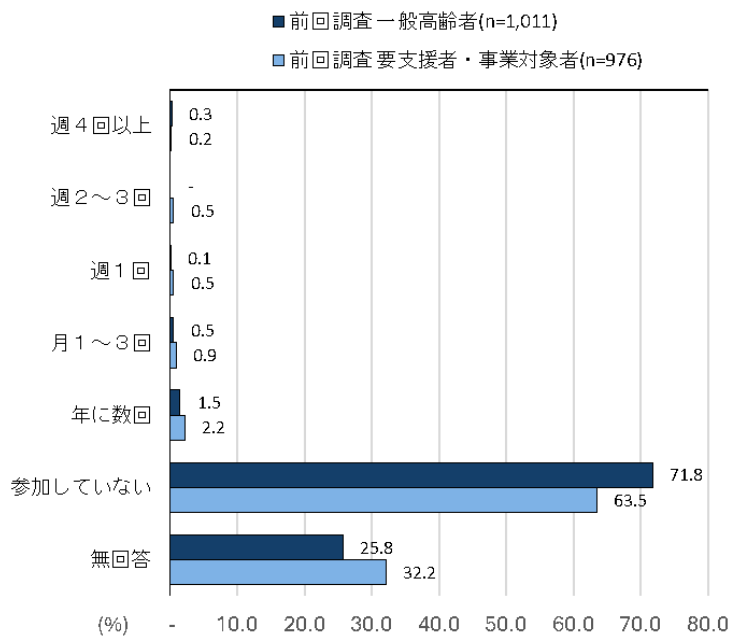
⑥ 地域サロン

「週4回以上」～「年に数回」参加している割合が一般高齢者では3.0%、要支援者・事業対象者は7.7%となっている。



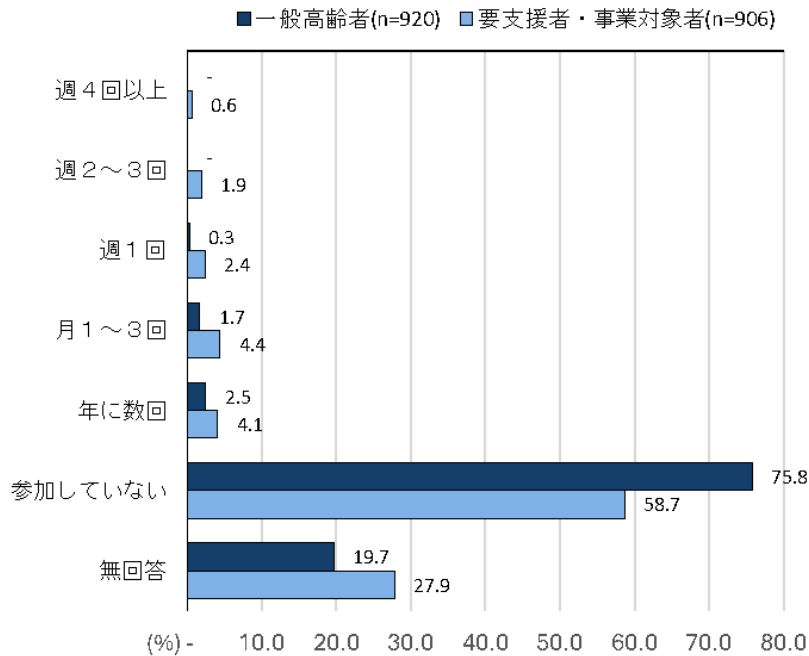
【前回調査】

前回調査における参加割合は一般高齢者で2.4%、要支援者・事業対象者で4.3%であり、今回調査で微増している。



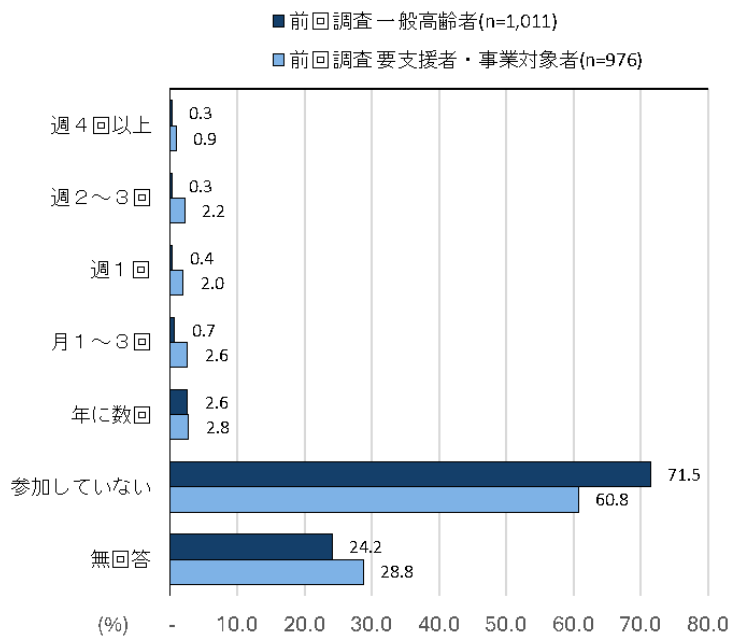
⑦ 高齢者のつどい

「週4回以上」～「年に数回」参加している割合が一般高齢者では4.5%、要支援者・事業対象者は13.4%となっている。



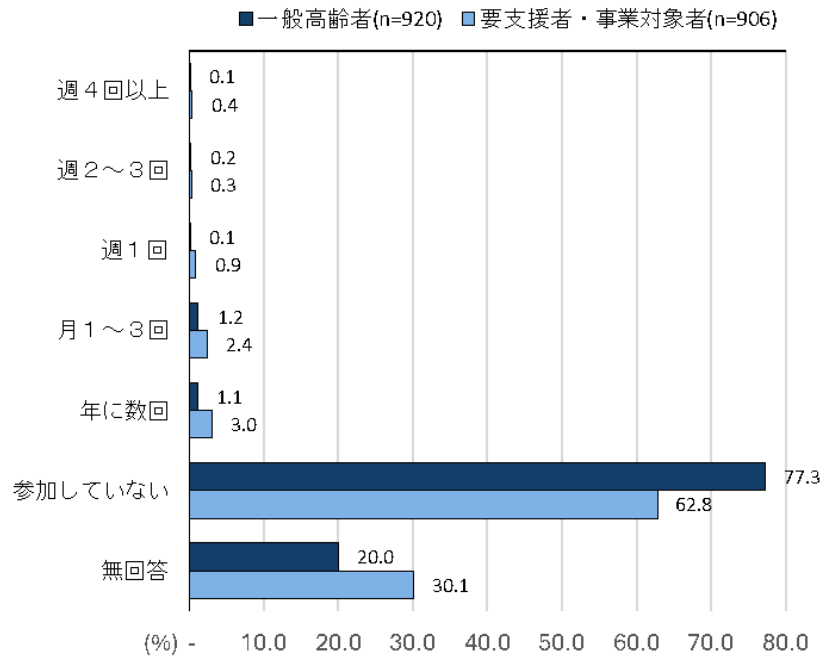
【前回調査】

前回調査における参加割合は一般高齢者で4.3%、要支援者・事業対象者で10.5%であり、今回調査では一般高齢者は同程度、要支援者・事業対象者は微増している。



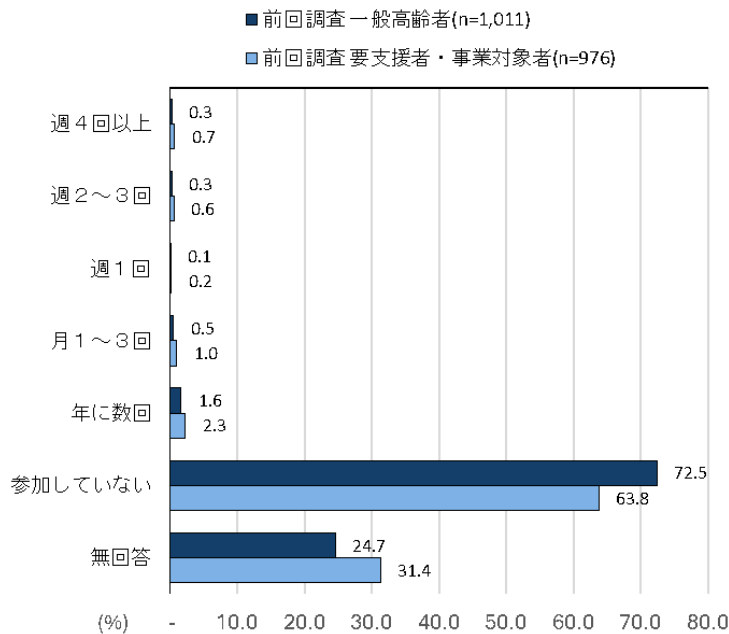
⑧ 老人クラブ

「週4回以上」～「年に数回」参加している割合が一般高齢者では2.7%、要支援者・事業対象者は7.0%となっている。



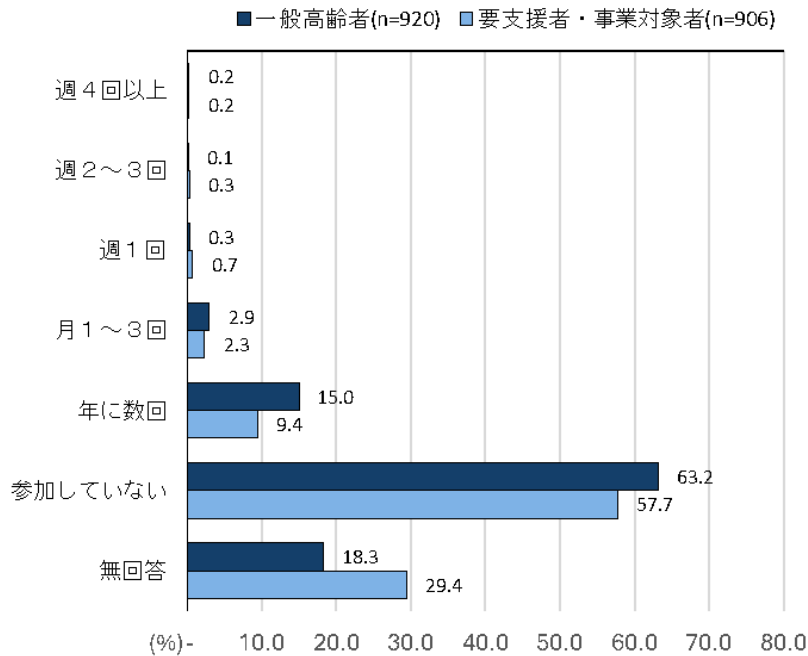
【前回調査】

前回調査における参加割合は一般高齢者で2.8%、要支援者・事業対象者で4.8%であり、今回調査では一般高齢者が同程度、要支援者・事業対象者は微増している。



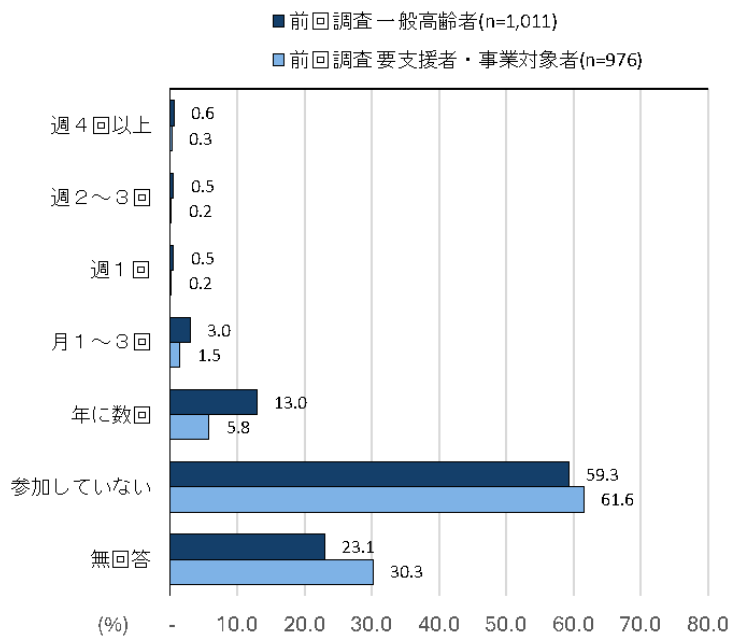
⑨ 町内会・自治会

「週4回以上」～「年に数回」参加している割合が一般高齢者では18.5%、要支援者・事業対象者は12.9%となっている。



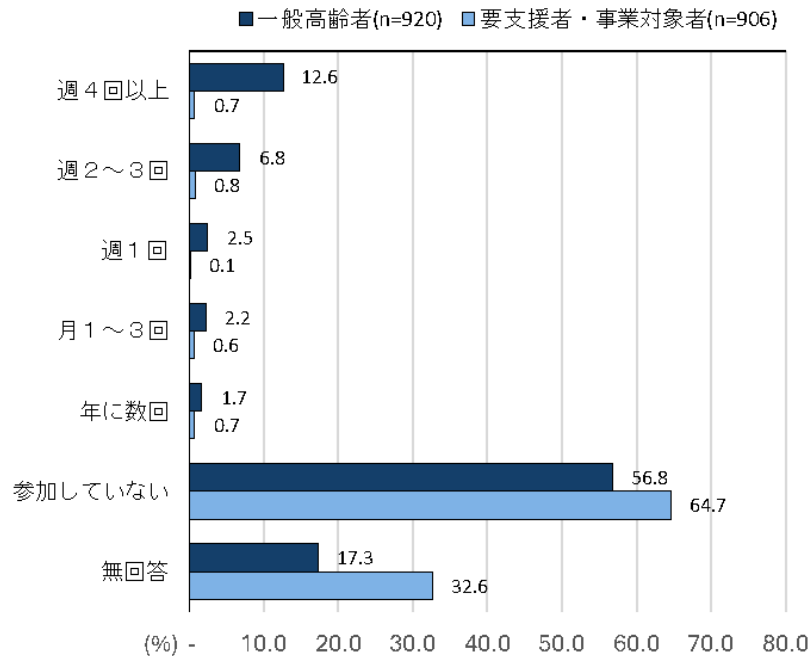
【前回調査】

前回調査における参加割合は一般高齢者で17.6%、要支援者・事業対象者は8%であり、今回調査で一般高齢者は微増、要支援者・事業対象者は4.9ポイント増加している。



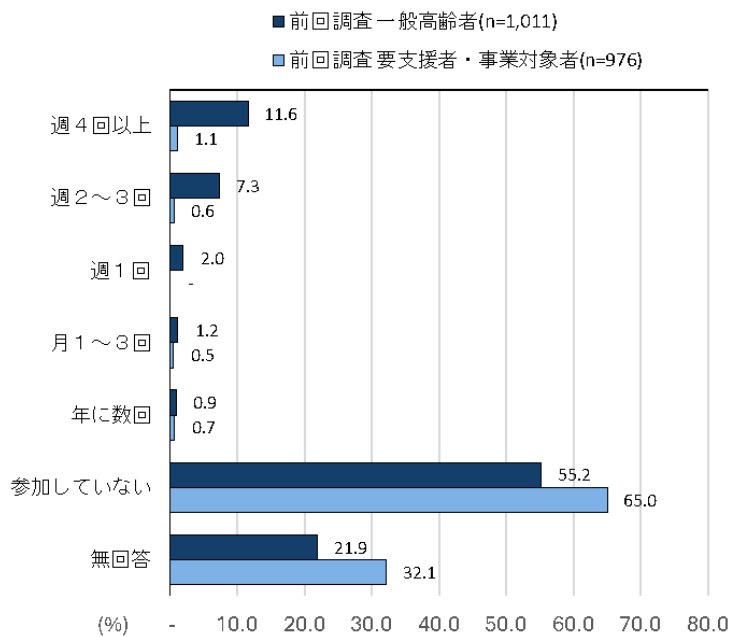
⑩ 収入のある仕事

「週4回以上」～「年に数回」参加している割合が一般高齢者では25.8%、要支援者・事業対象者は2.9%となっている。



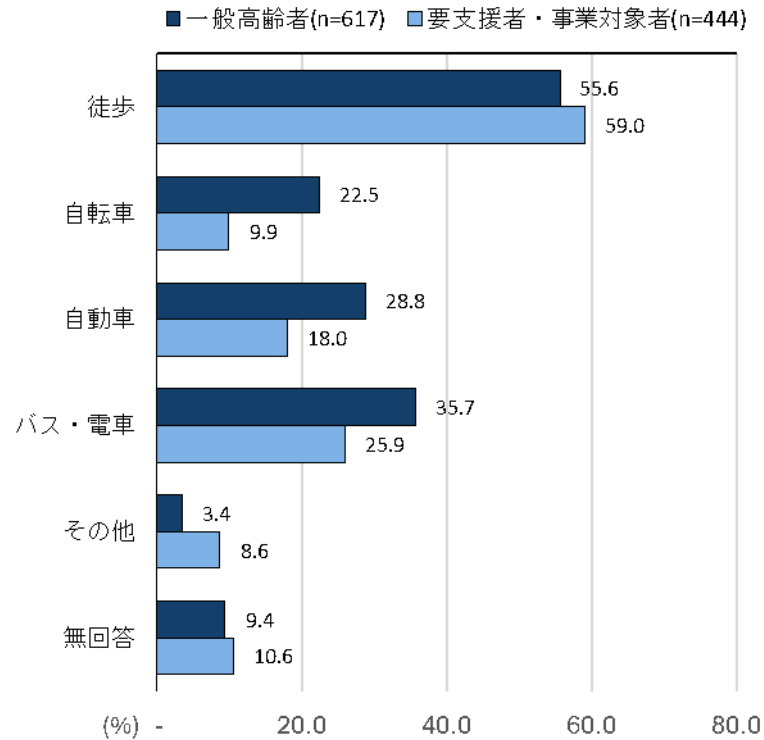
【前回調査】

前回調査における参加割合は一般高齢者で23%、要支援者・事業対象者で2.9%であり、一般高齢者は微増、要支援者・事業対象者は同程度となっている。



(上記の会・グループに参加している方)活動場所までの交通手段をお教えてください。(〇はいくつでも)

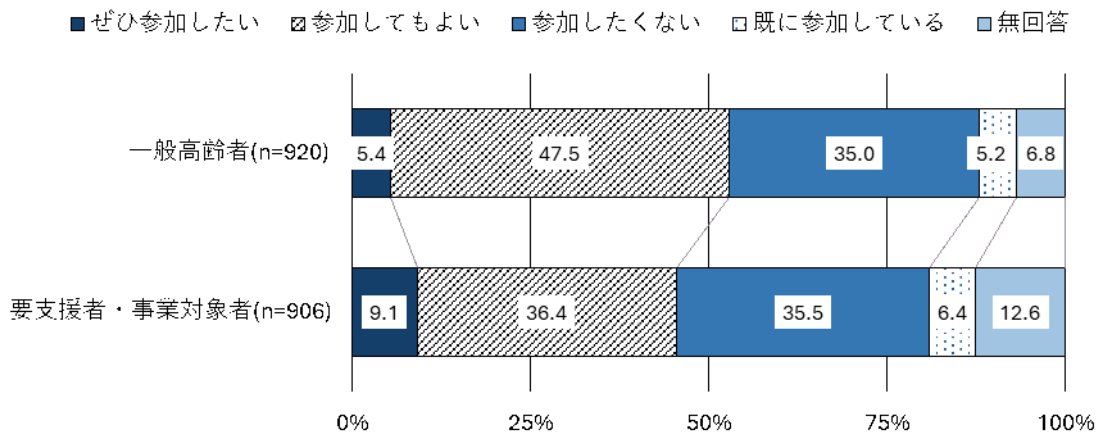
一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「徒歩」が最も高く、一般高齢者で 55.6%、要支援者・事業対象者で 59.0%となっている。次いで「バス・電車」が一般高齢者で 35.7%、要支援者・事業対象者は 25.9%となっている。



(2) 地域の会・グループ等への参加意向

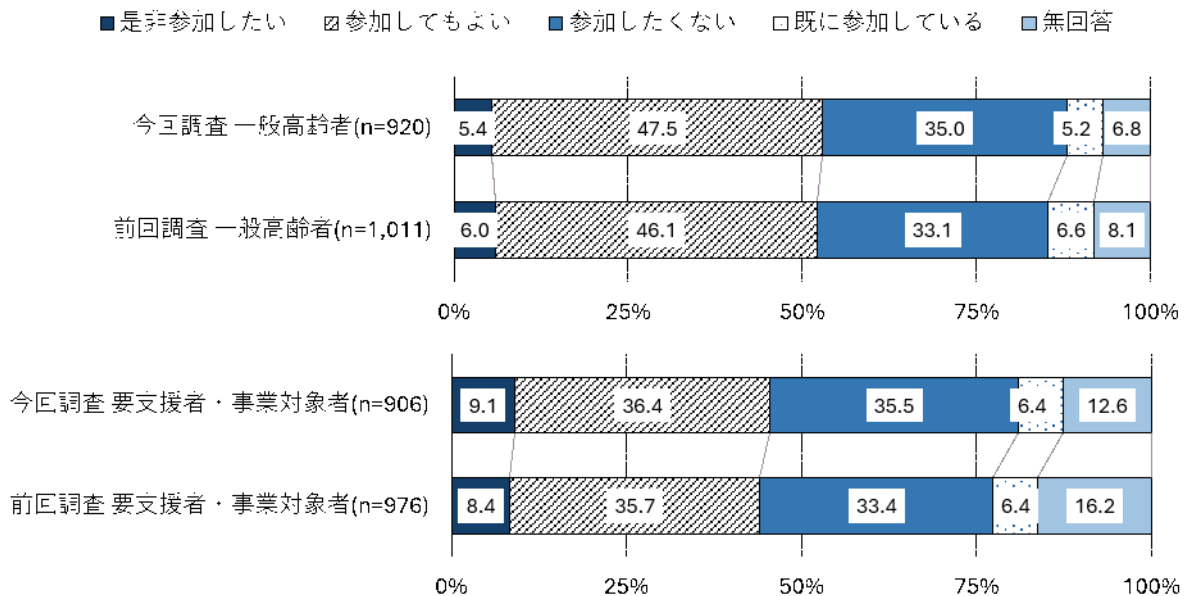
地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。

「ぜひ参加したい」「参加してもよい」「すでに参加している」を「参加意向あり」とすると、一般高齢者では58.1%、要支援者・事業対象者は51.9%が「参加意向あり」となった。



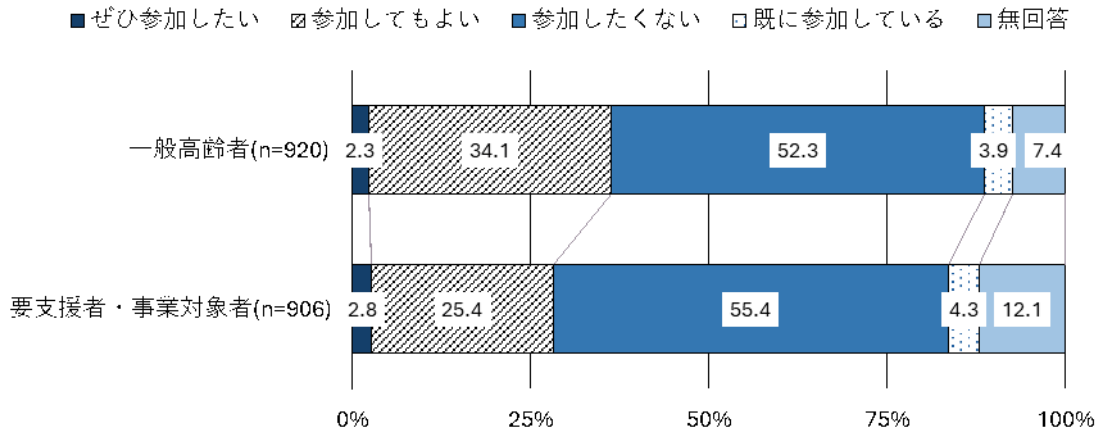
【経年比較】

前回調査と比較しても、概ね同程度の結果となっている。



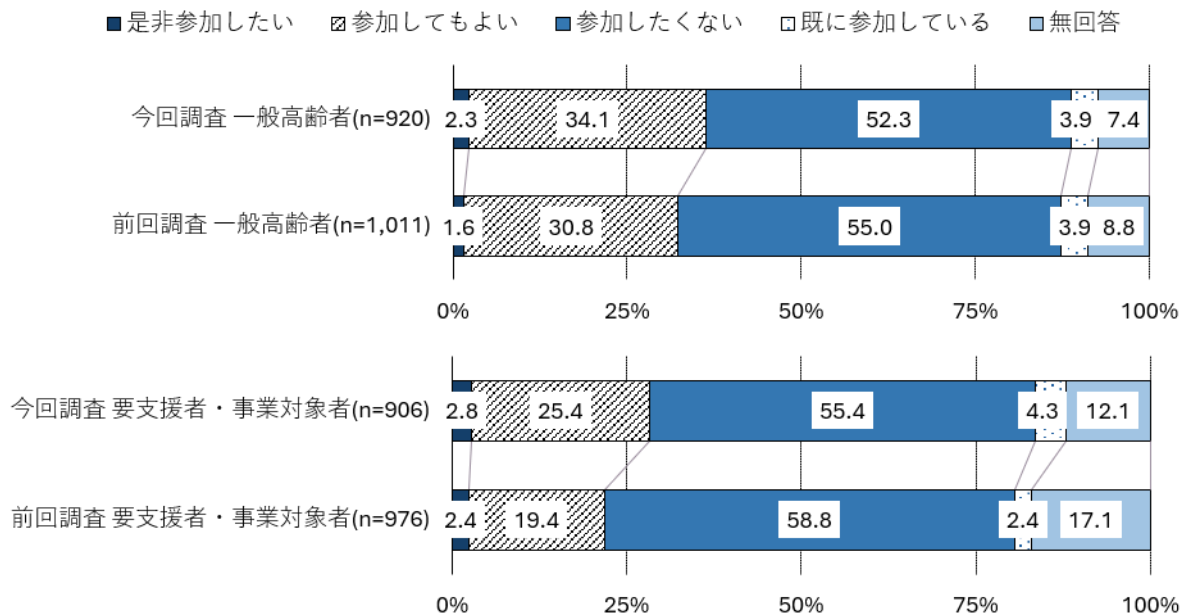
地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか。

「ぜひ参加したい」「参加してもよい」「すでに参加している」を「参加意向あり」とすると、一般高齢者では40.3%、要支援者・事業対象者は32.5%が「参加意向あり」となった。



【経年比較】

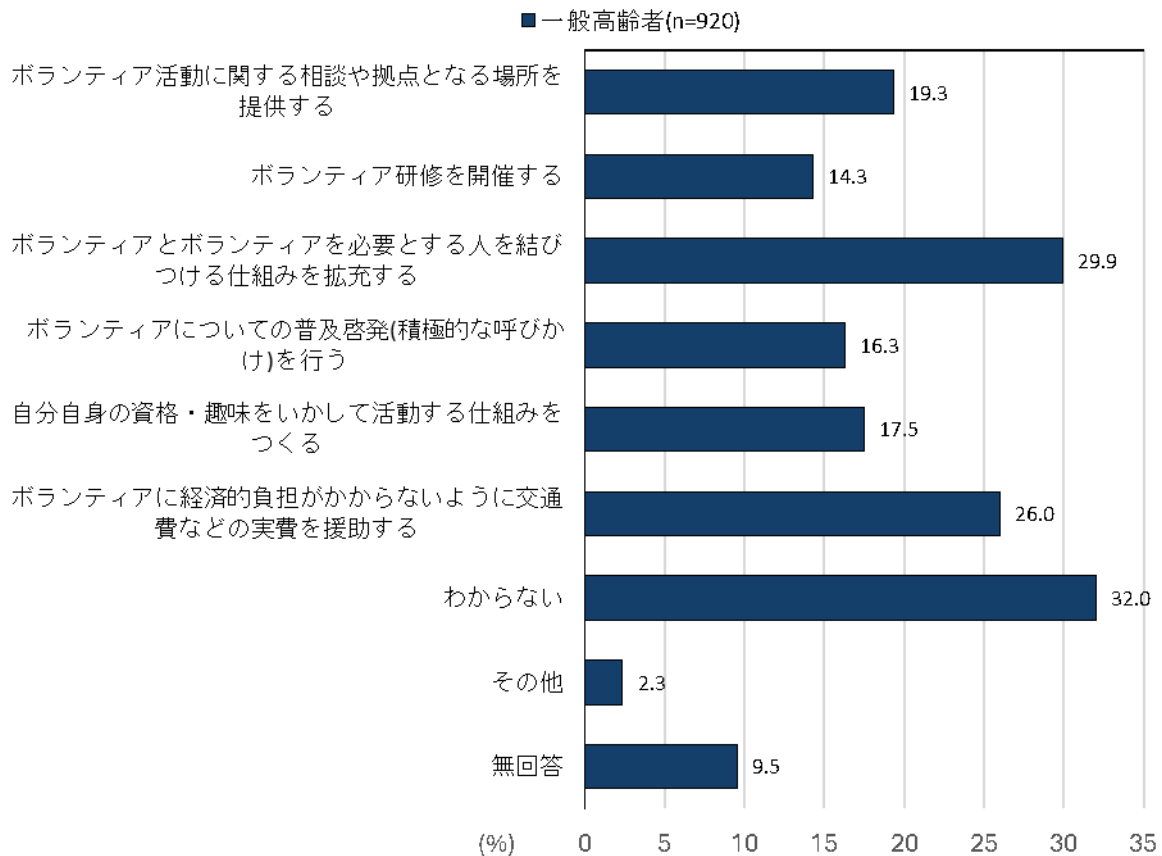
前回調査においては、一般高齢者の「参加意向あり」が36.3%、要支援者・事業対象者で24.2%となっており、今回調査ではやや上昇している。



(3) 地域における支え合いの意識

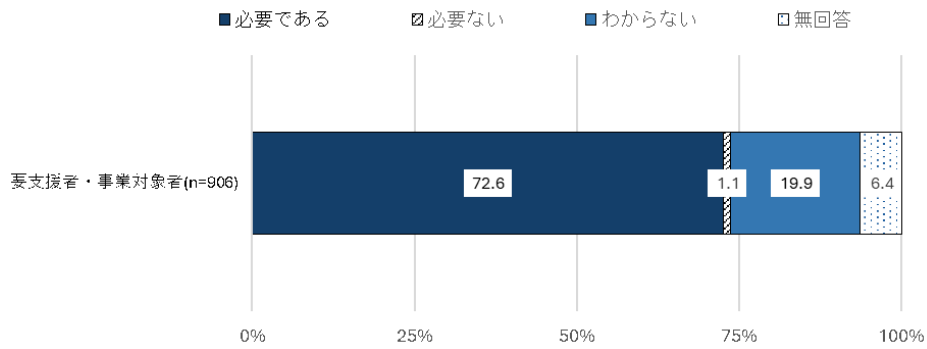
(一般高齢者のみ)今後、ボランティア活動の輪を広げていくために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「わからない」が32.0%と最も高く、次いで「ボランティアとボランティアを必要とする人を結びつける仕組みを拡充する」が29.9%、「ボランティアに経済的負担がかからないように交通費などの実費を援助する」が26.0%となっている。



(要支援者・事業対象者のみ)独身世帯や高齢者世帯が近年増えていますが、隣近所や地域で高齢者を支えることが必要だと思いますか。

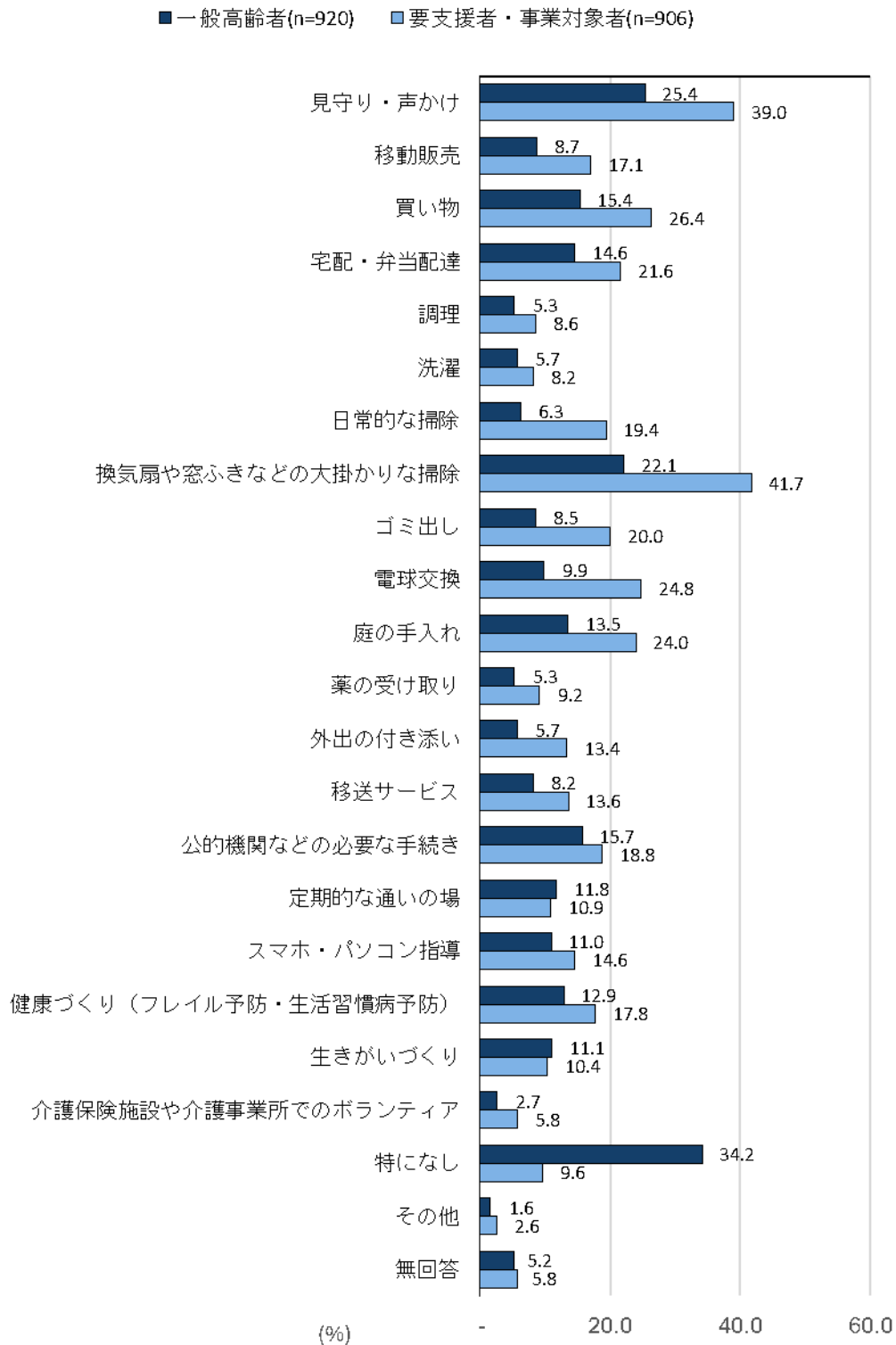
「必要である」が72.6%と最も高く、「必要ない」は1.1%程度となっている。



あなたは自宅での生活をするために、どのようなサービスが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

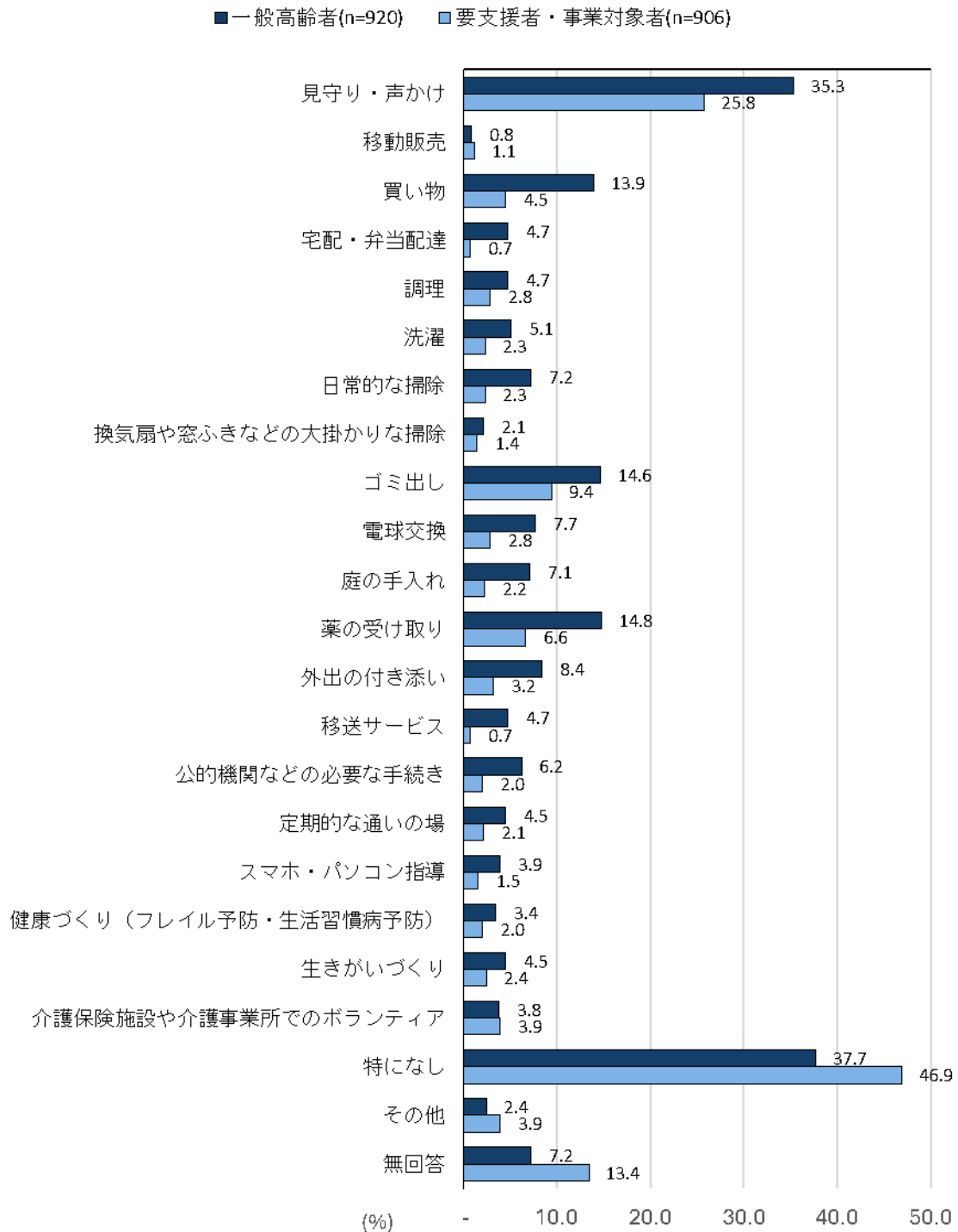
一般高齢者では「特になし」が最も高く、34.2%となっている。次いで「見守り・声かけ」が25.4%となっている。

要支援者・事業対象者においては「換気扇や窓ふきなどの大掛かりな掃除」が41.7%と最も高く、次いで「見守り・声かけ」が39.0%となっている。



あなたがボランティア(無償もしくは有償)として活動するとしたら、協力できる内容はありますか。(〇はいくつでも)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「特になし」が最も高く、一般高齢者で37.7%、要支援者・事業対象者で46.9%となっている。次いで「見守り・声かけ」が一般高齢者で35.3%、要支援者・事業対象者で25.8%となっている。



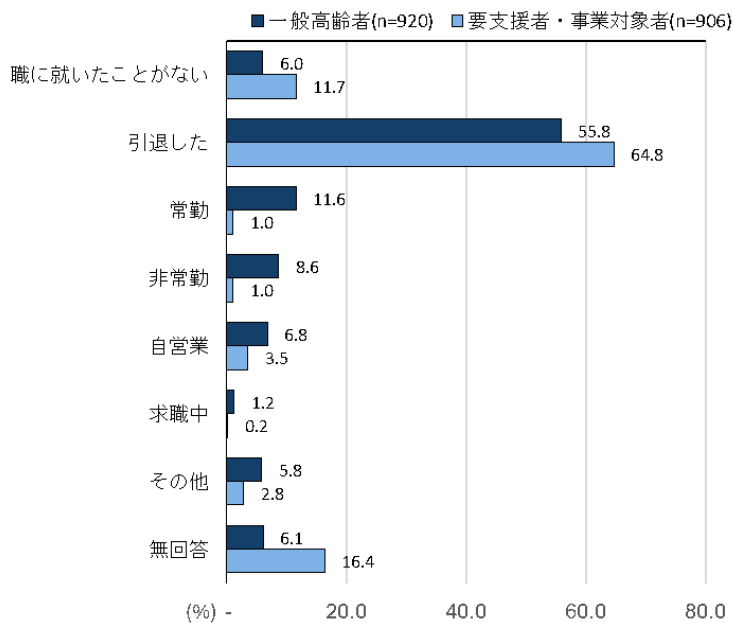
7. 就労について

(1) 就労状況

現在のあなたの就労状態はどれですか。(いくつでも)

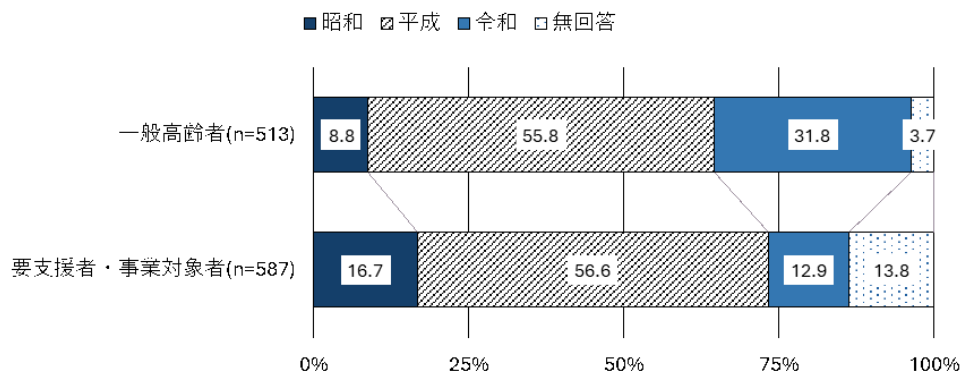
一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「引退した」が最も高く、一般高齢者で 55.8%、要支援者・事業対象者で 64.8%となっており、要支援者・事業対象者が 9.0 ポイント上回っている。

一般高齢者では要支援者・事業対象者と比較して、「常勤」「非常勤」「自営業」の割合が高い。要支援者・事業対象者においては「職についたことがない」が 11.7%となっている。



(「引退した」を選択された方)あなたはいつ引退しましたか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「平成」が最も高く、半数以上を占めている。「昭和」が一般高齢者 8.8%に対し、要支援者・事業対象者では 16.7%と 7.9 ポイント上回っている。「令和」は一般高齢者が 31.8%に対し、要支援者・事業対象者が 12.9%と 18.9 ポイント下回っている。



8. 「たすけあい」について

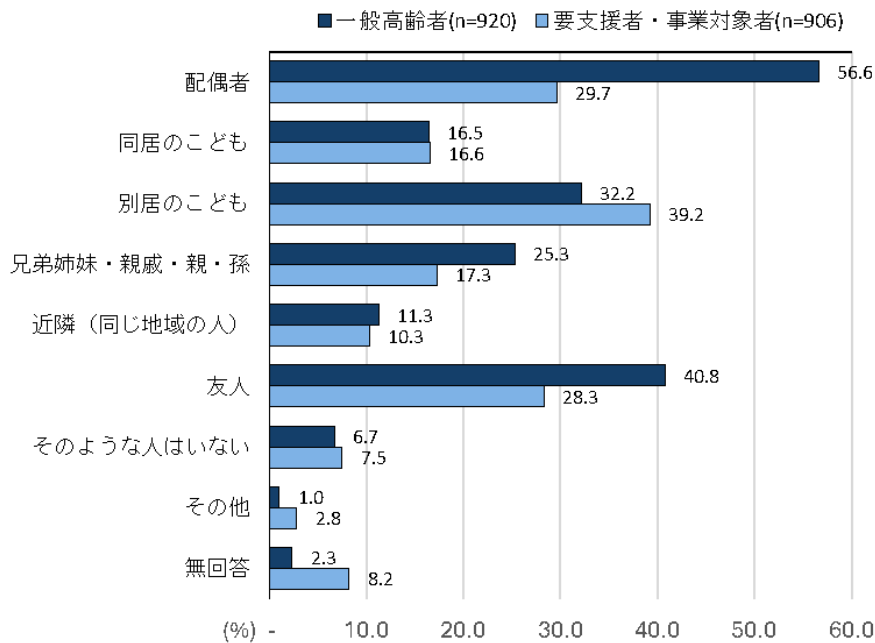
(1) 「たすけあい」の状況

あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします。以下に挙げる人について、あてはまる欄に○をつけてください。(それぞれ○はいくつでも)

「その他」の場合は具体的にご記入ください。

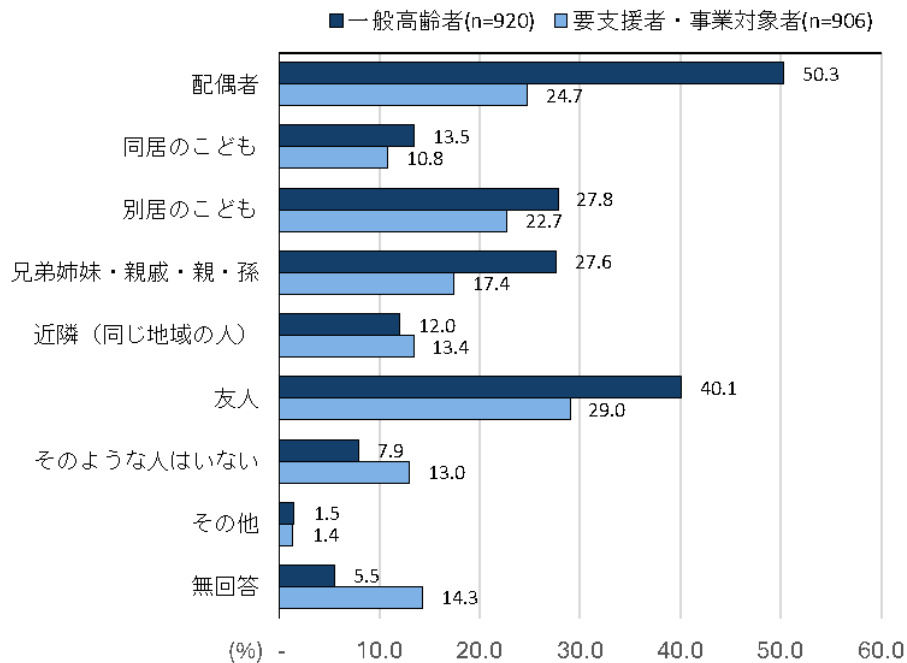
① 心配事や愚痴を聞いてくれる人

一般高齢者では「配偶者」が56.6%と最も高く、次いで「友人」が40.8%である。要支援者・事業対象者では「別居のこども」が39.2%と最も高く、次いで「配偶者」が29.7%である。



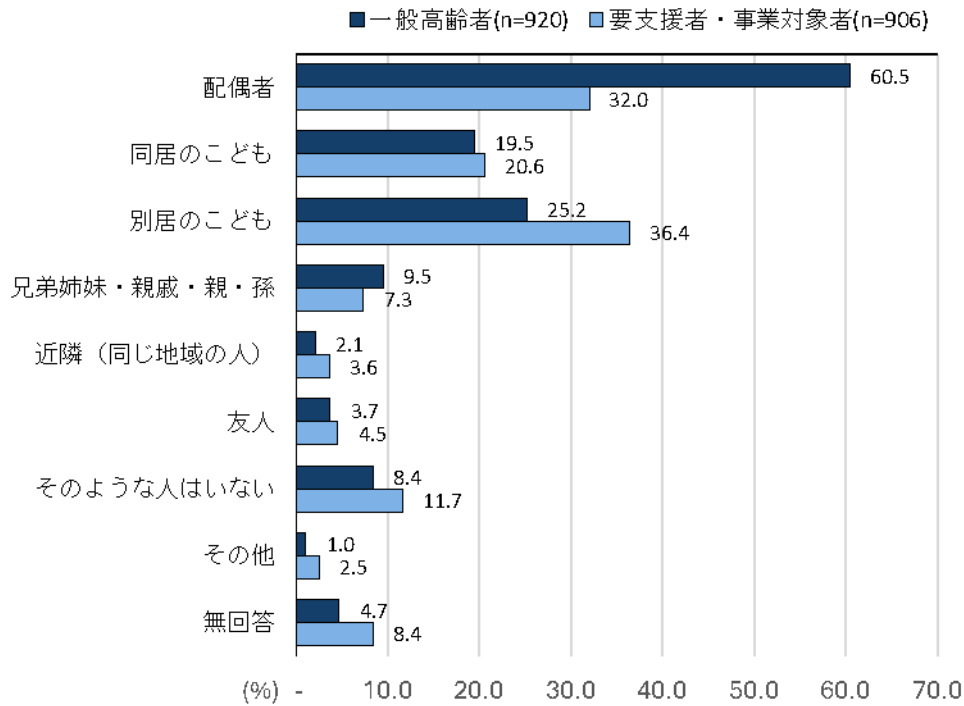
② 心配事や愚痴を聞いてあげる人

一般高齢者では「配偶者」が 50.3%と最も高く、次いで「友人」が 40.1%である。要支援者・事業対象者では「友人」が 29.0%と最も高く、次いで「配偶者」が 24.7%である。



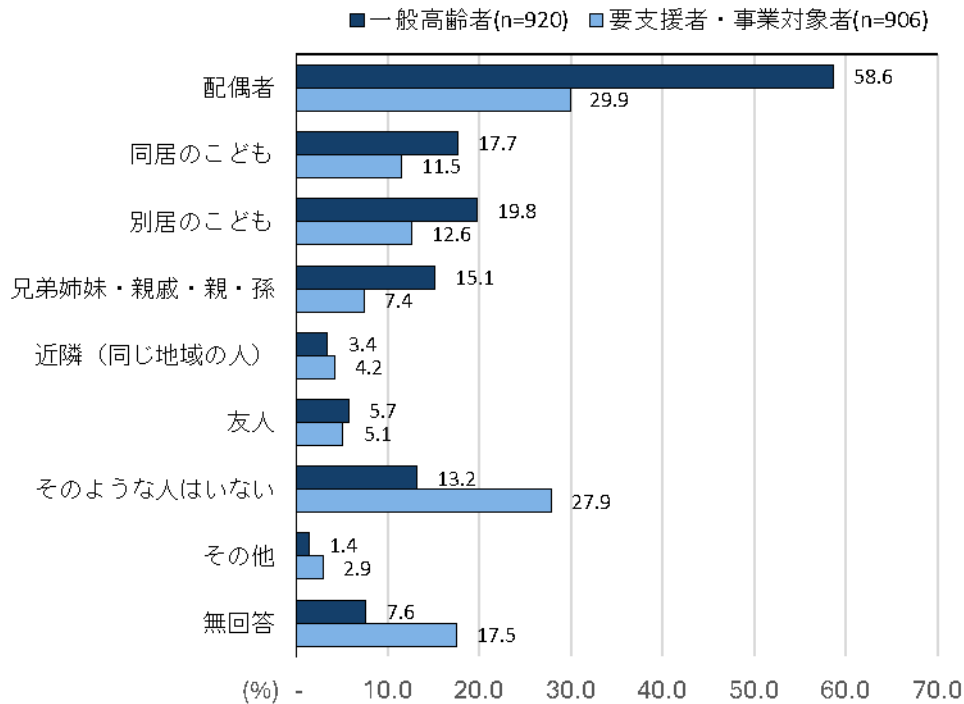
③ 病気で数日間寝込んだ時に、看病や世話をしてくれる人

一般高齢者では「配偶者」が60.5%と最も高く、次いで「別居のこども」が25.2%である。
要支援者・事業対象者では、「別居のこども」が36.4%と最も高く、次いで「配偶者」が32.0%である。



④ 看病や世話をしあける人

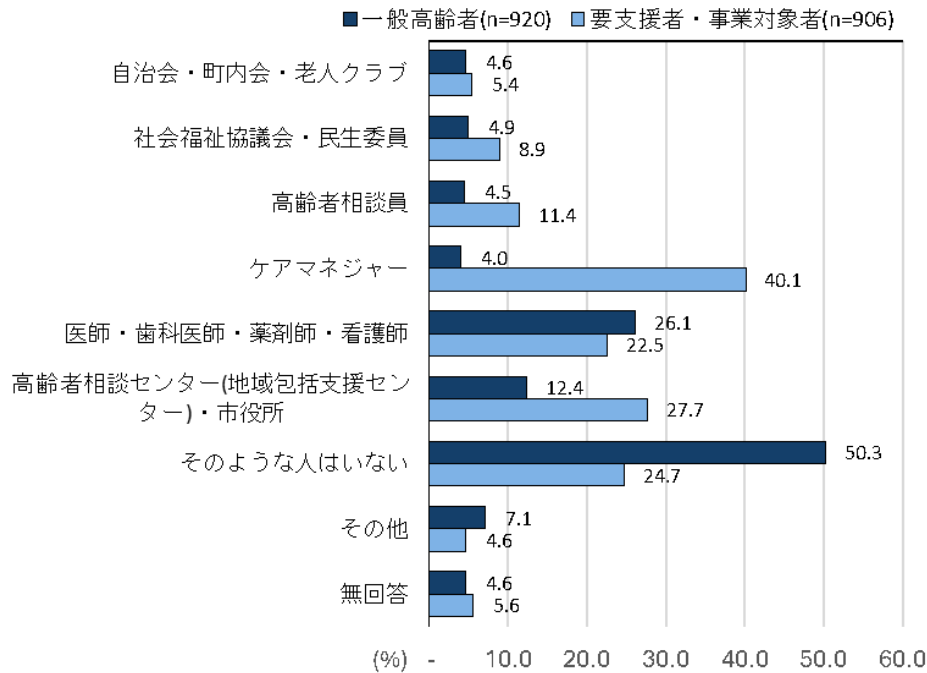
一般高齢者では「配偶者」が58.6%と最も高く、次いで「別居のこども」が19.8%である。
要支援者・事業対象者では「配偶者」が29.9%と最も高く、次いで「そのような人はいない」が27.9%である。



(2) 相談相手

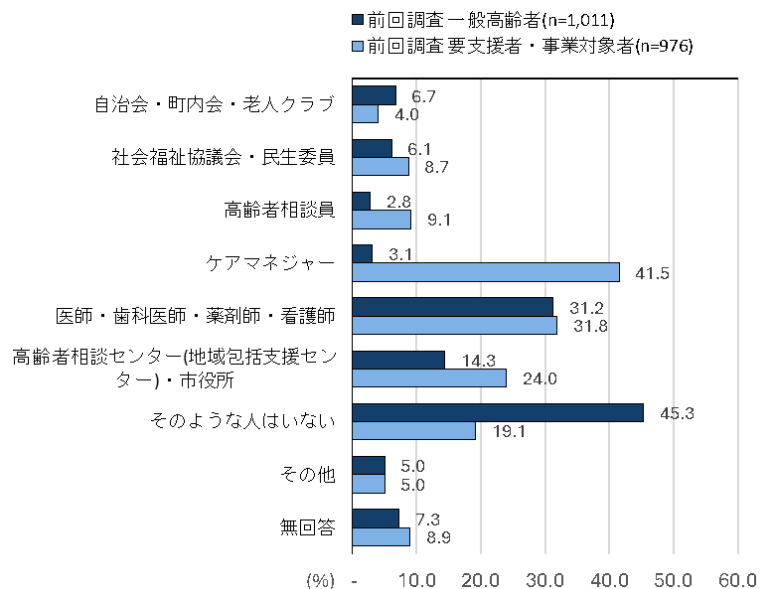
家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。(〇はいくつでも)

一般高齢者では「そのような人はいない」が50.3%と最も高い。一方、要支援者・事業対象者では「ケアマネジャー」が40.1%と最も高くなっている。



【前回調査】

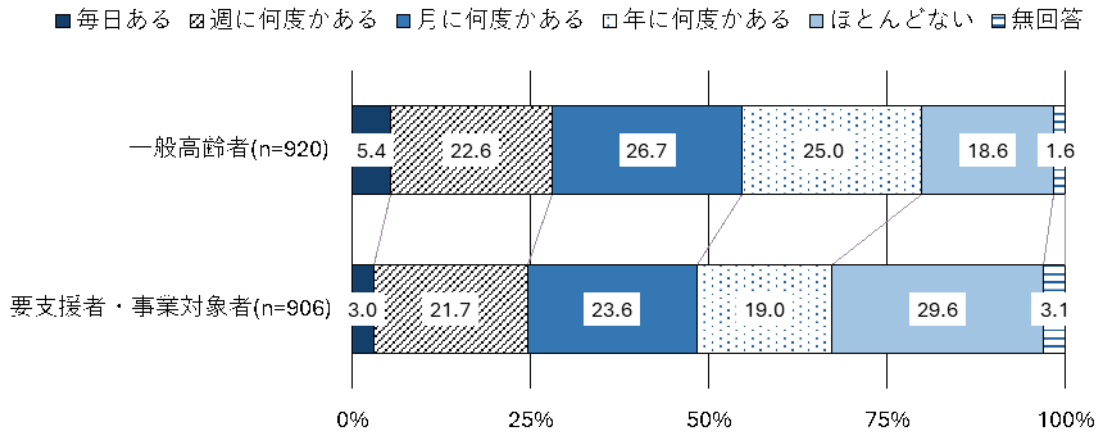
前回調査においても、一般高齢者で「そのような人はいない」が最も高く、要支援者・事業対象者では「ケアマネジャー」が最も高い点で同様の傾向にあるものの、一般高齢者における「そのような人はいない」は前回調査と比較すると5ポイント高くなっている。



(3) 友人・知人との交流状況

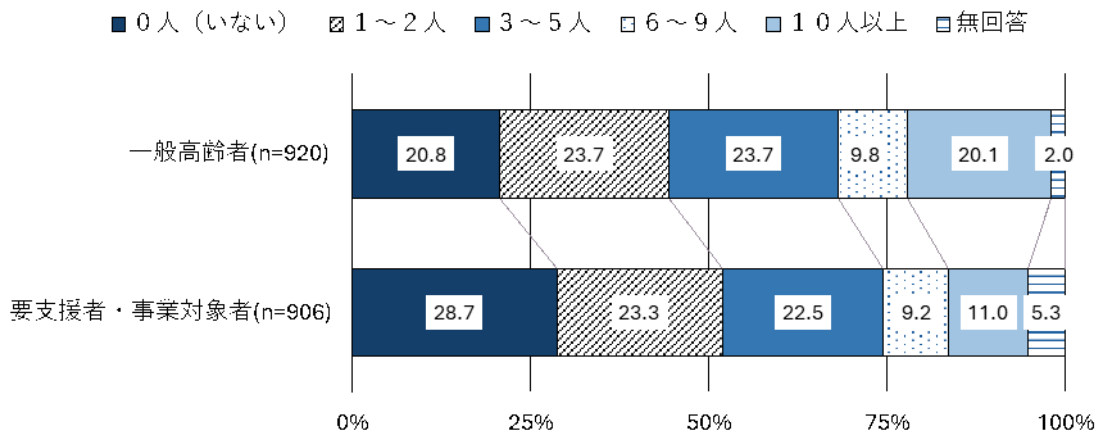
友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。

一般高齢者では「月に何度かある」が26.7%と最も高い。一方、要支援者・事業対象者で「ほとんどない」が29.6%となっている。



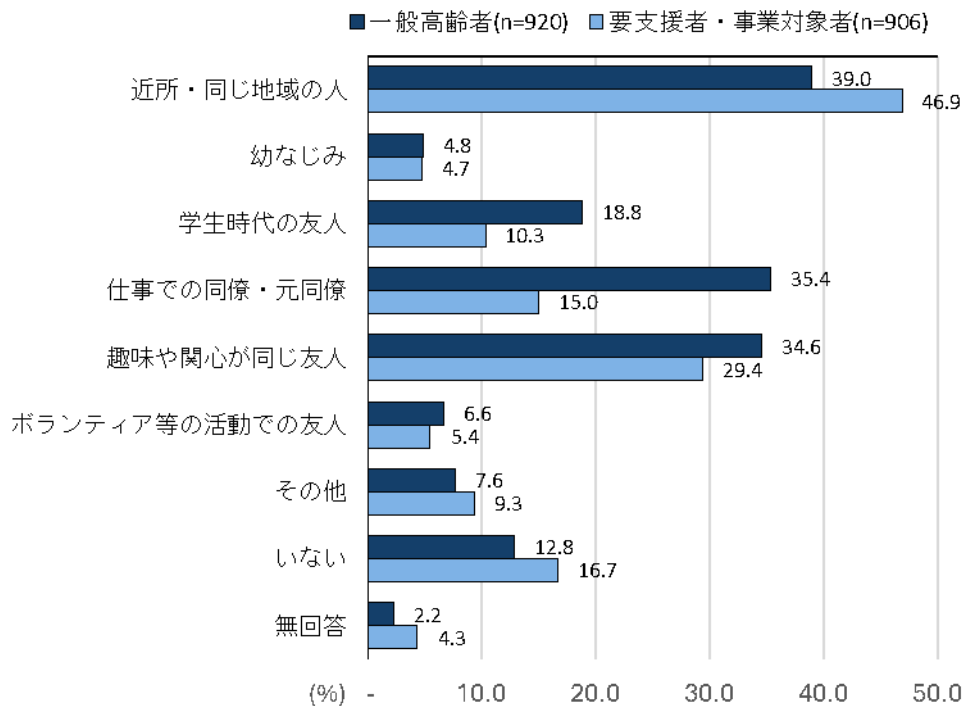
この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。

一般高齢者においては「1～2人」「3～5人」が最も高く、どちらも23.7%であり、要支援者・事業対象者においても同程度の割合である。「0人」の割合が一般高齢者の20.8%に対し要支援者・事業対象者は28.7%と7.9ポイント上回っている。



よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「近所・同じ地域の人」が最も高く、一般高齢者で39.0%、要支援者・事業対象者で46.9%である。一般高齢者においては「仕事の同僚・元同僚」(35.4%)「趣味や関心が同じ友人」(34.6%)も同程度であった。要支援者・事業対象者では「趣味や関心が同じ友人」が29.4%である。「いない」は一般高齢者で12.8%、要支援者・事業対象者で16.9%となっている。



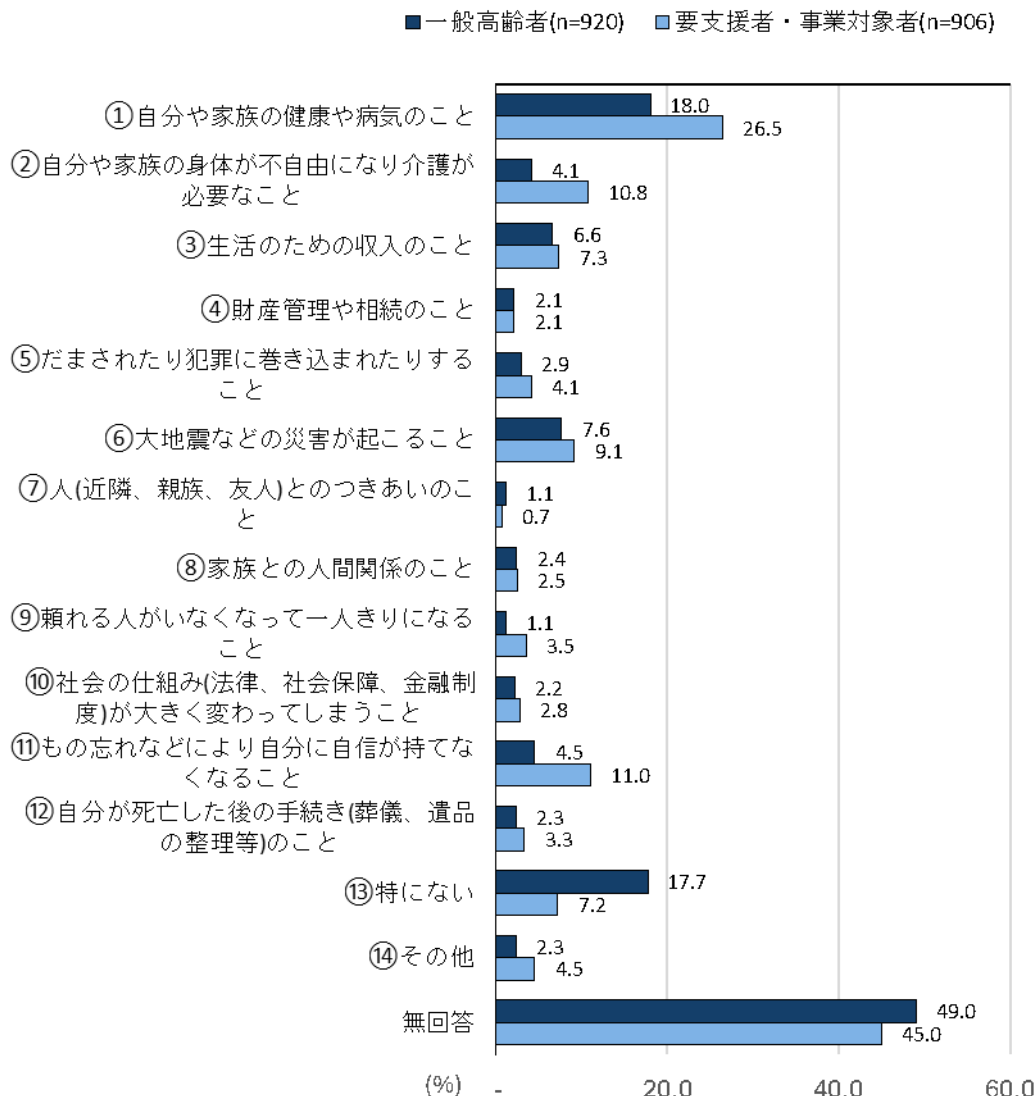
9. 日常生活で困っていることや将来の不安について

(1) 現在困っていることや将来の不安

現在困っていることと、将来についての不安はありますか。(〇はそれぞれ3つまで)

① 現在困っていること

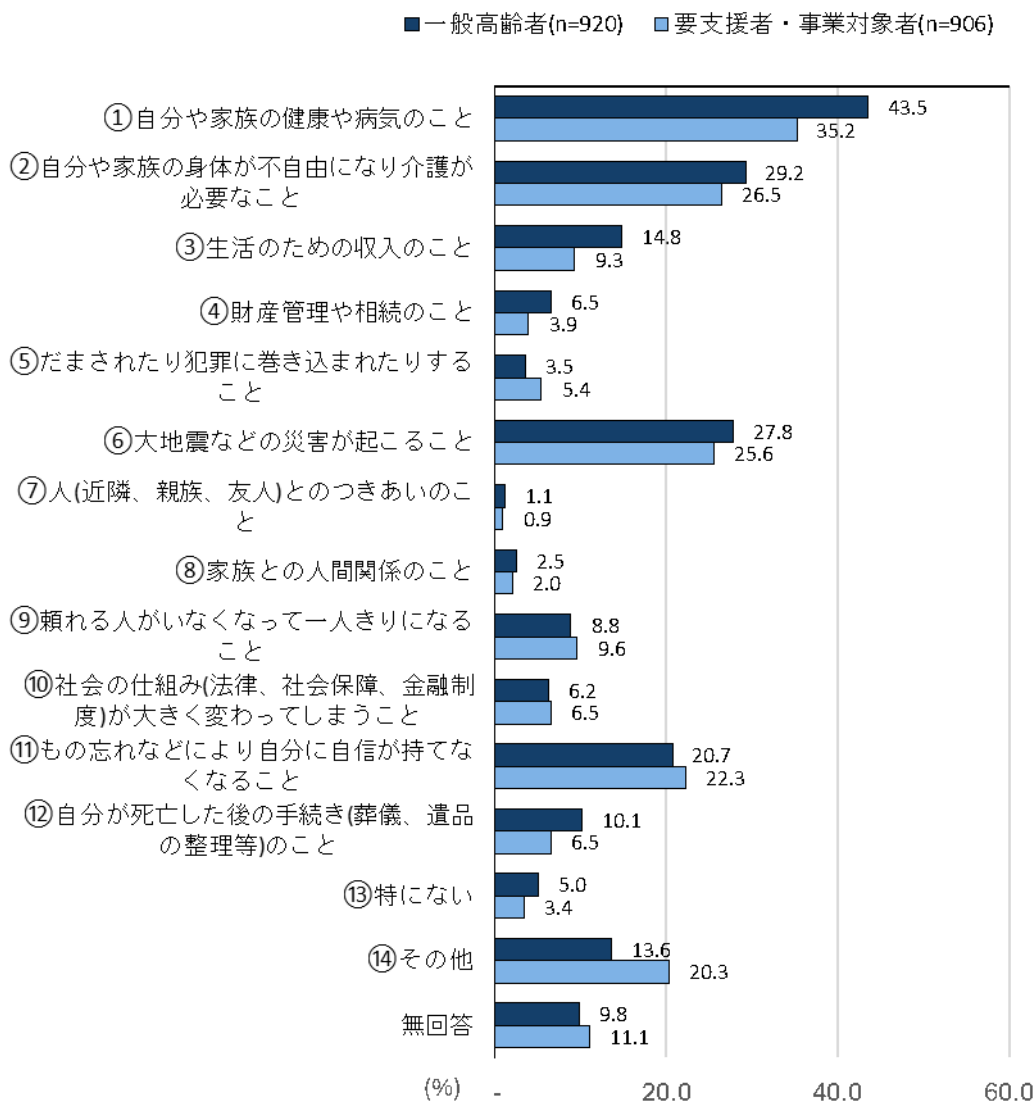
一般高齢者では、「自分の家族や健康のこと」が18.0%と最も高い。次いで「特にない」が17.7%となっている。要支援者・事業対象者では、「自分や家族の健康や病気のこと」が26.5%と最も高く、一般高齢者よりも8.8ポイント上回っている。次いで「物忘れなどにより自分に自信が持てなくなること」が11.0%となっている。



② 将来についての不安

「自分の家族の健康や病気のこと」が一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに最も高く、一般高齢者で43.5%、要支援者・事業対象者で35.2%となっている。

次いで「自分や家族の身体が不自由になり介護が必要なこと」が、一般高齢者で29.2%、要支援者・事業対象者で26.5%となっている。また、「大地震などの災害が起こること」もそれぞれ比較的割合が高くなっている。

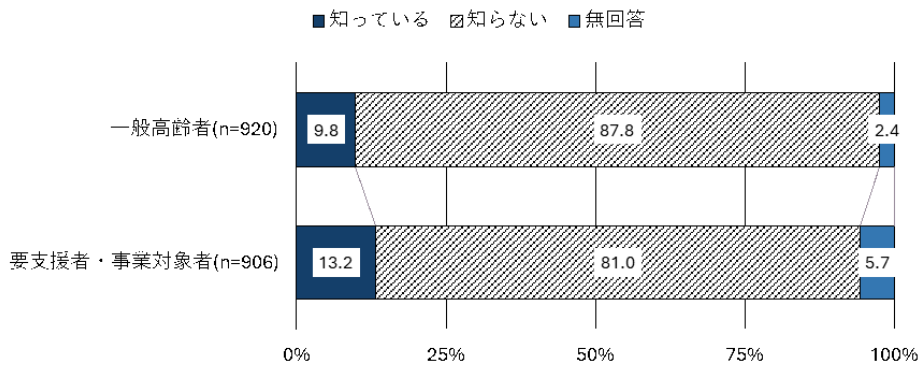


10. 将来への備えについて

(1) 人生会議・ACP の認知度

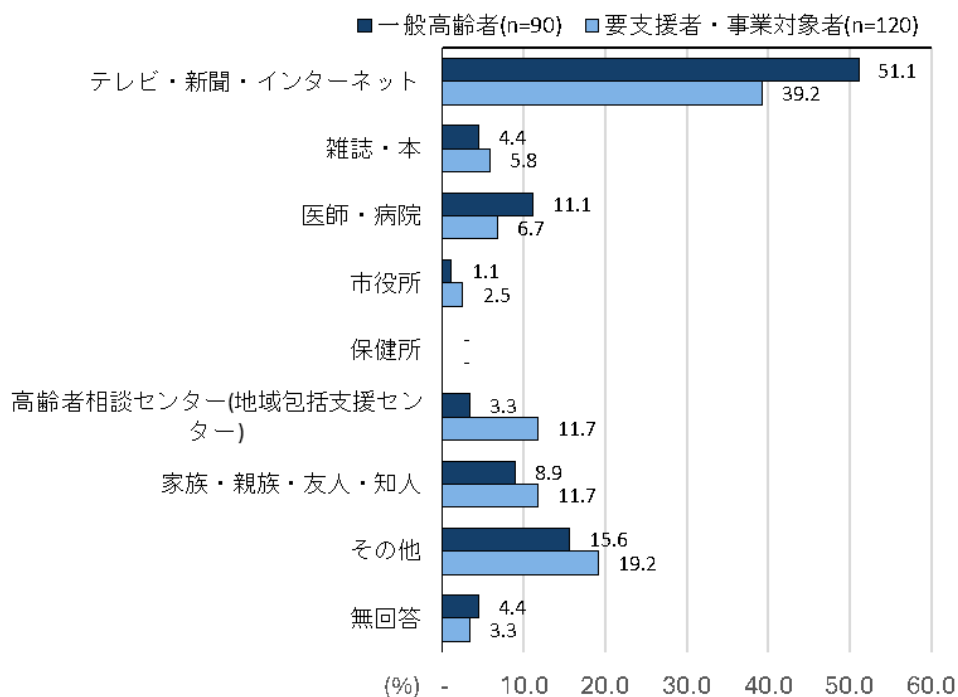
人生会議またはアドバンス・ケア・プランニング(ACP)という言葉を知っていますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「知らない」が8割台となっている。



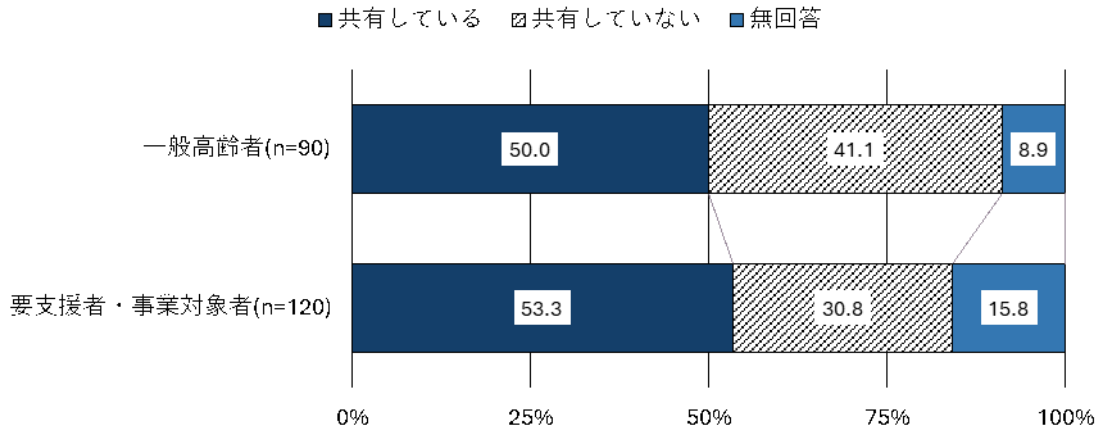
(「知っている」を選択された方) ACP という言葉をどこで知りましたか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「テレビ・新聞・インターネット」が最も高く、一般高齢者で51.1%、要支援者・事業対象者で39.2%となっている。次いで、一般高齢者では「医師・病院」が11.1%、要支援者・事業対象者では「高齢者相談センター(地域包括支援センター)」、「家族・親族・友人・知人」がそれぞれ11.7%となっている。



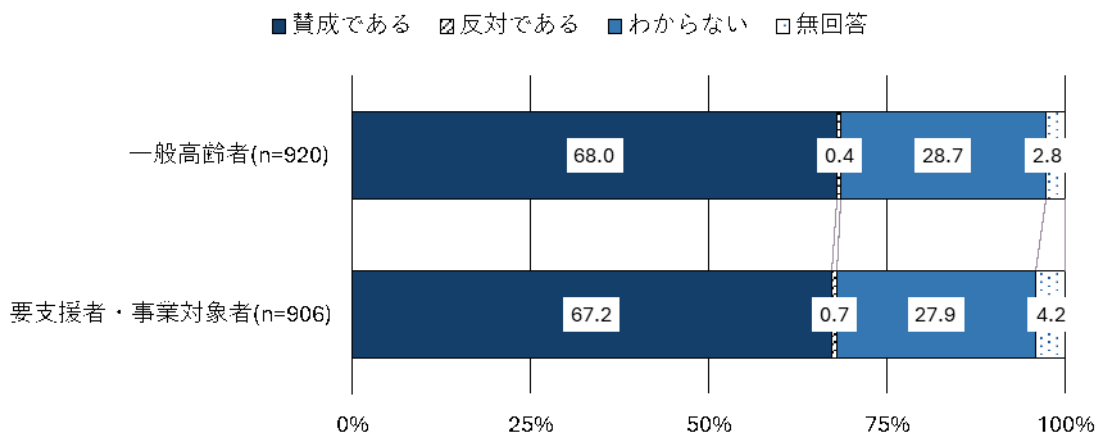
(「知っている」を選択された方)実際に家族や信頼する人たちと自分の考えを話し合ったり、共有していますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「共有している」が半数以上となっている。一般高齢者の「共有していない」は41.1%で要支援者・事業対象者の30.8%を10.3ポイント上回っている。



人生の最終段階の医療・療養について、あなたの意思に沿った医療・療養を受けるためには、家族等や医療・ケアチームとあらかじめ話し合い、また繰り返し話し合うことが重要といわれています。このような話し合いを進めることについて、あなたはどのように思いますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「賛成である」が7割弱、「反対である」は1%未満、「わからない」が3割弱となっている。



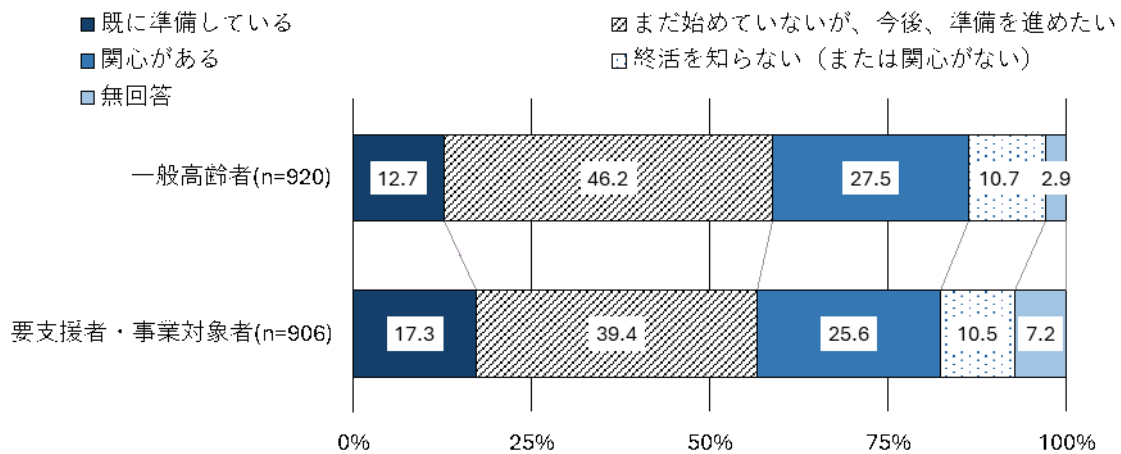
(2) 終活の準備状況

終活についておうかがいします。あなたは、終活に向けて何か準備していますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「まだ始めていないが、今後準備を進めたい」が最も高く、一般高齢者で46.2%、要支援者・事業対象者で39.4%となっている。

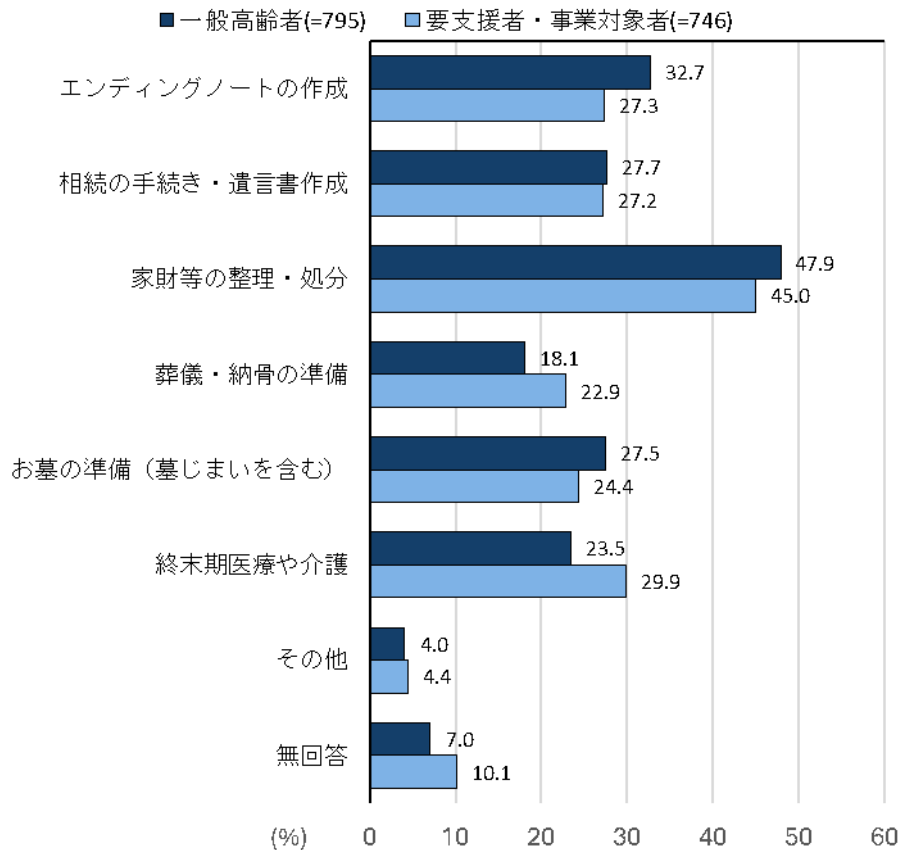
「既に準備している」が一般高齢者の12.7%に対し、要支援者・事業対象者で17.3%と4.6ポイント上回っている。

「既に準備している」「まだ始めていないが、今後、準備を進めたい」「関心がある」を合わせると、一般高齢者で86.4%、要支援者・事業対象者で82.3%とそれぞれ同程度が「関心あり」となっている。



(「既に準備している」「今後準備する」「関心がある」を選択された方)終活のために準備している(または準備を進めたい)ことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「家財等の整理・処分」が最も高く、一般高齢者で47.9%、要支援者・事業対象者で45.0%となっている。次いで、一般高齢者では「エンディングノートの作成」が32.7%、要支援者・事業対象者で「終末期医療や介護」が29.9%となっている。

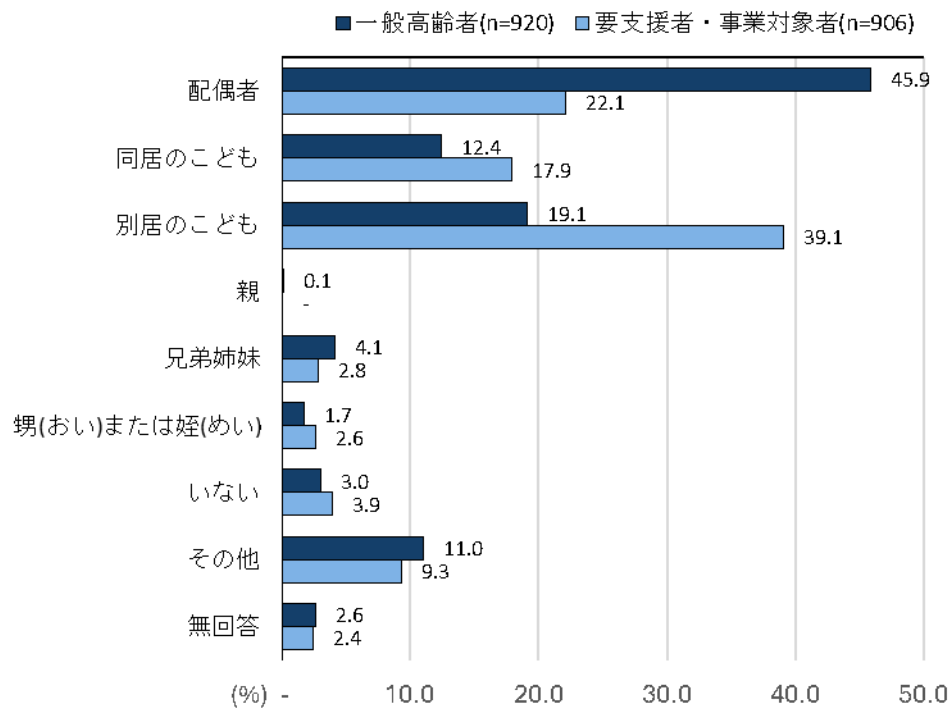


(3) 緊急事態が起きた時について

あなたの身に緊急事態が起きた時(事故等による介護を要する状態、認知症など)のことについておうかがいします。

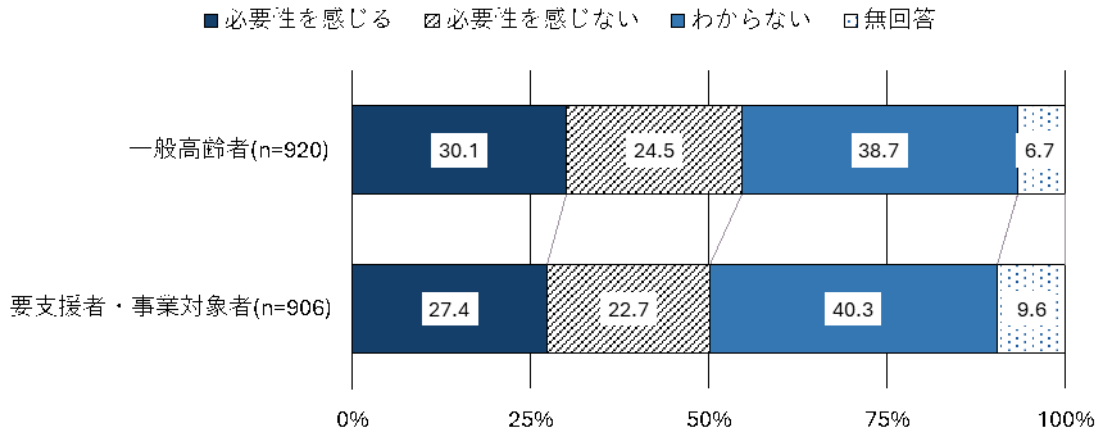
治療の方針の決定や介護サービスの利用に必要な手続き、金銭管理をしてくれる身内の方はいませんか。いる場合は、主にどなたですか。(○は1つ)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「配偶者」と「別居のこども」が高いが、両者で順位が逆転しており、一般高齢者では「配偶者」が45.9%と最も高く、要支援者・事業対象者では「別居のこども」が39.1%と最も高くなっている。



親族以外が身元保証等を行ってくれる制度は必要であると思いますか。

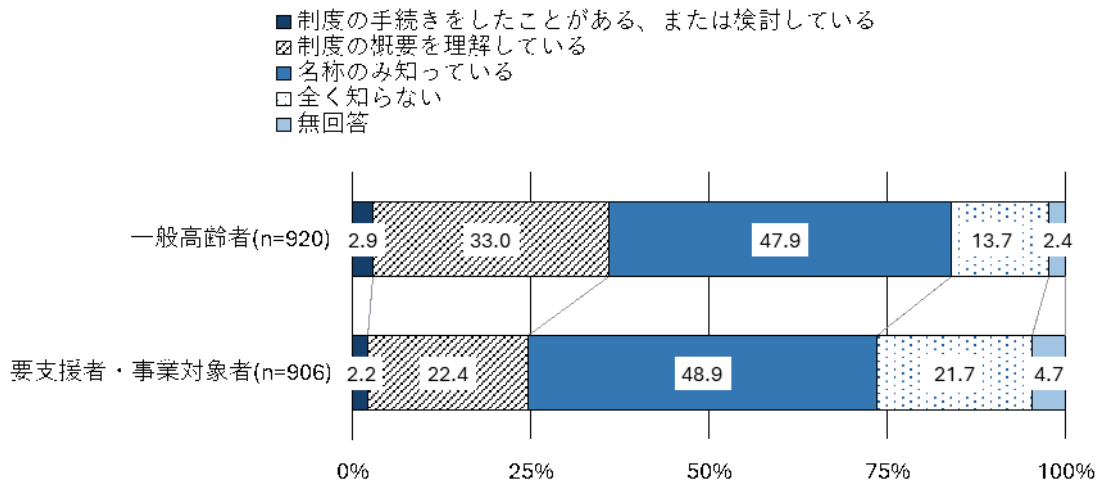
一般高齢者・要支援者・事業対象者ともに「わからない」が最も高く、一般高齢者で 38.7%、要支援者・事業対象者で 40.3%となっている。各選択肢の割合に両者で大きな差は見られない。



(4) 成年後見制度の認知度

あなたは「成年後見制度」について、どの程度ご存知ですか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「名称のみ知っている」が最も高く、一般高齢者で 47.9%、要支援者・事業対象者で 48.9%となっている。「制度の概要を理解している」は一般高齢者 33.0%に対し、要支援者・事業対象者では 22.4%と、一般高齢者が 10.6 ポイント上回っている。

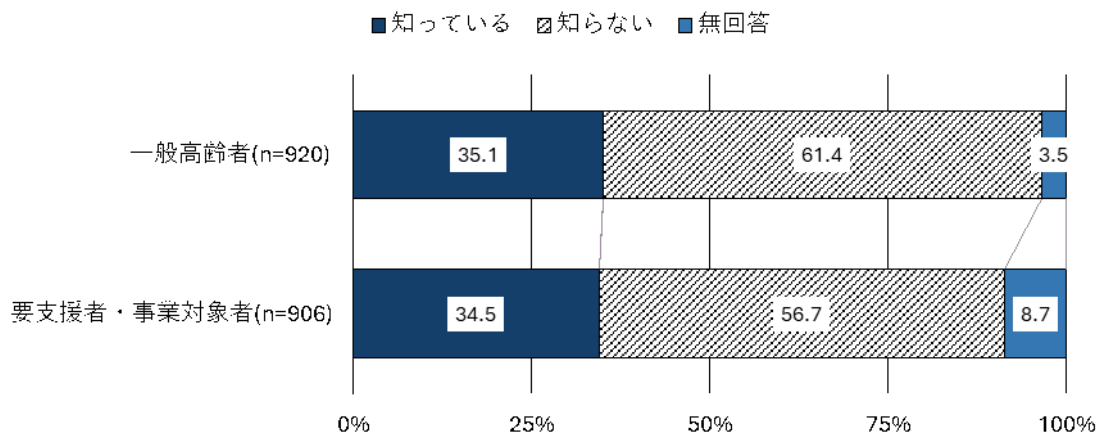


11. 認知症について

(1) 「新しい認知症観」の認知度

令和6年1月に認知症基本法が策定され、その中の考え方として「新しい認知症観」の普及を推進しています。「新しい認知症観」を知っていますか。

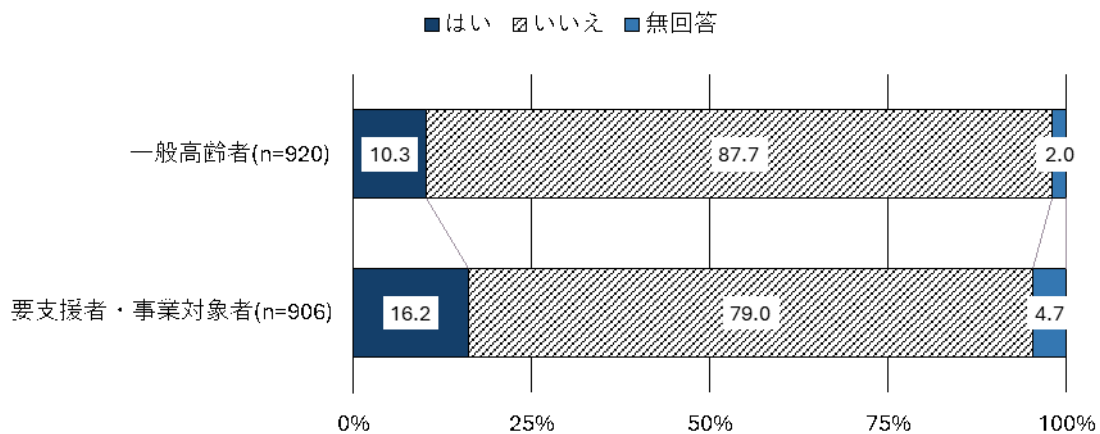
一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「知らない」が最も高く、一般高齢者で61.4%、要支援者・事業対象者で56.7%となっている。各選択肢の割合に両者で大きな差は見られない。



(2) 認知症の症状の有無

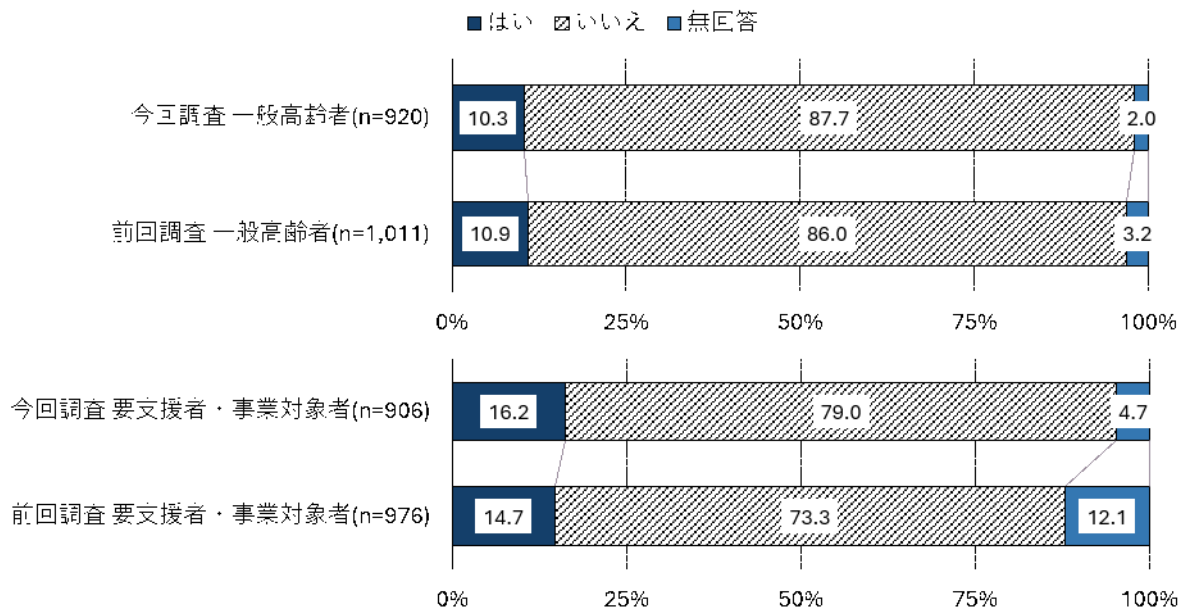
認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人がいますか。

「はい」は要支援者・事業対象者が16.2%で、一般高齢者の10.3%を5.9ポイント上回っている。



【経年比較】

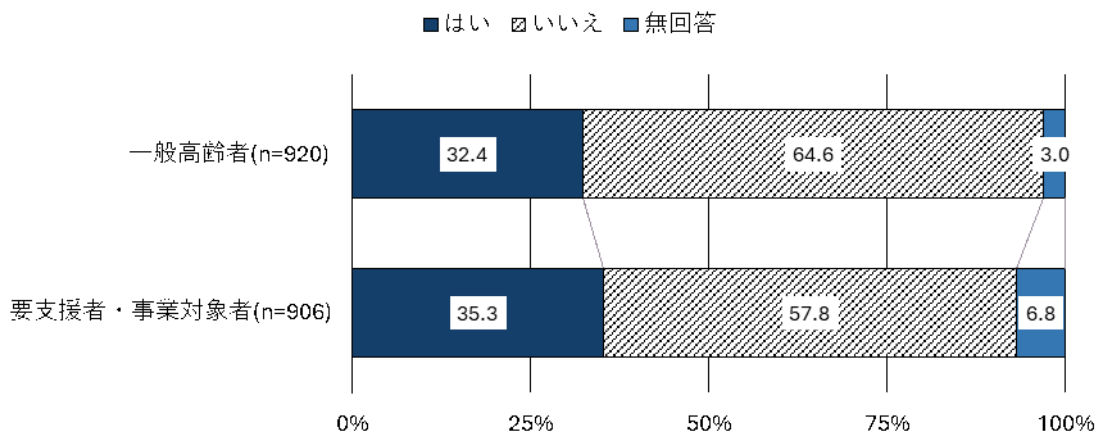
前回調査と比較しても、概ね同程度の結果となっている。



(3) 認知症に関する相談窓口の認知度

認知症に関する相談窓口を知っていますか。

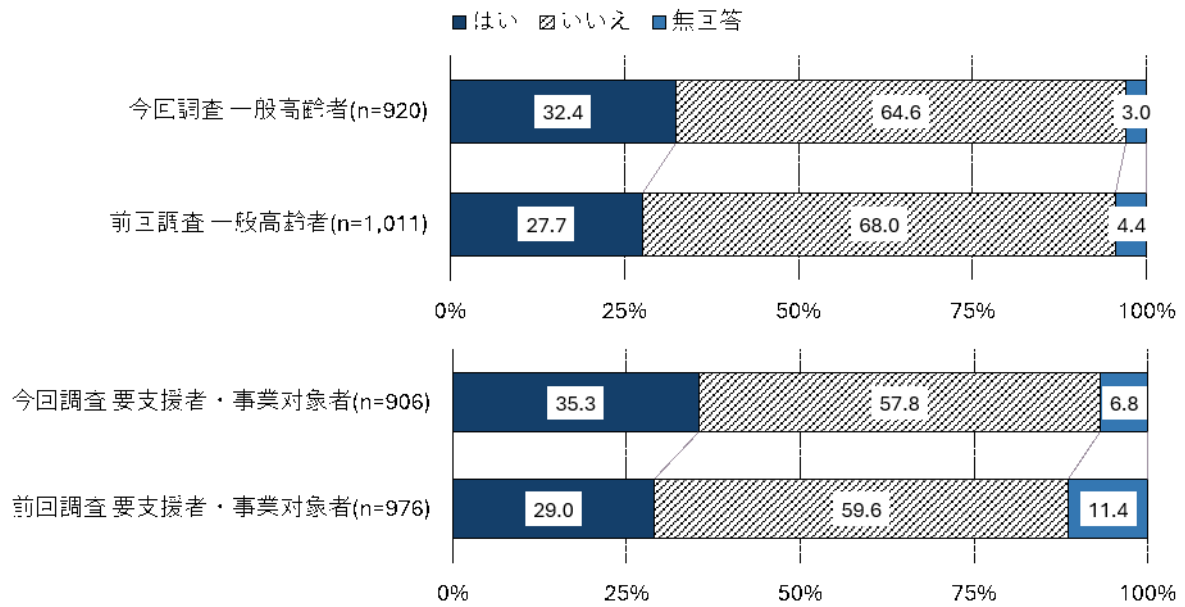
一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「いいえ」が最も高く、一般高齢者で 64.6%、要支援者・事業対象者で 57.8%となっており、一般高齢者が 6.8 ポイント上回っている。



第2章 一般高齢者、在宅要支援認定者・事業対象者調査

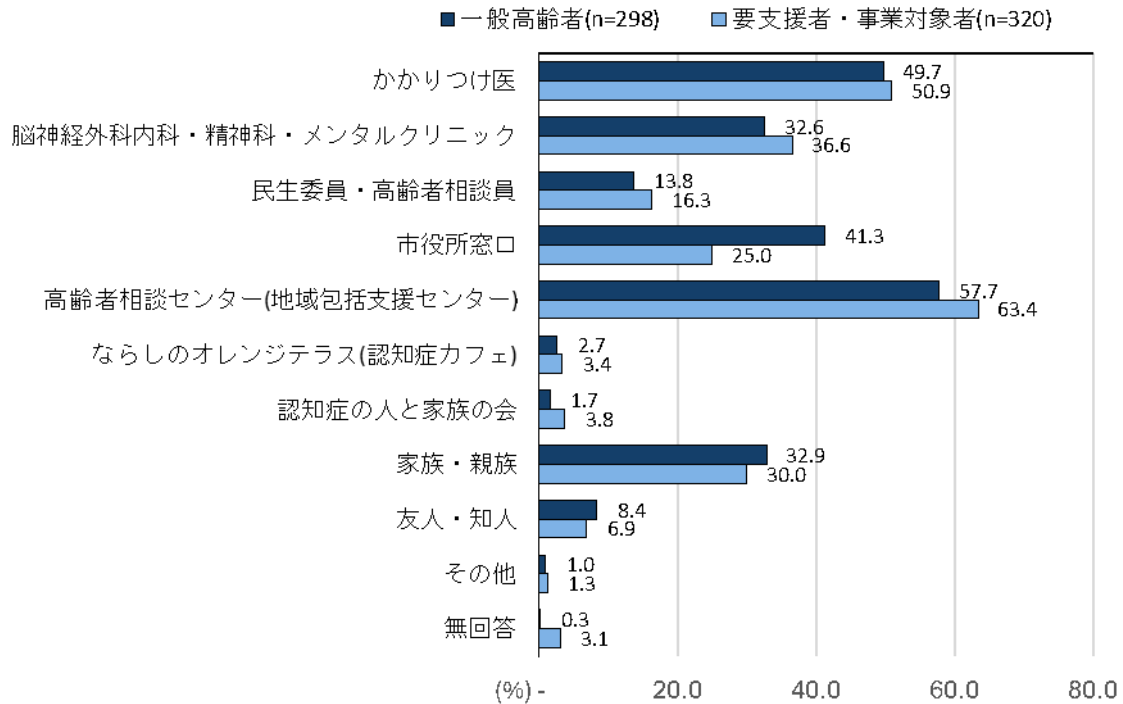
【経年比較】

前回調査と比較すると、一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに相談窓口を認知している割合がやや上昇している。



(「認知症相談窓口を知っている」と答えた方)どこに相談すると思いますか、または相談しましたか。
(〇はいくつでも)

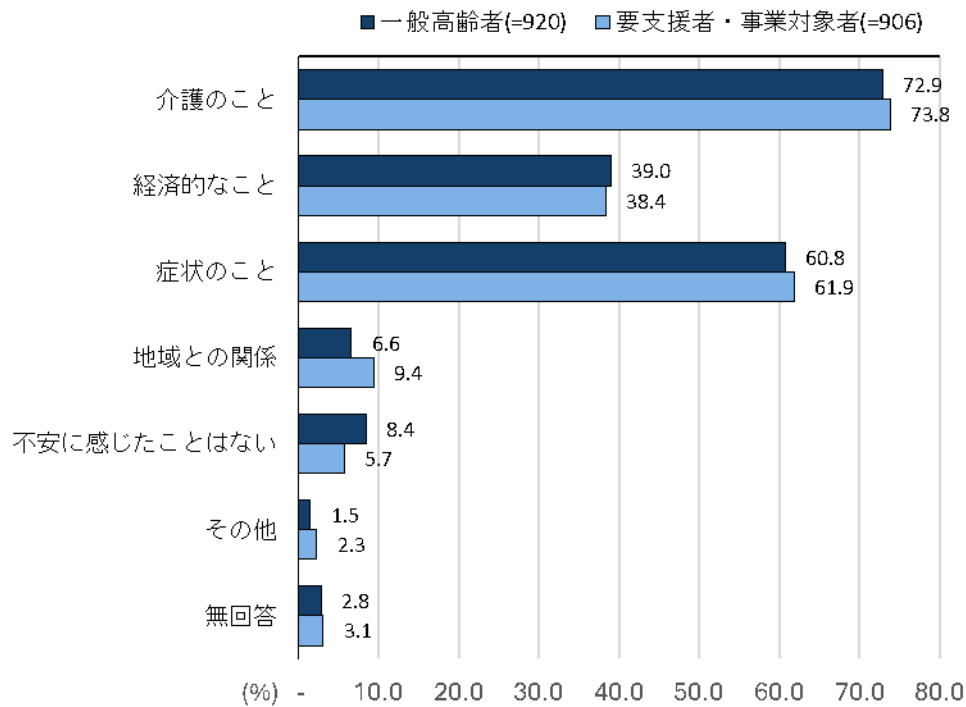
一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「高齢者相談センター(地域包括支援センター)」が最も高く、一般高齢者で 57.7%、要支援者・事業対象者で 63.4%となっている。次いで、「かかりつけ医」が一般高齢者で 49.7%、要支援者・事業対象者で 50.9%となっている。



(4) 自分や家族が認知症になった場合について

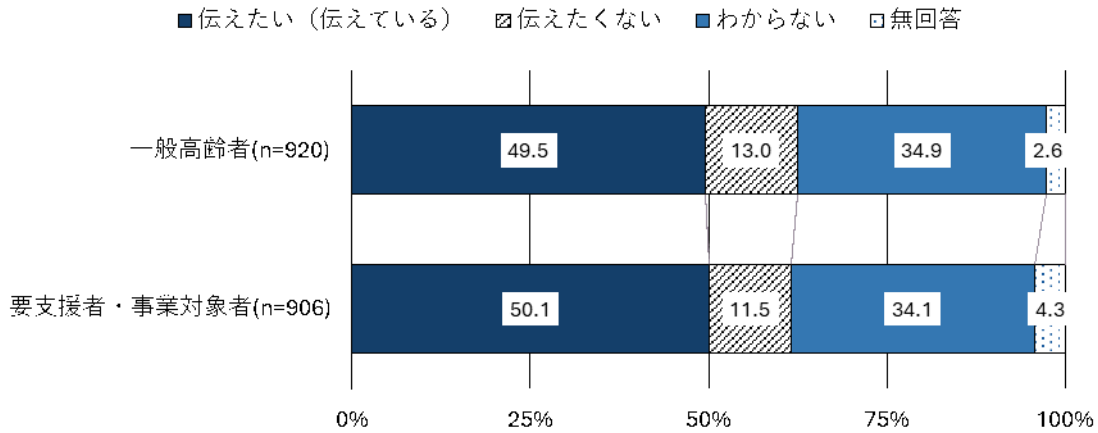
自分自身が認知症になったときにどうしたらいいのか、不安に感じることは何ですか。(〇はいくつでも)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「介護のこと」が最も高く、一般高齢者で72.9%、要支援者・事業対象者で73.8%、次いで「症状のこと」は一般高齢者で60.8%、要支援者・事業対象者で61.9%となっている。各選択肢の割合に両者で大きな差は見られない。



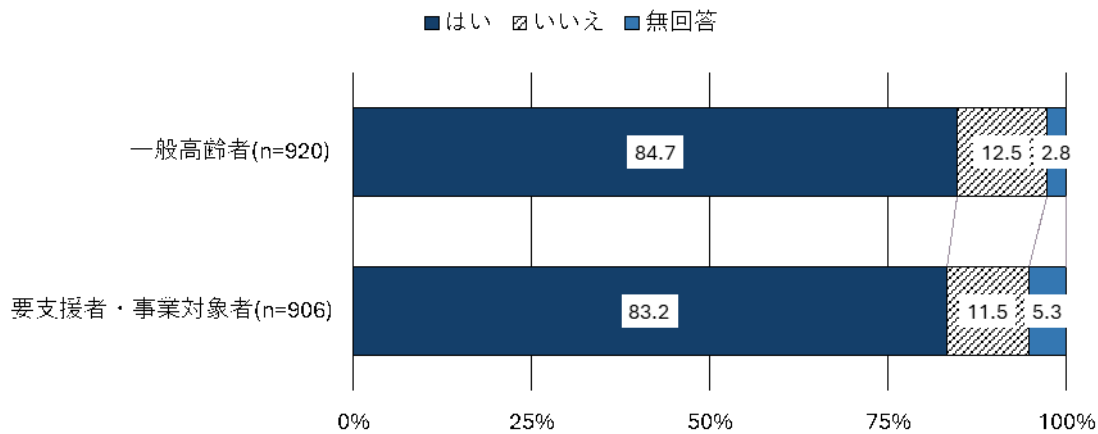
自分や家族が認知症になった場合、周囲に認知症であることを伝えたいと思いますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「伝えたい(伝えている)」が最も高く、一般高齢者で49.5%、要支援者・事業対象者で50.1%となっている。各選択肢の割合に大きな差はみられない。



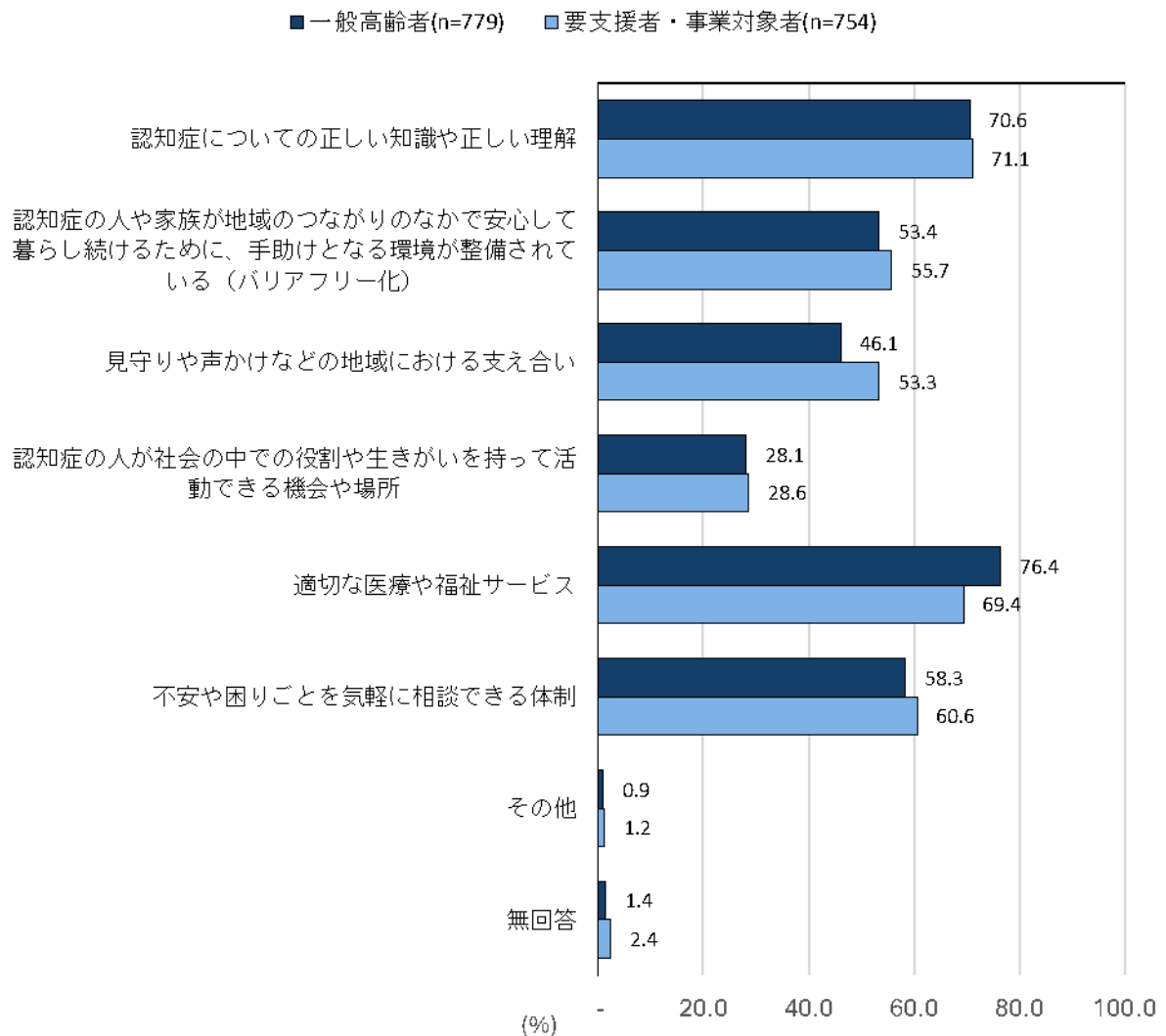
認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けたいと思いますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「はい」が最も高く、両者8割以上となった。各選択肢の割合に大きな差はみられない。



(暮らし続けたいと答えた方)認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる地域を作っていくために必要であると思うことは何ですか。
(〇はいくつでも)

一般高齢者では「適切な医療や福祉サービス」が76.4%と最も高く、次いで「認知症についての正しい知識や正しい理解」が70.6%となっている。要支援者・事業対象者では、「認知症についての正しい知識や理解」が71.1%と最も高く、次いで「適切な医療やサービス」が69.4%となっている。

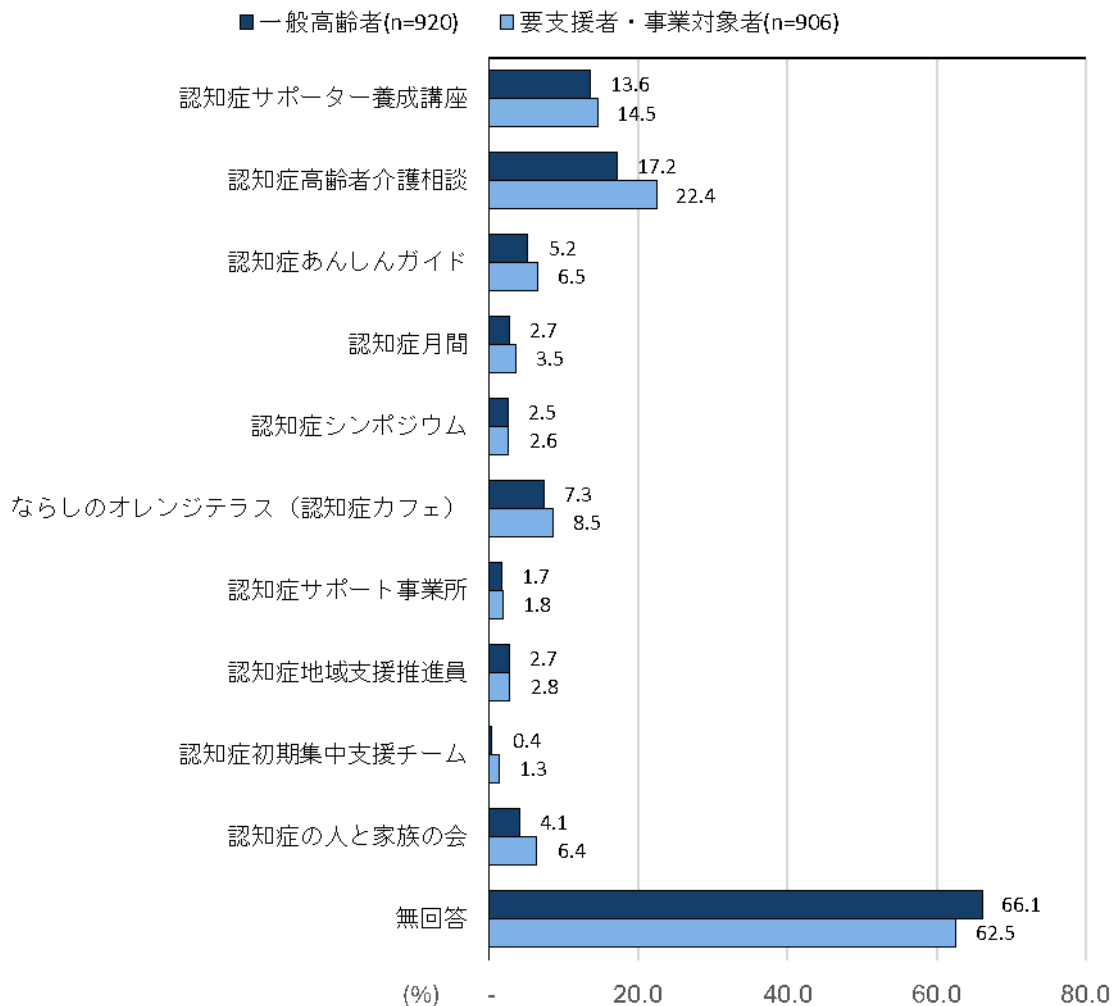


(5) 市の認知症施策の認知度

市が取り組んでいる認知症施策等で知っているものはありますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「認知症高齢者介護相談」が最も高く、一般高齢者が17.2%、要支援者・事業対象者が22.4%となっている。次いで、「認知症サポーター養成講座」が一般高齢者で13.6%、要支援者・事業対象者で14.5%となっている。

なお、本設問では「知っているものはない」の選択肢が設けられていないため、「無回答」が多くなっている可能性がある。全体のうち、知っている認知症施策がある人の割合は一般高齢者で312人(33.9%)、要支援者・事業対象者で340人(37.5%)となっており、それぞれ3割台にとどまっている。

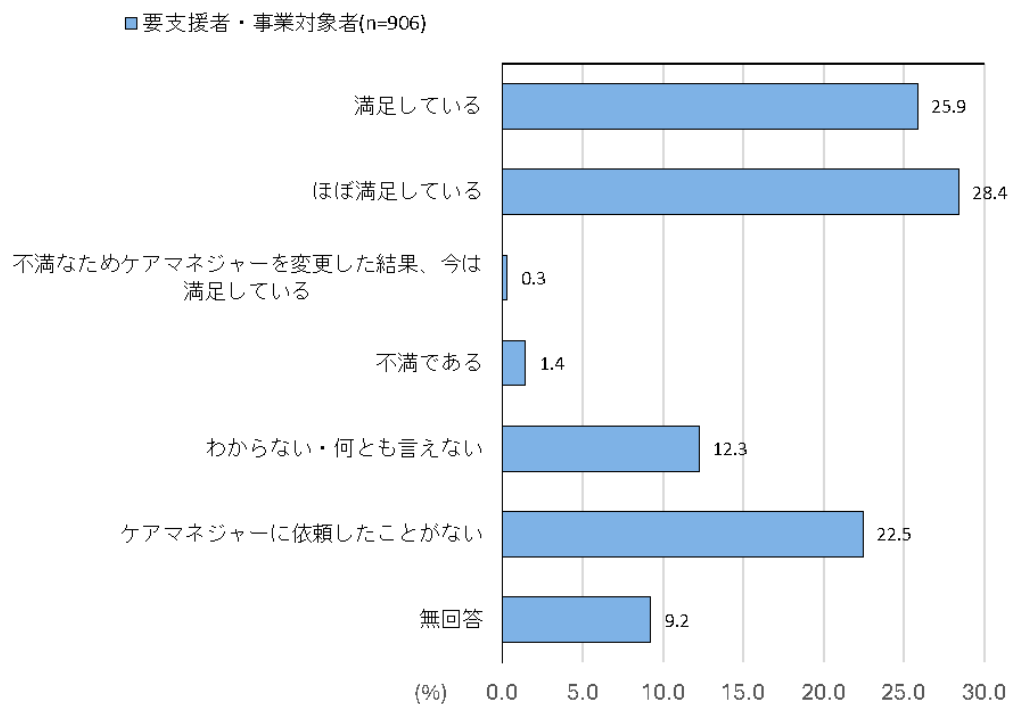


12. 介護保険の利用について

(1) ケアマネジャーに対する満足度

ケアマネジャーの対応に満足していますか。

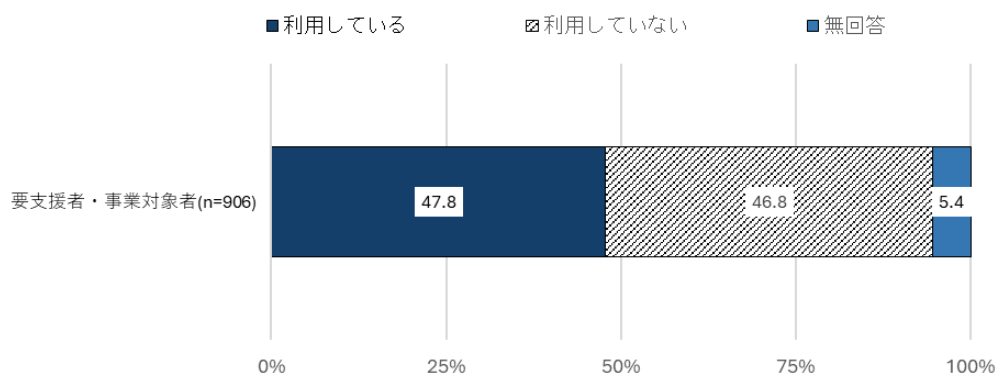
「満足している」「ほぼ満足している」「不満なためケアマネジャーを変更した結果、今は満足している」が合わせて 54.3%と半数以上が現状の対応に満足している。「不満である」は 1.4%となっている。



(2) 介護保険サービスの利用状況

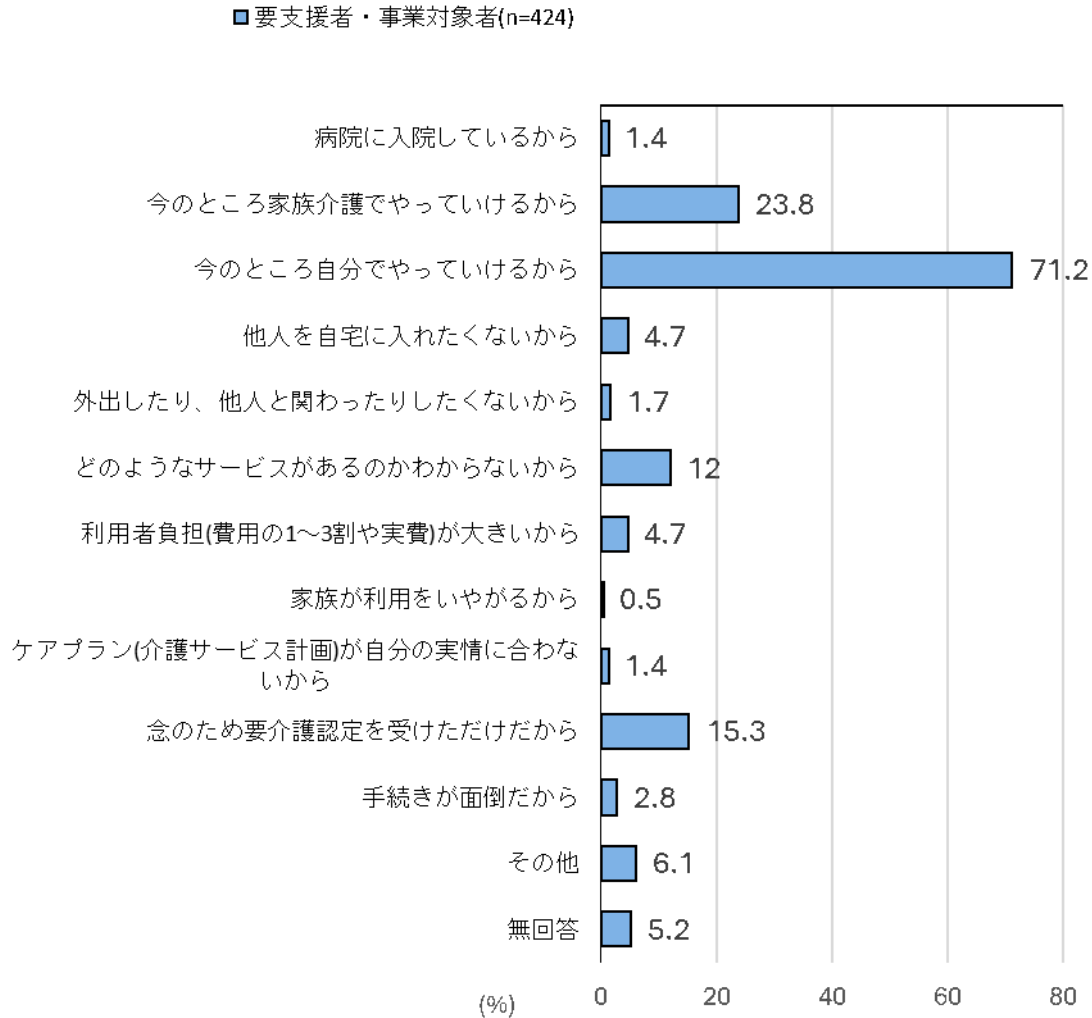
あなたは、この1か月に介護保険のサービスを利用しましたか。

「利用している」が 47.8%、「利用していない」が 46.8%となっている。



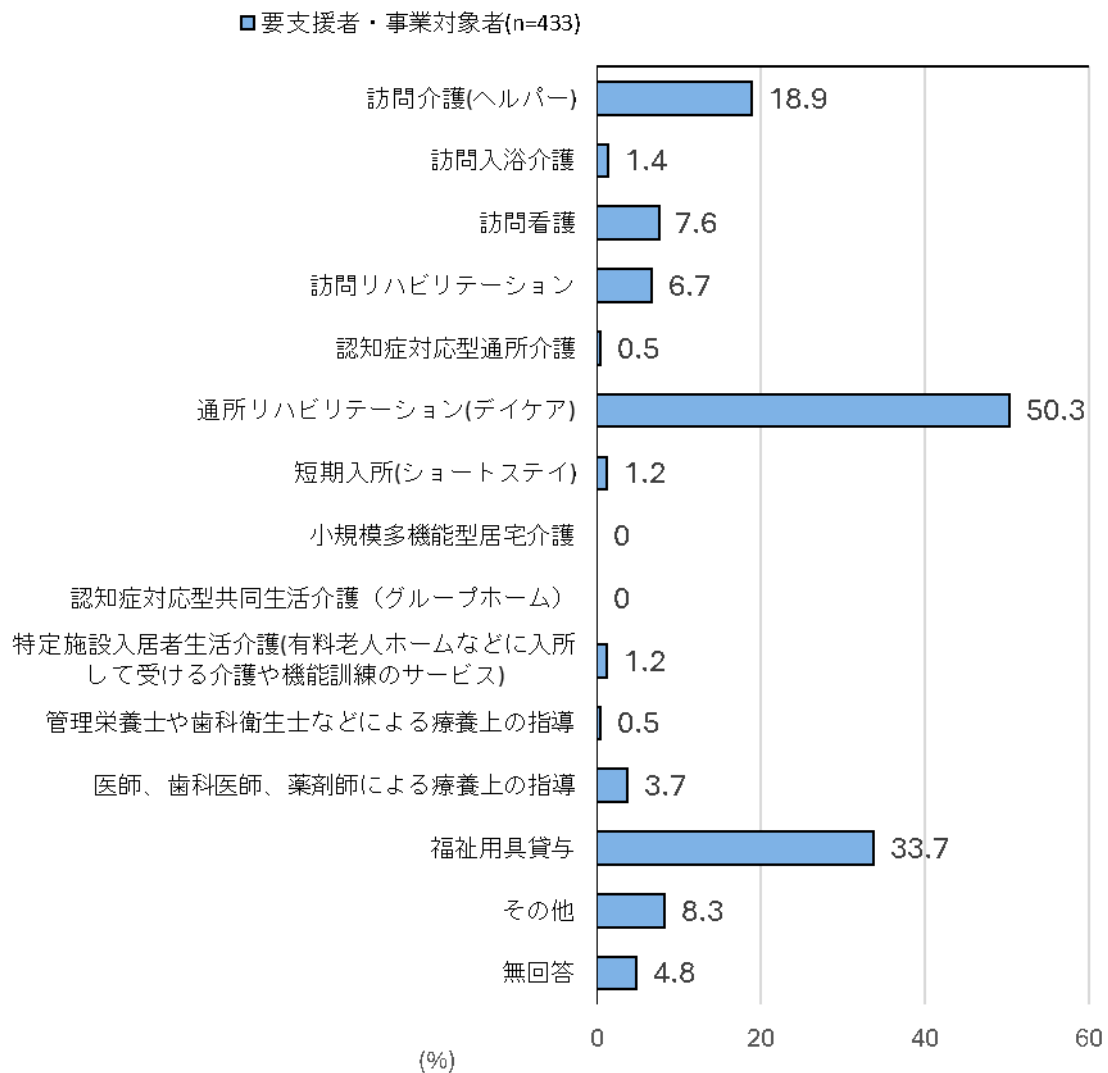
(利用していない人)利用していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

「今のところ自分でやっていけるから」が71.2%と最も高く、次いで「今のところ家族介護でやっていけるから」が23.8%となっている。



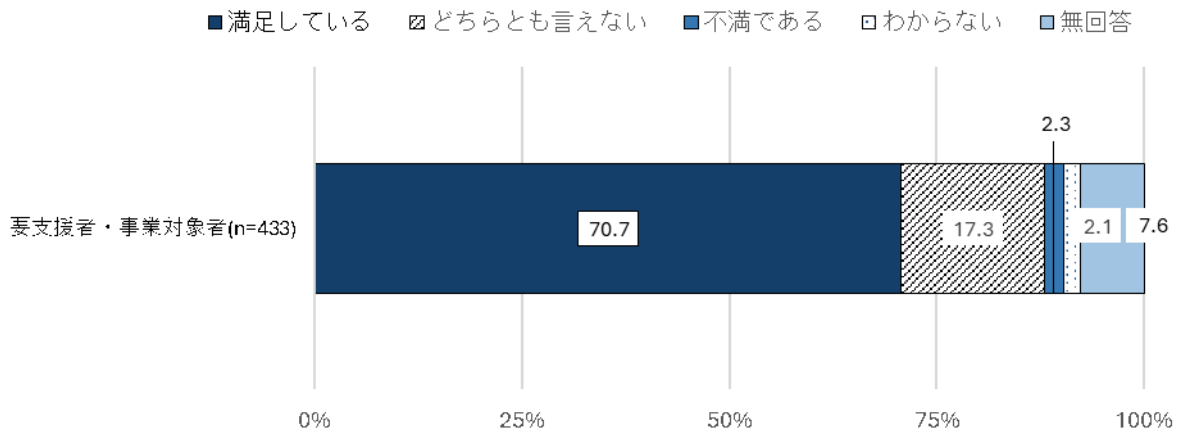
(利用している人)以下のサービスを利用していますか。(〇はいくつでも)

「通所リハビリテーション(デイケア)」が 50.3%と最も高く、次いで「福祉用具貸与」が 33.7%、「訪問介護(ヘルパー)」が 18.9%となっている。



(利用している人)利用しているサービスに満足していますか。

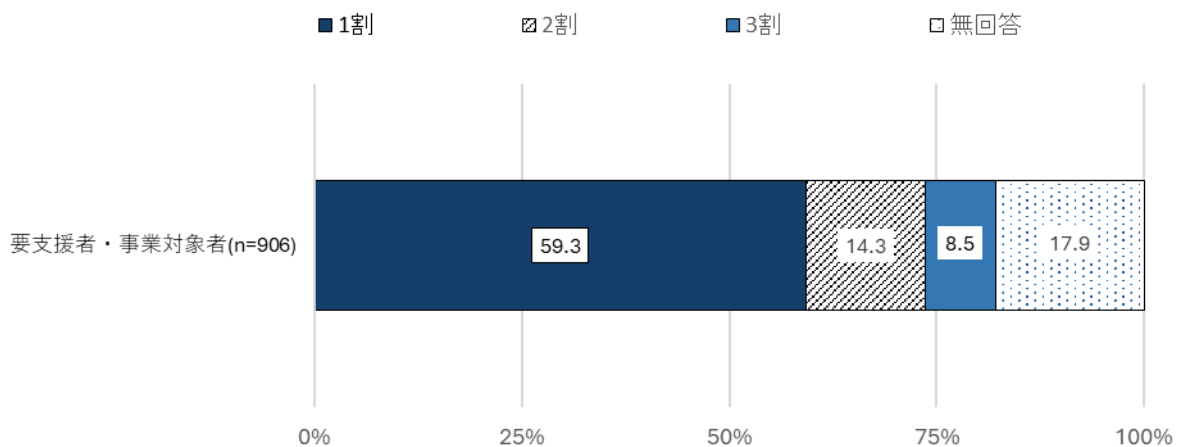
「満足している」が70.7%と最も高く、「どちらとも言えない」が17.3%、「不満である」が2.3%となっている。



(3) 介護サービスの自己負担割合と負担感

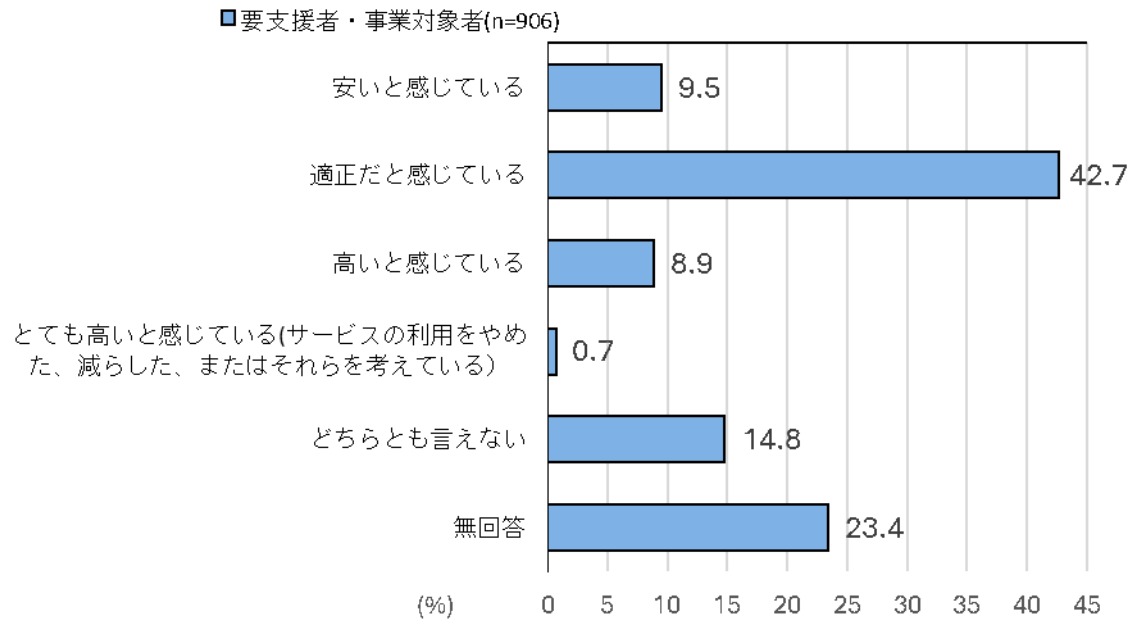
あなたの自己負担割合をお答えください。

「1割」が59.3%と最も高く、「2割」が14.3%、「3割」が8.5%となっている。



お答えいただいた費用(自己負担分)について、どのように感じていますか。

「適正だと感じている」が42.7%と最も高い。「安いと感じている」「高いと感じている」は同程度となっている。



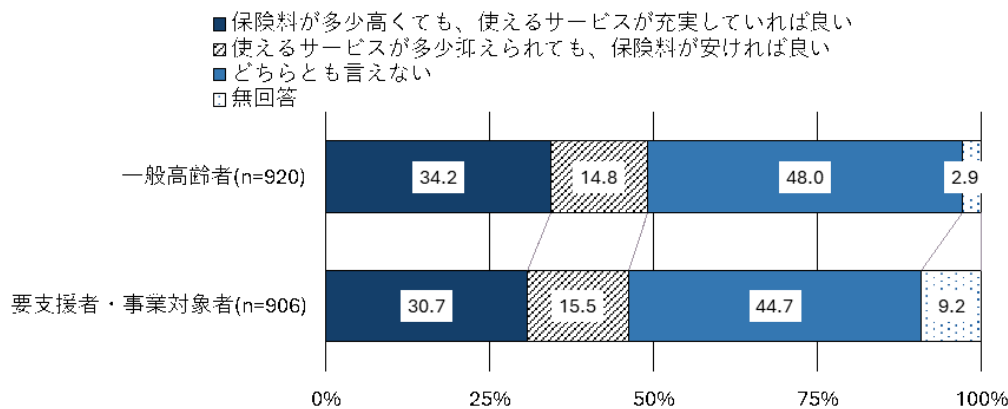
13. 介護保険制度・高齢者施策について

(1) 介護保険料と介護サービスのあり方について

介護保険制度は、40歳以上の方から保険料を徴収して介護が必要な方にサービスを提供する費用にあてていますが、保険料と介護サービスのあり方について、あなたのご意見に近いものはどれですか。

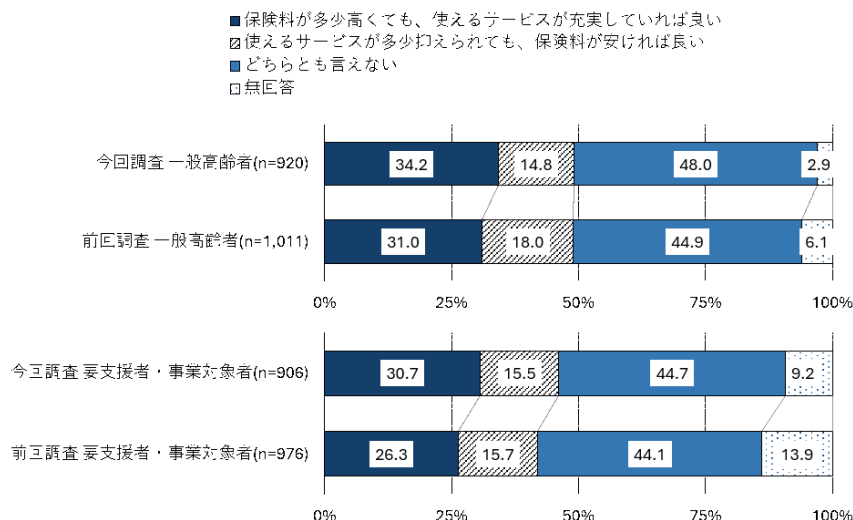
一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「どちらとも言えない」が最も高く、一般高齢者で48.0%、要支援者・事業対象者で44.7%と、いずれも半数近くを占めている。

次いで、「保険料が多少高くても、使えるサービスが充実していれば良い」が一般高齢者で34.2%、要支援者・事業対象者で30.7%、「使えるサービスが多少抑えられても、保険料が安ければ良い」がそれぞれ15%前後となっている。



【経年比較】

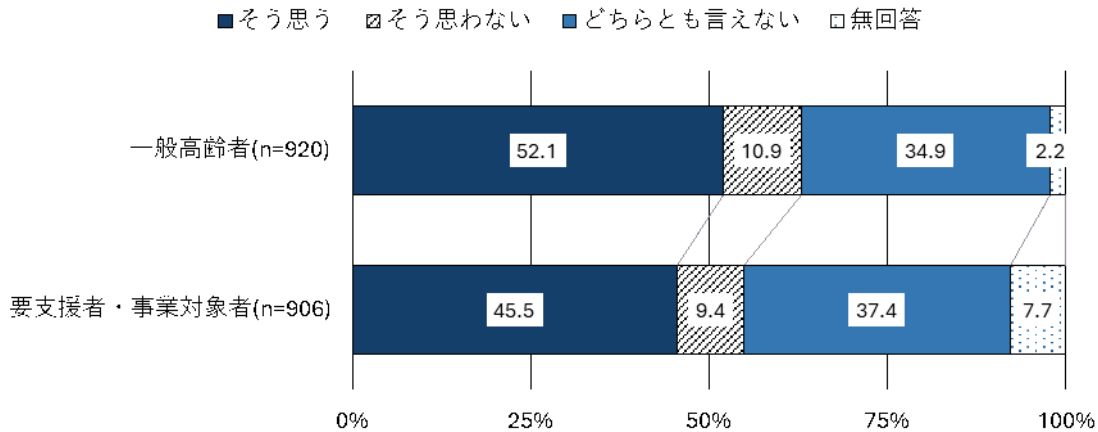
前回調査と比較すると、大きな差はないものの、一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに保険料が高くてもサービス充実を重視する割合がわずかに上昇し、サービス抑制でも保険料の低さを重視する割合がわずかに下がっている。



第2章 一般高齢者、在宅要支援認定者・事業対象者調査

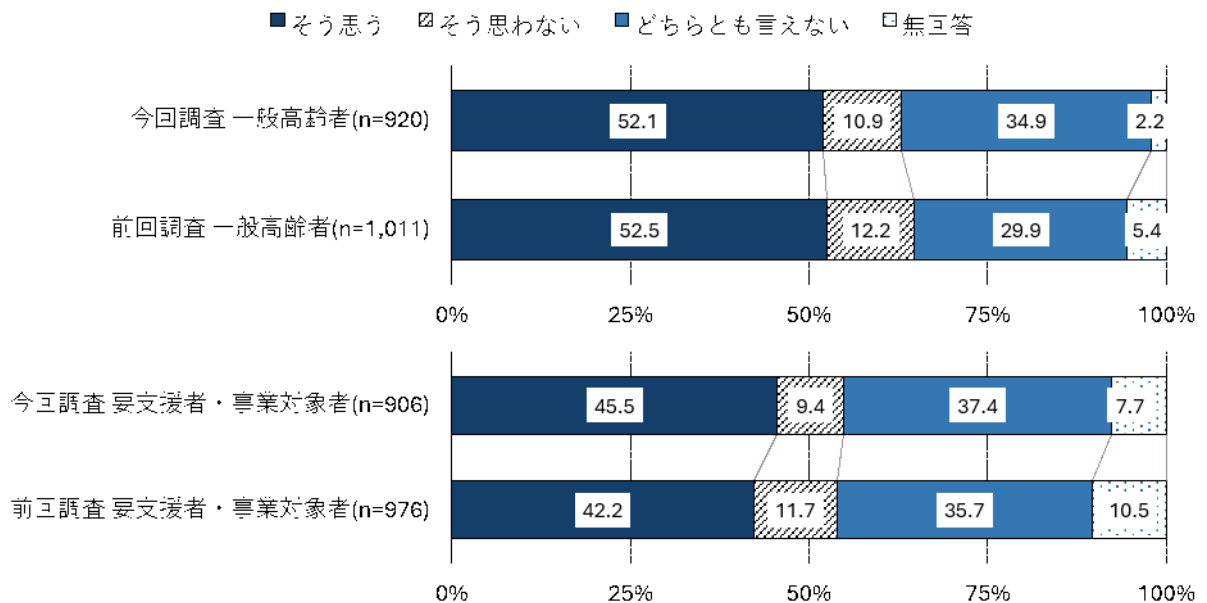
65歳以上の方の保険料に関して「低所得者に配慮するために、高所得者の負担を多少増やすのもやむを得ない」ということについて、あなたはどのようにお考えですか。

一般高齢者・要支援者・事業対象者ともに「そう思う」が最も高く、一般高齢者で52.1%、要支援者・事業対象者で45.5%となっており、一般高齢者が6.6ポイント上回っている。「そう思わない」は両者1割程度、「どちらとも言えない」は両者3割台となっている。



【経年比較】

前回調査と比較しても、概ね同程度の結果となっている。

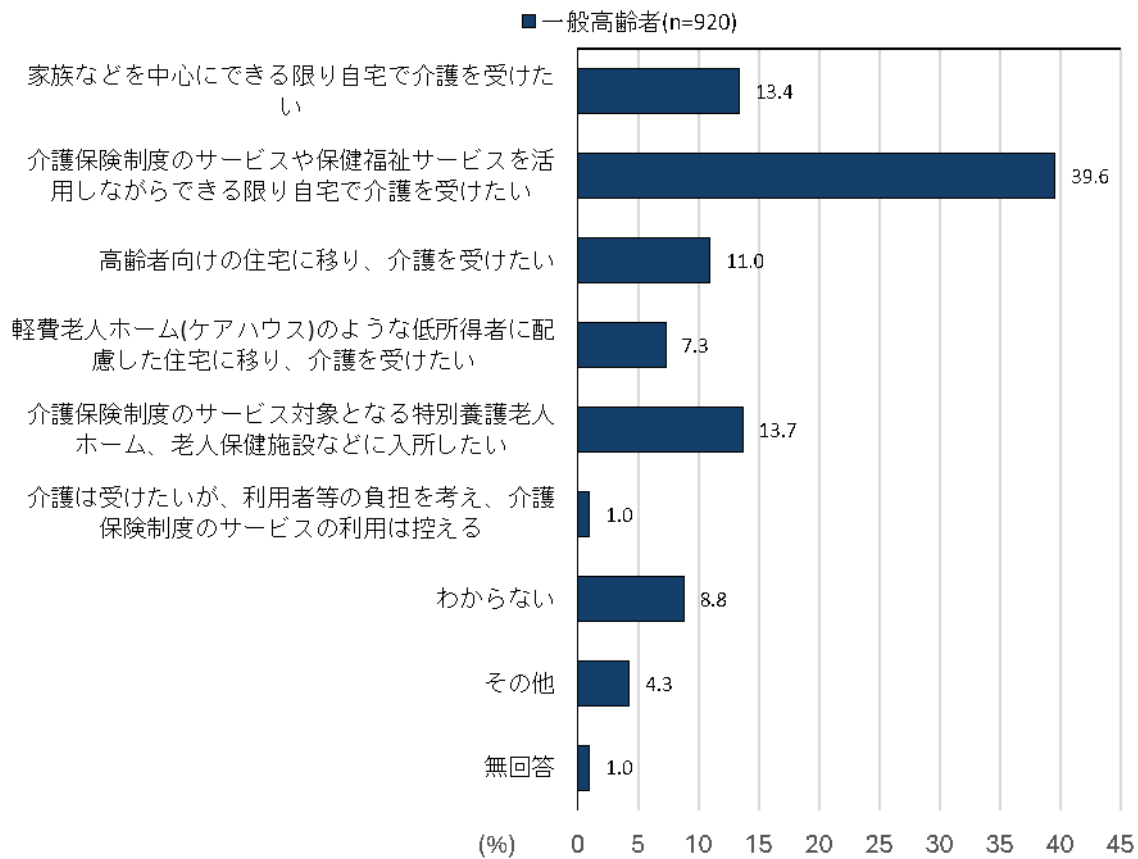


(2) 将来の生活と介護予防について

(一般高齢者のみ)今後、もしあなたご自身が介護が必要となった場合、どのようにしたいとお考えですか。

「介護保険制度のサービスや保健福祉サービスを活用しながらできる限り自宅で介護を受けたい」が39.6%と最も高くなっている。

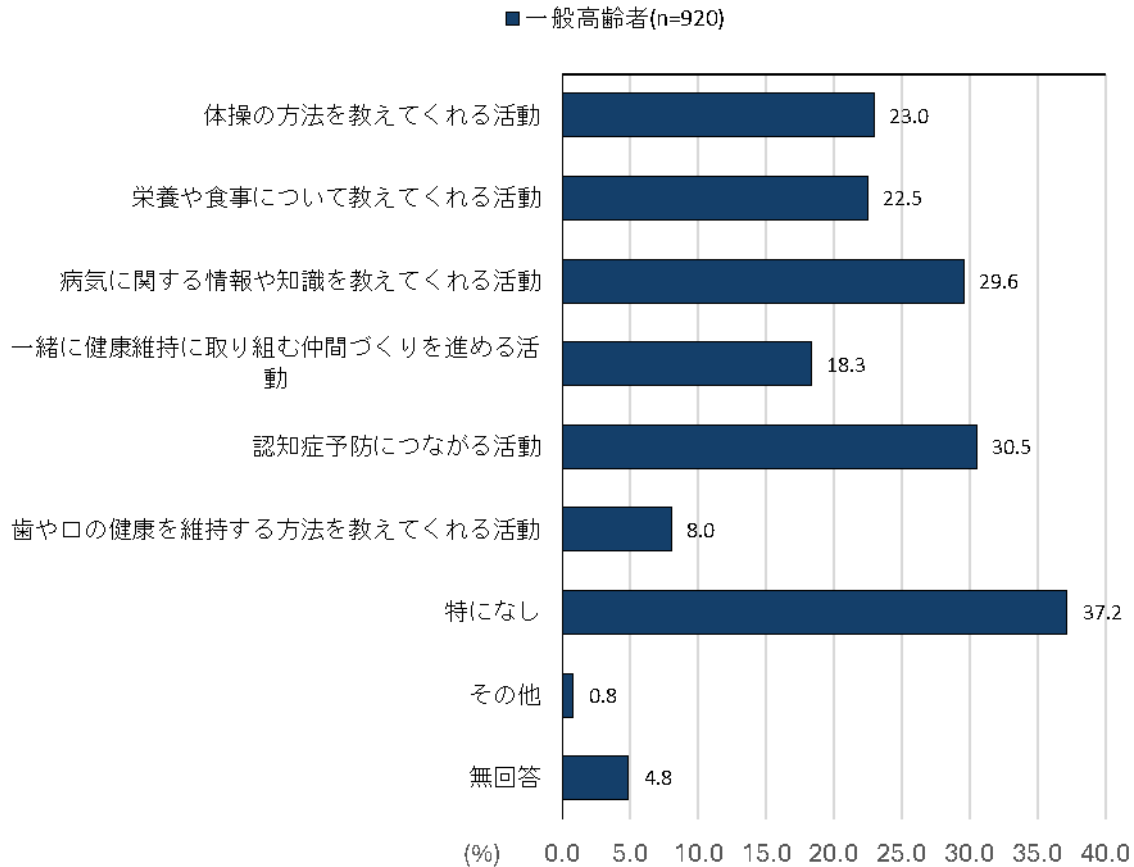
次いで、「介護保険制度のサービス対象となる特別養護老人ホーム、老人保健施設などに入所したい」が13.7%、「家族などを中心にできる限り自宅で介護を受けたい」が13.4%となっている。



(一般高齢者のみ)介護予防のために参加したい活動はありますか。

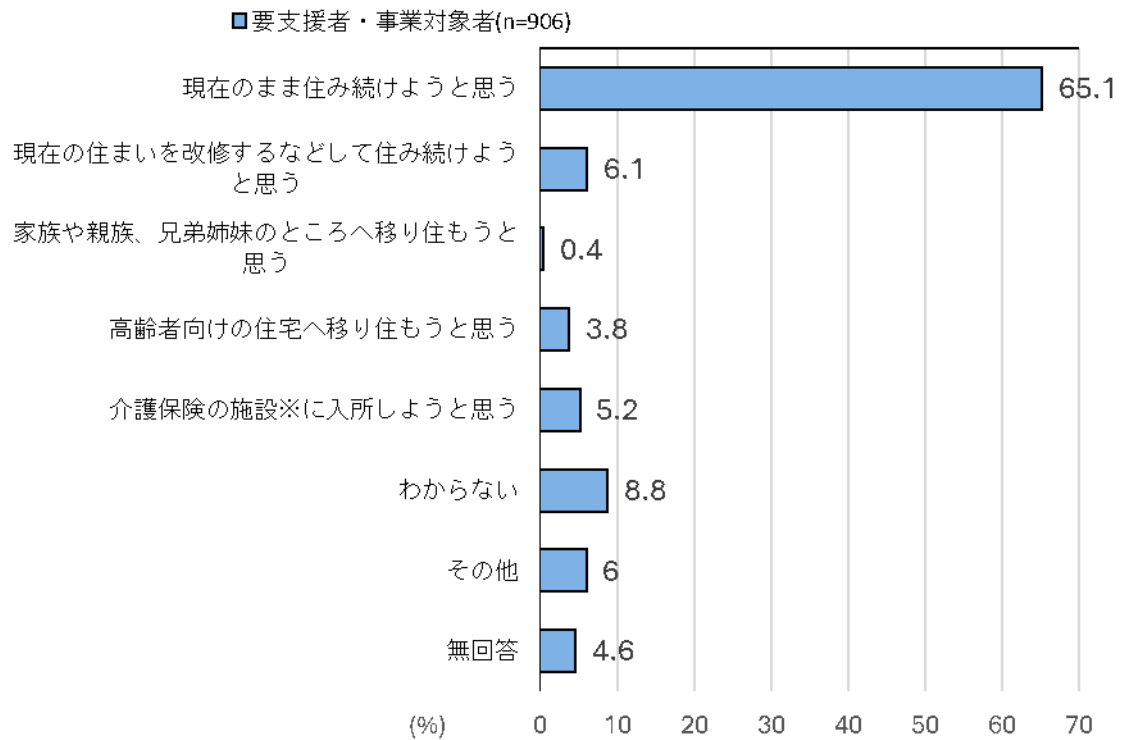
「特になし」が37.2%と最も高くなっている。

次いで、「認知症予防につながる活動」が30.5%、「病気に関する情報や知識を教えてくれる活動」が29.6%、「体操の方法を教えてくれる活動」が23.0%となっている。



(要支援者・事業対象者のみ)今後希望する生活場所についてうかがいます。

「現在のまま住み続けようと思う」が65.1%と最も高い。

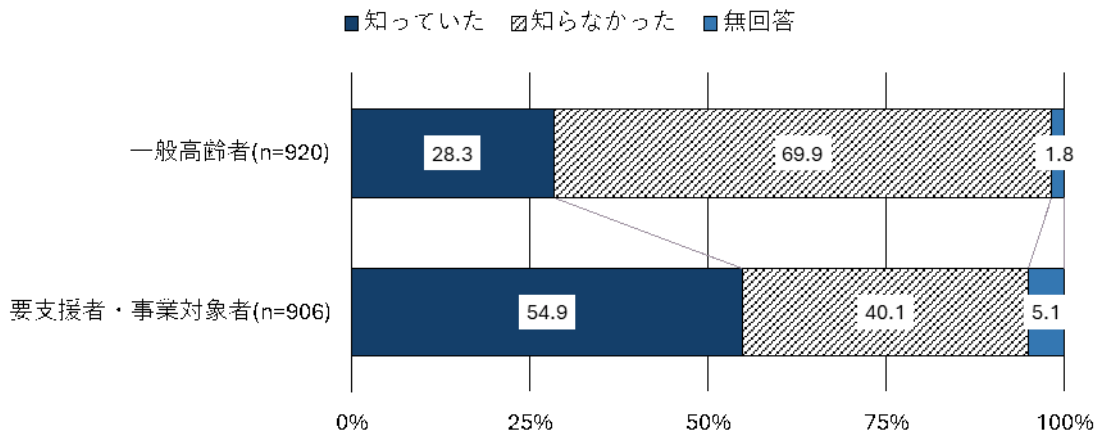


(3) 高齢者外出支援事業について

高齢者外出支援事業(タクシー券の支給)を知っていますか。

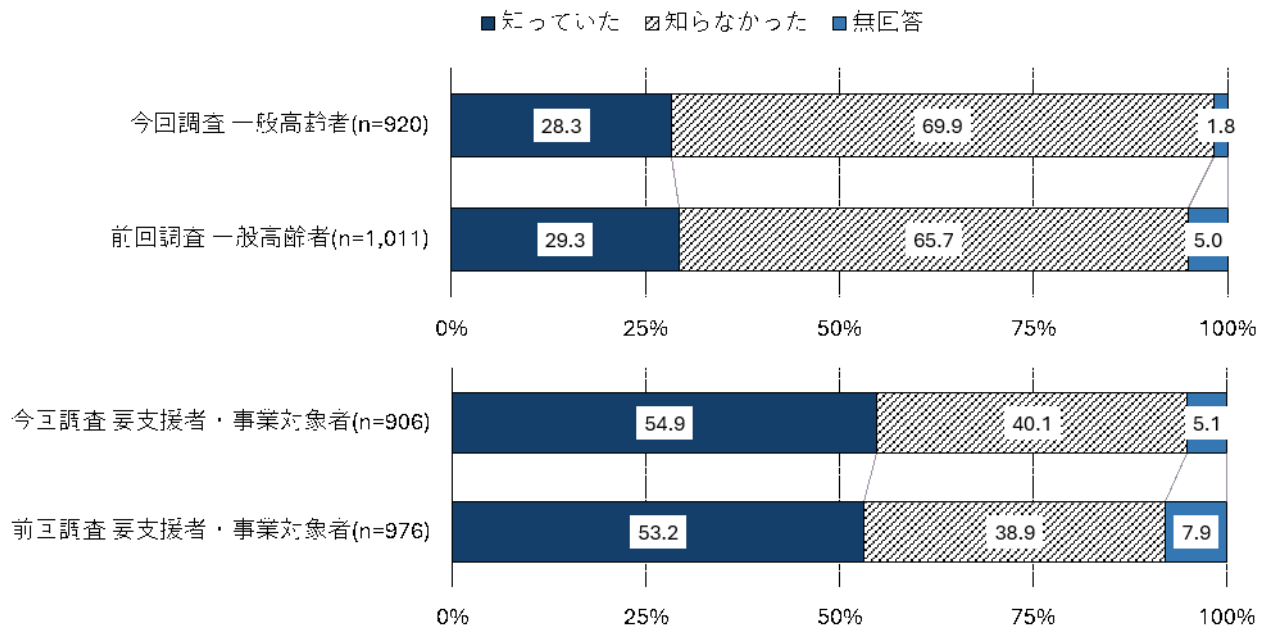
一般高齢者では「知らなかった」が69.9%と高く、「知っていた」は28.3%にとどまっている。

一方、要支援者・事業対象者では「知っていた」が54.9%で、「知らなかった」の40.1%を上回っており、一般高齢者と比べて26.6ポイント高くなっている。



【経年比較】

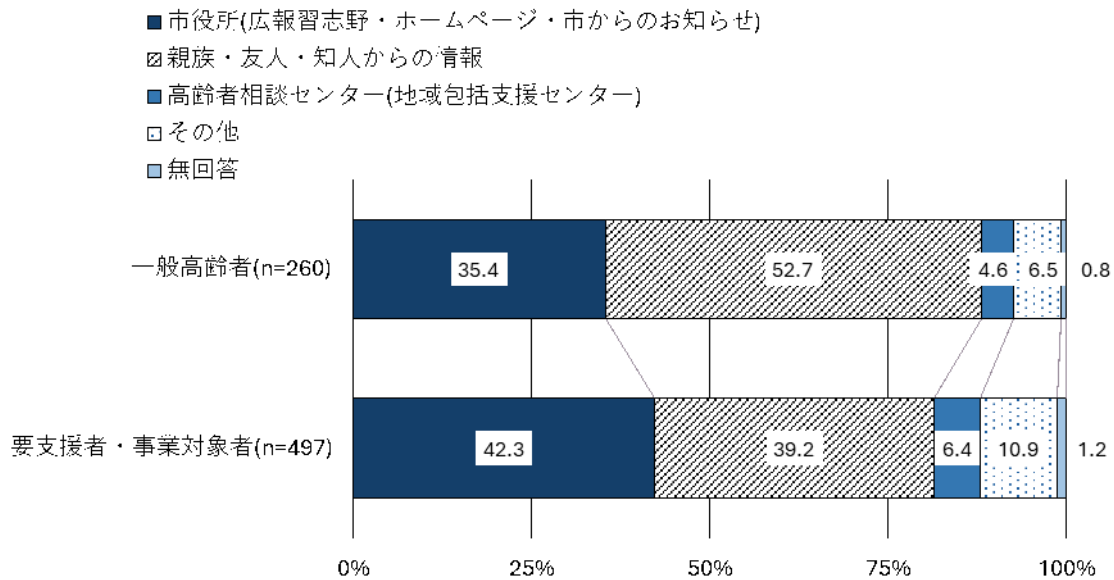
前回調査と比較しても概ね同程度の結果となっている。



(知っている方)本事業を何で知りましたか。

一般高齢者では「親族・友人・知人からの情報」が52.7%と最も高く、要支援者・事業対象者の39.2%を13.5ポイント上回っている。

一方、要支援者・事業対象者では「市役所(広報・ホームページ等)」が42.3%で最も高く、一般高齢者の35.4%を6.9ポイント上回っている。



より良い高齢者の外出支援策とするには、今後どのような事業の見直しを行うのが良いと思いますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「タクシー券に代わるものとして、タクシー利用に加えて電車・バス・コミュニティバスなど公共交通全般にも利用できる助成にしてほしい」が最も高い。一般高齢者においては69.3%で、要支援者・事業対象者の49.7%を19.6ポイント上回っている。

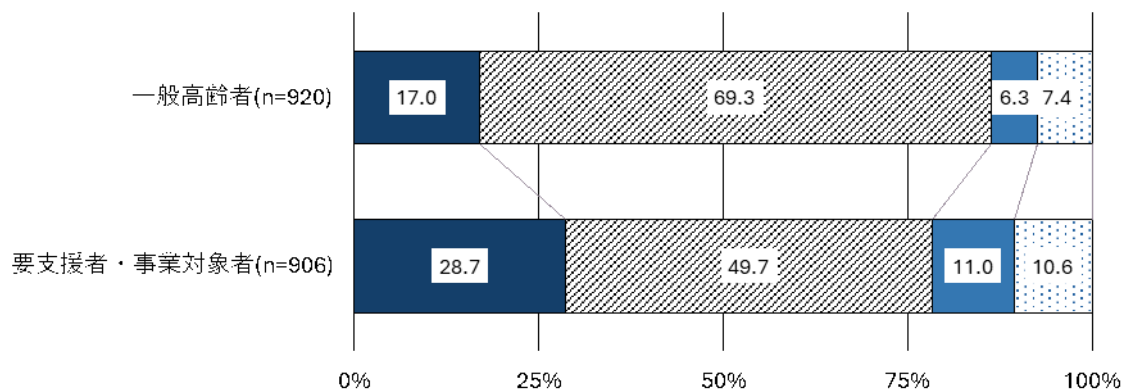
一方、「現状のタクシー券のまま継続してほしい」は要支援者・事業対象者が28.7%で、一般高齢者の17.0%を11.7ポイント上回っている。

■ 現状のタクシー券のまま継続してほしい

▨ タクシー券に代わるものとして、タクシー利用に加えて電車・バス・コミュニティバスなど公共交通全般にも利用できる助成にしてほしい

■ その他

□ 無回答

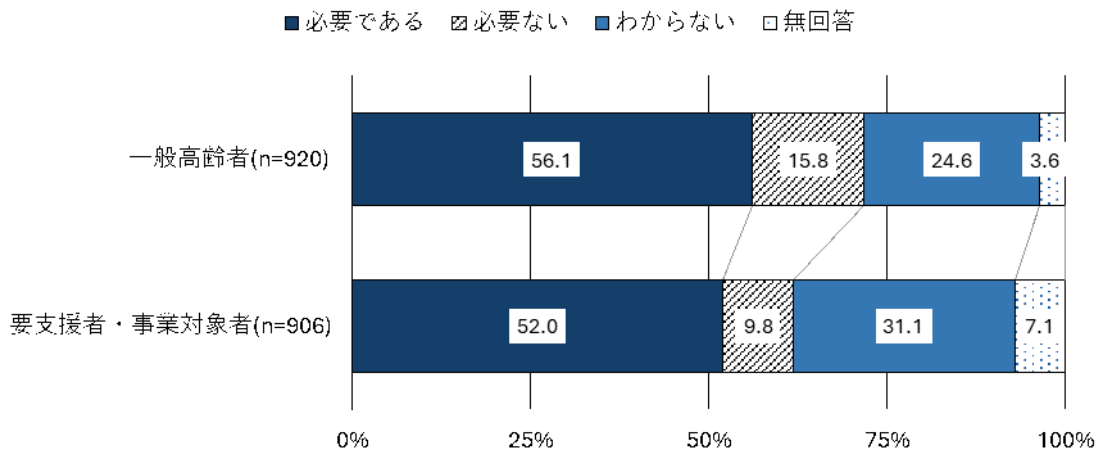


(4) 運転免許証自主返納者への支援について

近年、高齢者ドライバーが当事者となる痛ましい事故が多発し、運転免許証の自主返納に大きな関心が集まっています。本市の公共交通は比較的充実していることから、現時点でタクシー券等の支給は行っていないですが、今後、運転免許証を自主返納した方に対する税金を使った支援は必要であると思いますか。

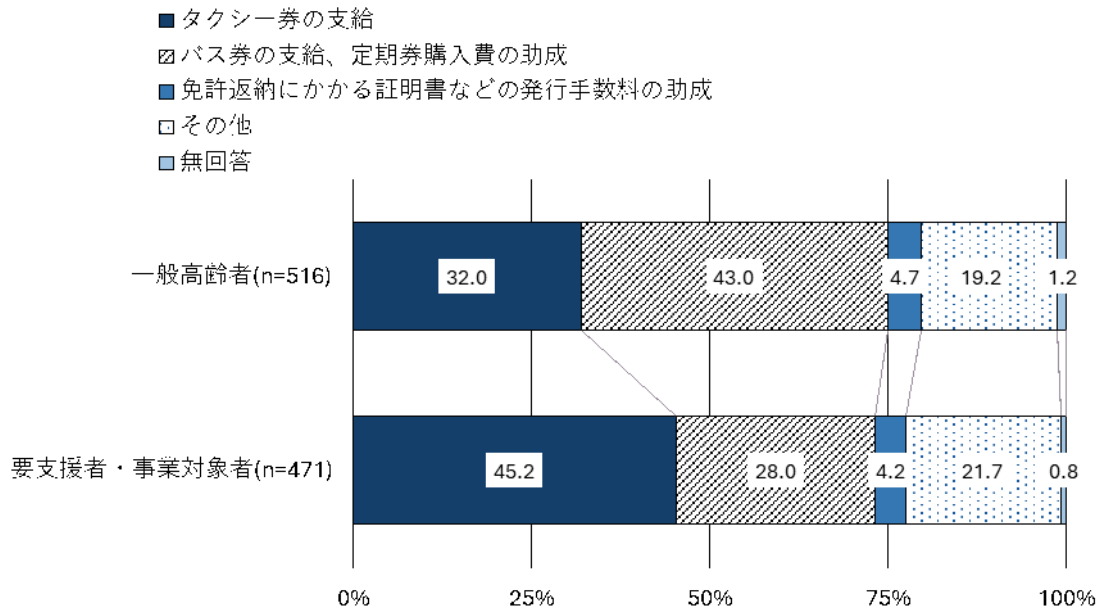
一般高齢者、要支援者・事業対象者とともに「必要である」が最も高く、一般高齢者で 56.1%、要支援者・事業対象者で 52.0%となっている。

一方、「必要ない」は一般高齢者で 15.8%であり、要支援者・事業対象者の 9.8%を 6.1 ポイント上回っている。「わからない」は要支援者・事業対象者で 31.1%と、一般高齢者の 24.6%を 6.5 ポイント上回っている。



(「必要である」を選択された方)どのような支援が必要であると思いますか。

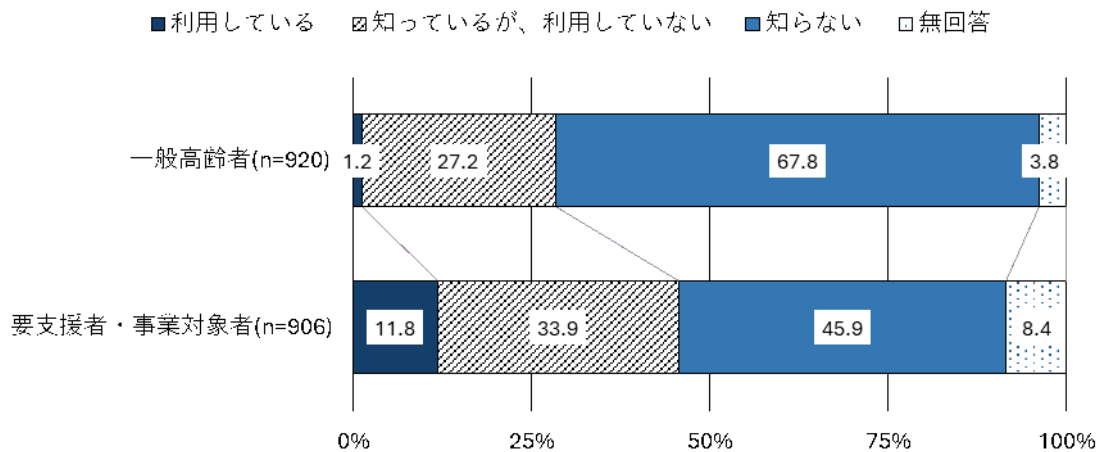
一般高齢者では「バス券の支給、定期券購入費の助成」が43.0%と最も高くなっている一方、要支援者・事業対象者では「タクシー券の支給」が45.2%と最も高くなっている。



(5) 高齢者相談センターの相談窓口の認知度

高齢者相談センターで、センター内での生活支援や介護予防についての相談ができることをご存じですか。もしくは利用していますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「知らない」が最も高い。一般高齢者が 67.8%で、要支援者・事業対象者の 45.9%を 21.9 ポイント上回っている。「利用している」は要支援者・事業対象者で 11.8%となっており、一般高齢者の 1.2%を 10.6 ポイント上回っている。「知っているが、利用していない」は両者 3 割程度である。

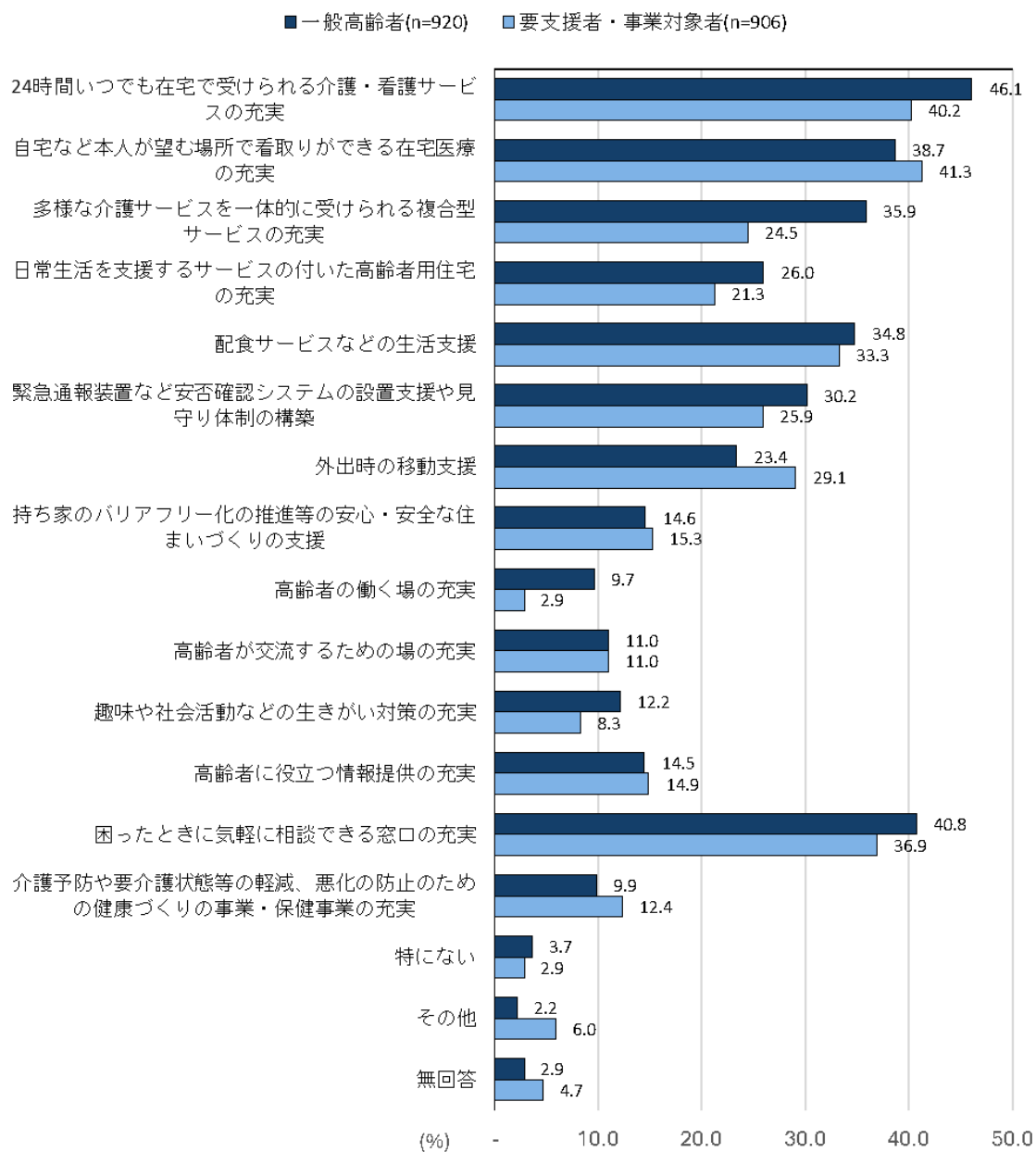


(6) 高齢者が地域で在宅を続けるために必要な施策

あなたは、高齢者が住み慣れた地域で在宅生活を続けていくために、主としてどのような施策が必要であると考えますか。(〇は5つまで)

一般高齢者では「24時間いつでも在宅で受けられる介護・看護サービスの充実」が46.1%と最も高くなっている。次いで、「困ったときに気軽に相談できる窓口の充実」が40.8%となっている。

要支援者・事業対象者では「自宅など本人が望む場所で看取りができる在宅医療の充実」が41.3%と最も高く、次いで「24時間いつでも在宅で受けられる介護・看護サービスの充実」が40.2%となっている。

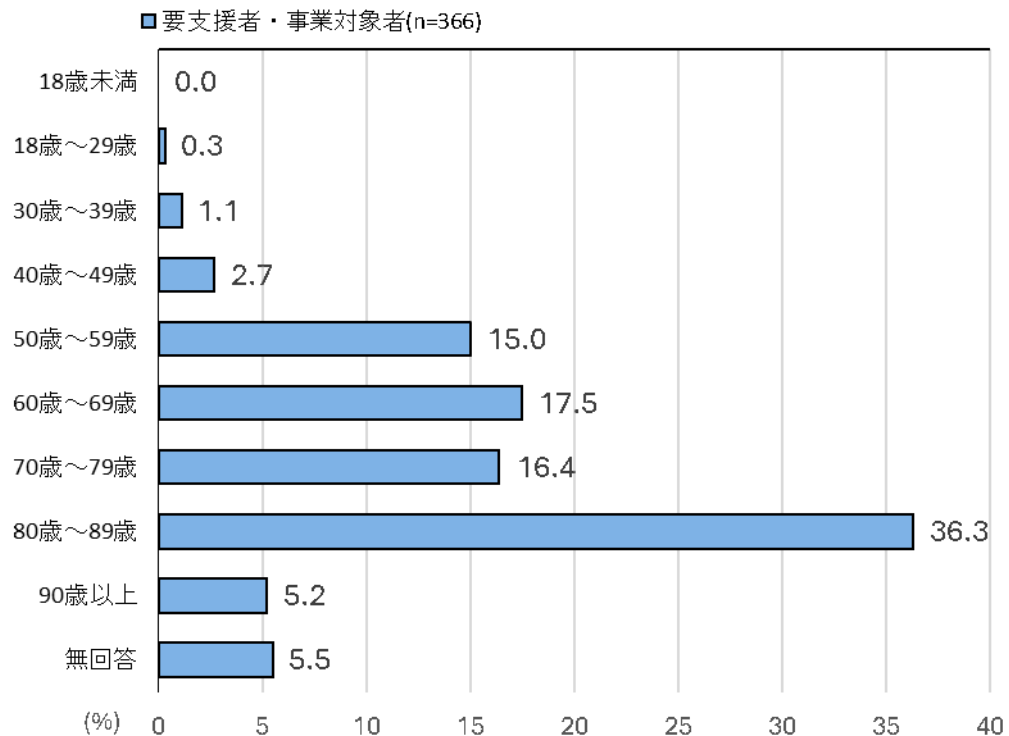


14. 主な介護者の方への質問

(1) 介護者の年齢

あなたの年齢をお答えください。

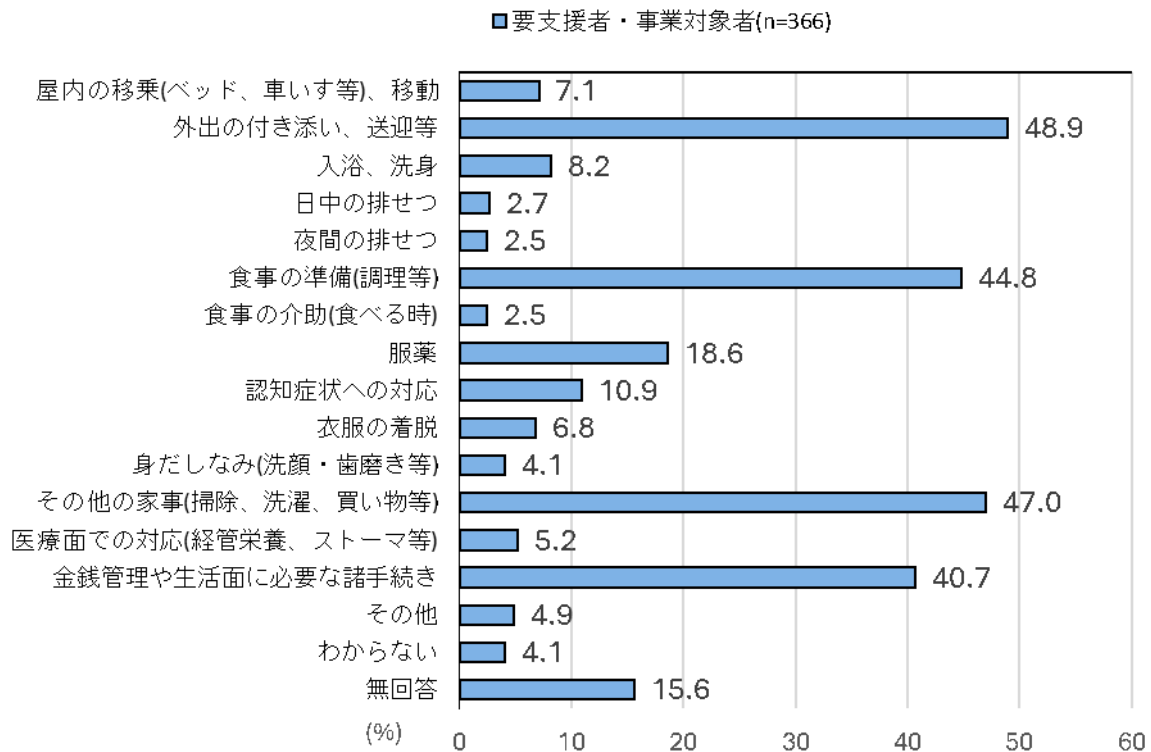
80代が36.3%と最も高く、次いで60代が17.5%、70代が16.4%となっている。



(2) 介護の種類

現在、主な介護者の方が行っている介護等は、次のどれですか。(〇はいくつでも)

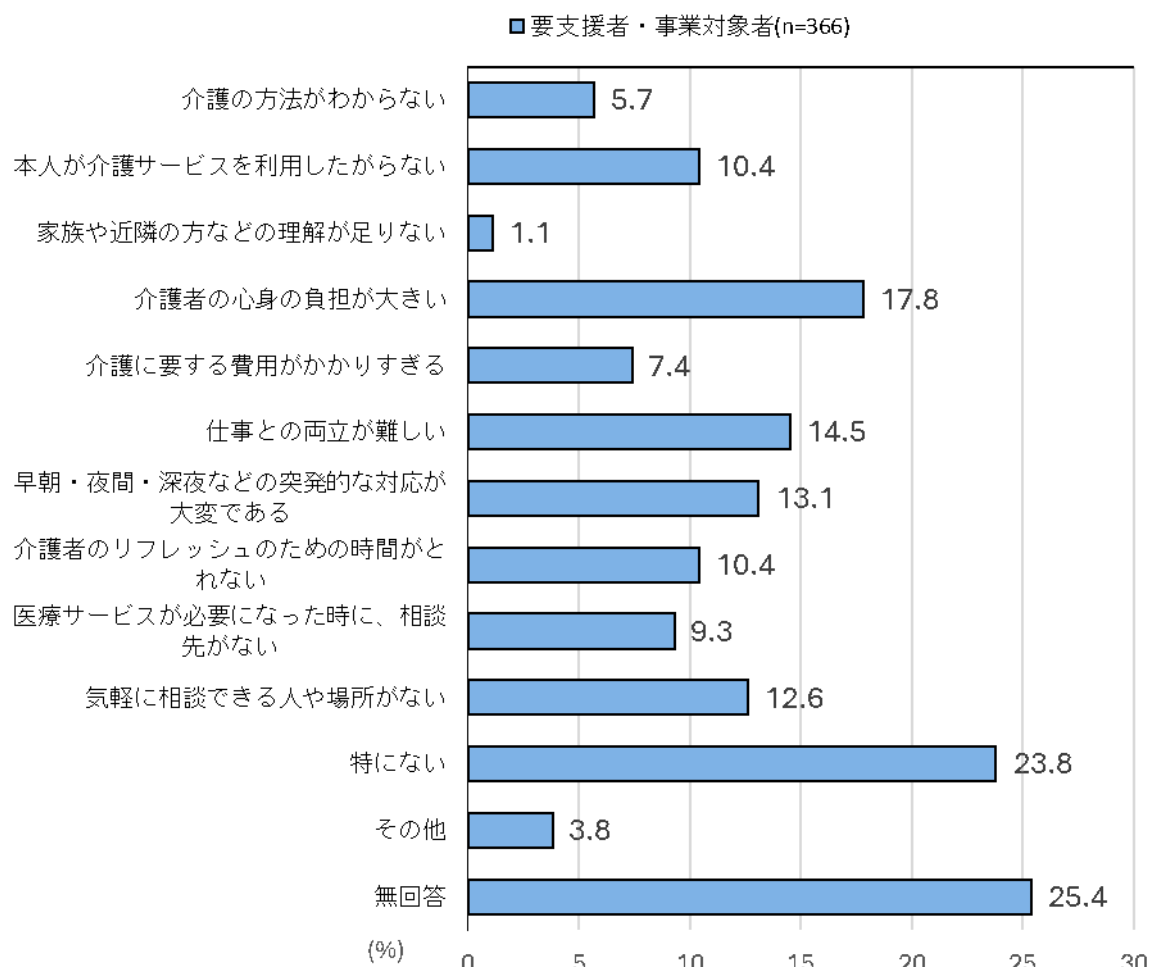
「外出の付き添い」が最も高く、48.9%となっている。その他、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」「(47.0%)」、「食事の準備(調理等)」「(44.8%)」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(40.7%)が同程度に割合が高い。



(3) 介護者の現状

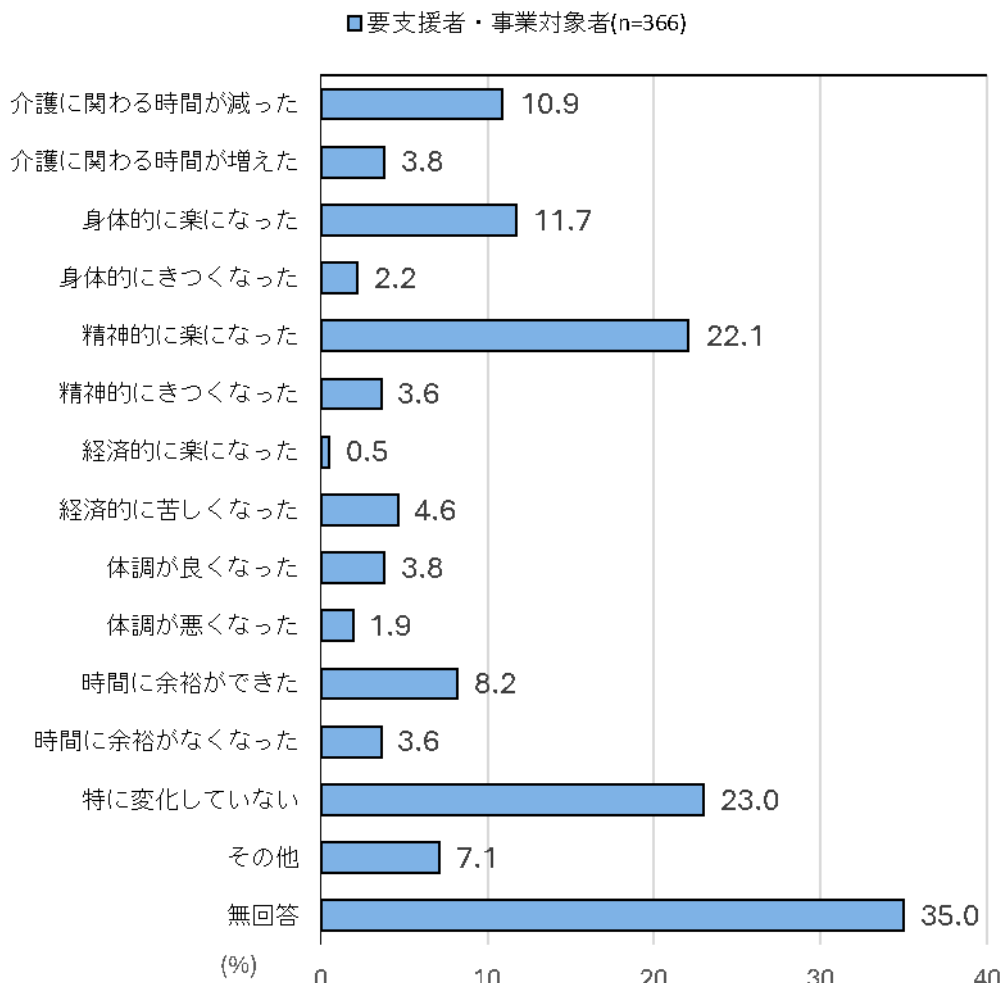
介護を行う上で困っていることは何ですか。(〇はいくつでも)

「特にない」が23.8%と最も高く、次いで「介護者の心身の負担が大きい」が17.8%、「仕事との両立が難しい」が14.5%となっている。



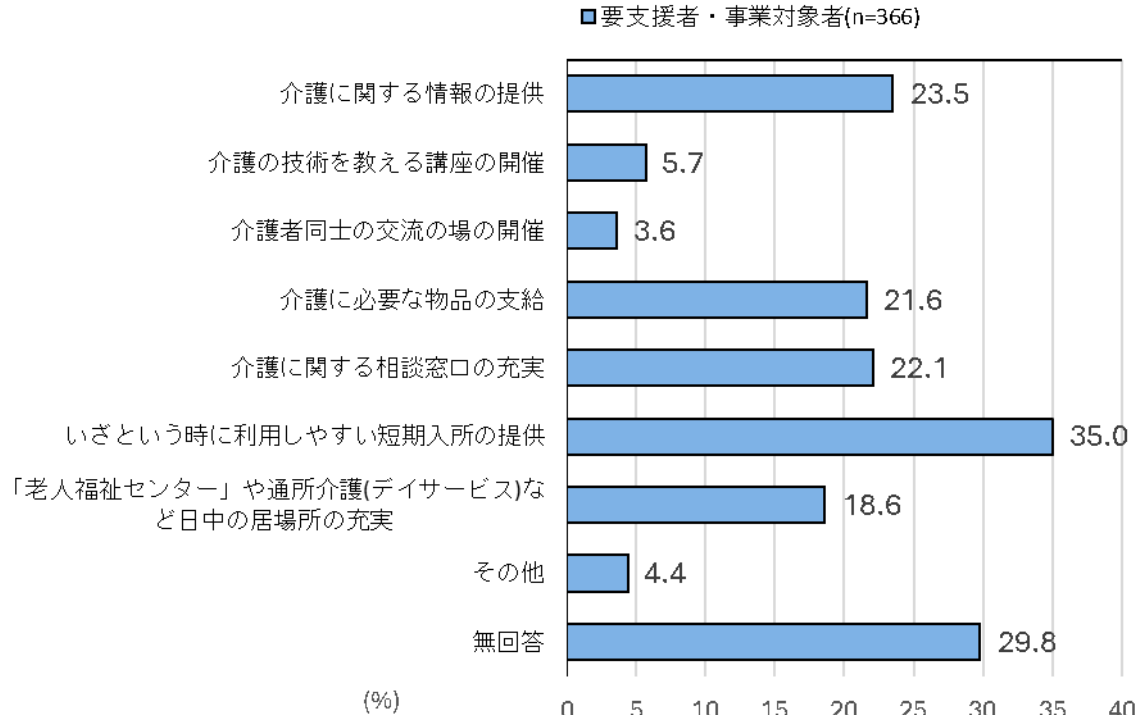
介護サービスを利用することによって、介護している方はどのように変化しましたか。(〇はいくつでも)

「特に変わっていない」が23.0%と最も高く、次いで「精神的に楽になった」が22.1%、「身体的に楽になった」が11.7%となっている。



介護者として、介護に関してどのような支援があったらいいと思いますか。(〇は3つまで)

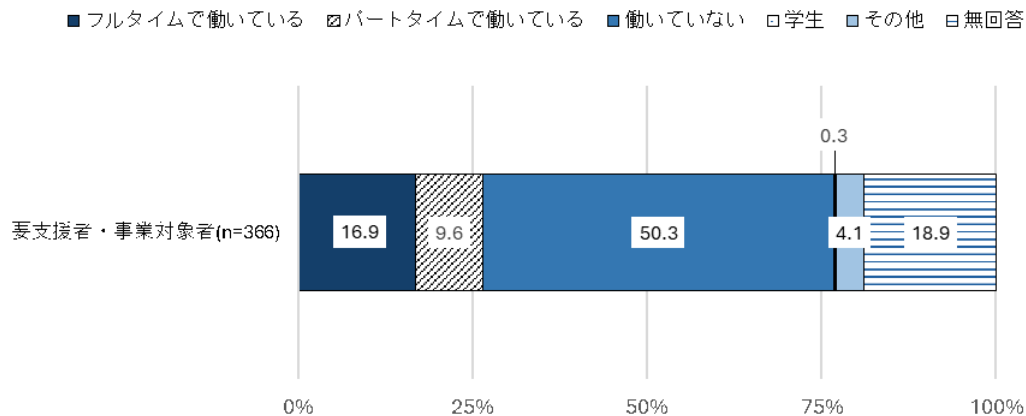
「いざという時に利用しやすい短期入所の提供」が35.0%と最も高く、次いで「介護に関する情報の提供」が23.5%、「介護に関する相談窓口の充実」が22.1%となっている。



(4) 介護者の仕事と介護の両立について

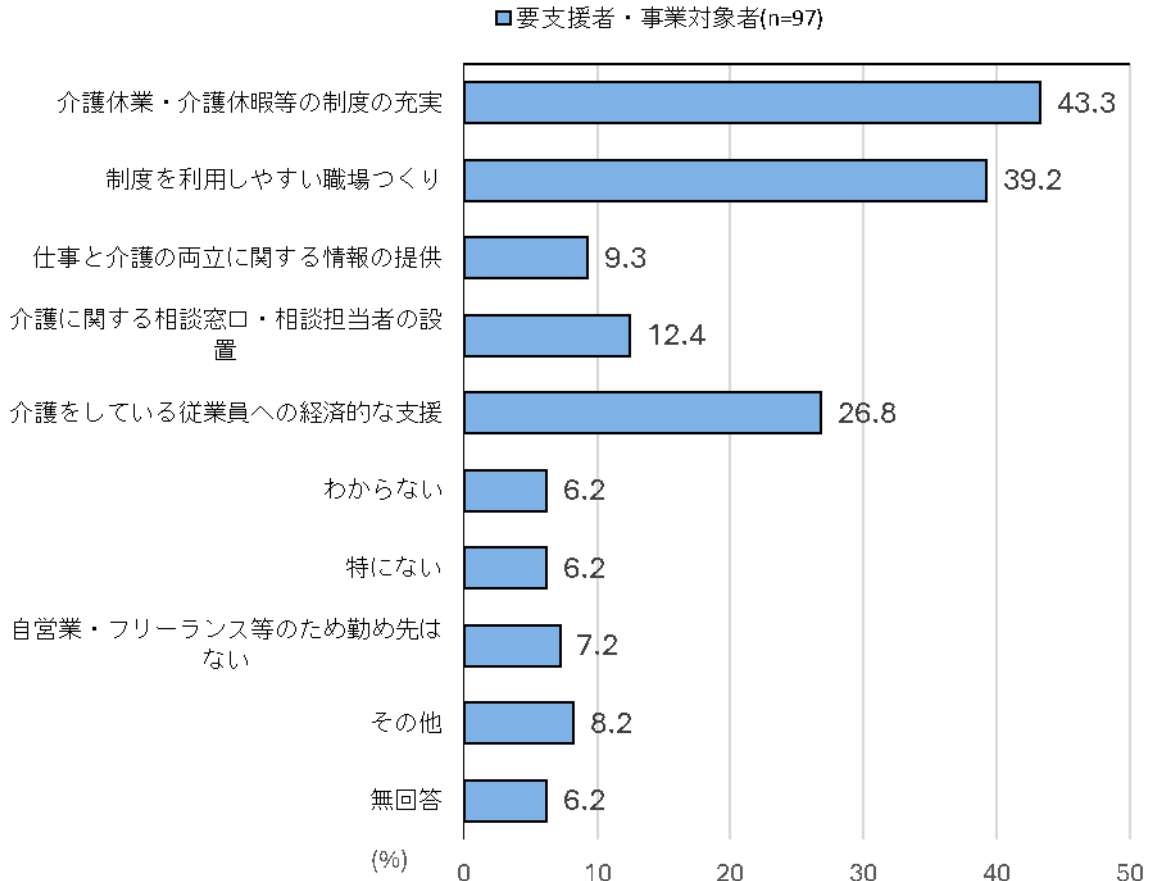
あなたの現在の勤務形態についてお答えください。

「働いていない」が50.3%と半数を占めており、「フルタイムで働いている」が16.9%、「パートタイムで働いている」が9.6%となっている。



(フルタイム・パートタイムで働いている方)あなたは、勤め先からどのような支援があれば仕事と介護の両立に効果があると思いますか。(〇は3つまで)

「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が43.3%と最も高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が39.2%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が26.8%となっている。



15. ご意見・ご要望

市の高齢者保健福祉施策についてご意見、ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

① 情報提供・相談窓口について

【一般高齢者】

- ・ 市の施設の状況をもっと発信してほしい。
- ・ 支援対応のある項目について知りたい。
- ・ 市 HP の高齢者介護や保険関係の情報をまとめた冊子がほしい。市発行の冊子一覧も HP に掲載してほしい。
- ・ 親が介護支援につながりやすいよう、子ども世代への情報の啓蒙が必要。早めにつながる方が家族も本人も安心できる。
- ・ 介護保険料を多く払っているが、どのような状況になればどの程度の保険給付があるのか説明がなく不満である。
- ・ スマホやインターネットを使えない高齢者もいるので、何でも機械にするのはやめ、口頭で分かりやすく説明してほしい。
- ・ 習志野市の広報で、毎月福祉施策の掲載や PR を続けてほしい。
- ・ 高齢者の外出支援策をもっと広く伝えてほしい。
- ・ 65 才になったら老人クラブから誘いが来ると思っていたが何もない。自分から調べる勇気もなく、一人で家にこもるのは淋しいので、市からパンフレットが届くだけでもきっかけになると思う。
- ・ アンケート集計結果を、市広報等に記載してほしい。
- ・ 市が高齢者への保健福祉、介護サービス、認知症施策に強い意識を持っていることを知り、心強く感じた。
- ・ 市から届く書類の理解が大変なので、相談窓口と書類記入の手伝いをしてほしい。介護保険外の家事支援や困りごと支援も必要。
- ・ 年金が少なく、家賃と光熱費で消えてしまう。どこに相談してよいか分からず、高齢者が過ごしやすい環境支援が増えることを期待している。
- ・ 情報を得る手段がない、または分からない。LINE や回覧でも見たことがないので、もっと情報発信してほしい。
- ・ 市の高齢者保健福祉施策について、老人会を通して具体策を発表し、意見を聞く場を設けてほしい。
- ・ 終活準備のために必要な資料やしおりがあればほしい。
- ・ 市に様々な高齢者保健福祉施策があることが分かった。今後はこれらの施策を利用して、楽しみや生きがいを見つけていきたい。

第2章 一般高齢者、在宅要支援認定者・事業対象者調査

- ・ 介護認定の受け方や必要なことを知らない人が多い。基本的なポイントだけでも、もっと簡単に多くの人が知れるようにしてほしい。
- ・ 認知症ではないかと家族に言われた時の相談先が知りたい。認知症についても分かりやすい講座をお願いしたい。
- ・ サービス窓口のワンストップ化を期待する。
- ・ 保健福祉や介護サービスをどう利用したらよいか分からない。どこに連絡するのか、誰に知らせるのか分からない。
- ・ 高齢者保健福祉施策という言葉は初めて見た。高齢者の件について、もっとPRすべきだと思う。
- ・ このアンケートで市の支援を知り、必要な時は市に相談すればよいと安心できた。
- ・ この一年ほどで体調不良が続き、今までの健康な生活が一変して戸惑っている。市役所にもお世話になり始めたので、今後はもっと積極的に相談したい。
- ・ 元気で動ける日々なので福祉や介護を身近に感じないが、もっと勉強しなくてはいけないと思った。
- ・ 最後まで自分の力で生活したいが、歩けなくなる不安がある。その時は市の相談窓口を訪れたい。
- ・ 高齢者に対しては、対面、実地、現物、現実の事象をよく検証することが必要。

【要支援・事業対象者】

- ・ 情報伝達の方法に困ることが多い。スマホも持っていないので、書面での回答や伝達を希望する。
- ・ 現在治療中だが、今は自分の周りのことはできている。何かあった時に電話などで相談できる窓口を知っておきたい。
- ・ 足が悪くなり外出できなくなった時、どこに相談するのか分かる方法を示してほしい。市から連絡がほしい。
- ・ 高齢者相談センターの存在を知らなかったので、もっとアピールしてほしい。
- ・ 習志野市民となり半年ですが、タクシー券のことを知らなかったので、もう少し情報提供がほしいです。
- ・ 高齢になると自分の事で精一杯。市で相談窓口や本人への声かけ、書類での連絡をしてほしい。
- ・ 介護サービス担当者との接点がなく、年とともに介助が必要になってきているため、アンケート形式でも近況把握や支援につなげる方法があるとよい。
- ・ 市役所の窓口や高齢者相談センターは丁寧に対応してくださるが、難病関係の複雑な書類作成についていけない方もいるのではと危惧しています。
- ・ 股関節手術前に要支援1をいただいたが、現在は介助なく普通に過ごしている。終末期に不安はあるが、健康寿命を長く維持し、介護制度や支援を勉強したい。

② 交通・外出支援

【一般高齢者】

- ・ 高齢者が移動する際の介護タクシーがなかなか来ない。タクシーがない。
- ・ 現在のタクシー券は、80才以上の人たちに平等に配布するべきだと思う。
- ・ 免許返納後は移動が制限され、講座や施設イベントに参加しにくい。東西・南北を結ぶ安価な交通網を整え、したいことを可能にしてほしい。
- ・ 屋敷地区は歩道が悪く車椅子移動が困難で、安心して外出できない。気軽に集まれる場所も少なく、食事しながら会話できる場があるとよい。
- ・ 物価高で歯医者に行くお金もない。免許返納後は外出機会が減ったが、今はそれほど不自由とは思っていない。
- ・ 都内のバス券支援のように、安く利用できるバス支援を導入してほしい。外出支援はフレイル予防や経済支援にも有効だと思う。
- ・ 外出支援は家庭状況により希望が異なるため、タクシー券やバス料金無料など選択肢があるとよい。
- ・ 高齢者が気軽に移動できる送迎バスを充実してほしい。介護認定がなくてもリハビリテーションを利用できるようにしてほしい。
- ・ 非課税世帯だけでなく、一般の高齢納税者にもバス・電車・タクシー等のチケットを配ってほしい。
- ・ 最寄り駅までの移動手段としてタクシー券やバス券がほしい。高齢者が楽しめるサロンが近くにあるとよい。
- ・ 課税世帯にもタクシー券を交付してほしい。高齢者の交流活動やボランティア活動についてもっと報道してほしい。
- ・ 子どもと同居しているとタクシー券などの援助が受けられず、非常に残念に思う。
- ・ 免許証を自主返納した人だけへの特別な支援は不要だと思う。税金で支援するなら、免許を持っていない人も含め高齢者全員に等しくすべき。
- ・ 非課税世帯でも、世帯分離した家族が同居しているとタクシー券が非支給になると聞き、困っている。

【要支援・事業対象者】

- ・ 京成バスの本数や行き先が利用しづらい。通院や買い物を自力でしたいので、バスの本数や地域を考えてほしい。
- ・ 地域バスは土日運休で不便。一日2便しかないバスも不便で、陸の孤島のような感じです。
- ・ 割引定期券ではなく、日中のバス客が少ない時間帯の割引券を作してほしい。

- ・ 高齢者が移動する際の介護タクシーがなかなか来ない。タクシーがない。
- ・ タクシーがつかまりにくい。タクシー券よりバスの年間補助がよい。京成バスの降車時に車体を下げてくれず怖い思いをしている。
- ・ 外出支援サービスを充実してほしい。タクシー配車を断られることがあり、バス停までの移動にも不安がある。
- ・ 現在歩行するのに大変困っています。もっと気軽に移動手段が利用でき、バス停まで歩けないためドア to ドアが利用できればありがたいです。
- ・ 免許返納後に移動手段がなく落ち込むようになった。バスやタクシーも使いにくく、外出や交流がしやすい移動手段を望む。
- ・ 来年は車をやめようと思っているので、バスの年間パスがもらえるとうれしい。
- ・ 東京都のような無料パスや、地方都市のような市内バス半額カードの発行を希望します。
- ・ 歩道のフラット化、駅前歩道への自転車進入の危険、歩道の夜道の灯りを改善してほしい。
- ・ 子どもと同居しているとタクシー券がもらえないが、車がない人もいる。80才を過ぎたらもらえるようにしてほしい。
- ・ タクシー券の配布は、非課税世帯に限らず高齢者世帯にも適用してもらえるとありがたい。
- ・ 同居しているとタクシー券がもらえないので、せめて病院に行く時を援助してほしい。
- ・ 同じ住所で世帯主が複数いるとタクシー券がもらえない。市によってはもらえるのに、習志野市ではなぜもらえないのか。
- ・ 80歳以上の高齢者には、無条件でタクシー券の支給があれば助かる。
- ・ タクシー券は要支援1では対象外で、子供に会社を休ませて病院へ連れて行ってもらうことになり困っています。
- ・ 東習志野8丁目は交通の便が悪く市の施設に行けないため、市の方から寄り添ってほしい。非課税者以外にもタクシー券等を考慮してほしい。
- ・ 病院通いをしているが、施設に入っているという理由でタクシー券がもらえなかった。そういう人こそ必要ではないでしょうか。
- ・ タクシー券は運転手に嫌がられることが多く、嫌味を言われたこともある。チケット分を現金振込で頂けるとよい。
- ・ 母の介護時にタクシー券をもらったが、使い方に不便があった。交通費が半額程度になれば外出機会も増えると思う。
- ・ 介護は受けず、自分で時間をかけてやっている。タクシー券はぜひほしい。
- ・ 高齢者相談センターで親切に対応してもらいありがたい。タクシー券に加えてバスの援助もしてほしい。
- ・ 課税世帯にもタクシー券を交付してほしい。高齢者の交流活動やボランティア活動についてもっと報道してほしい。
- ・ 最寄り駅までの移動手段としてタクシー券やバス券がほしい。高齢者が楽しめるサロンが近くにあるとよい。

③ 医療・介護

【一般高齢者】

- ・ いつまでも自宅で生活できるよう、在宅医療の充実を望む。
- ・ 自宅で高齢者介護をしている家庭への支援として、紙おむつ等の割引券などがあると助かる。
- ・ 認知症介護は家族では不可能であり、公共の支援で負担を軽減してほしい。
- ・ 私は介護が必要になったら自宅にはいたくない。通院が続いているため、総合病院で医療を受けられる環境の老人福祉施設を増設してほしい。
- ・ 骨粗鬆症治療の補助金、津田沼駅近くの室内プール、小規模な体操教室の幅広く頻繁な開催を希望する。
- ・ 習志野市の規模では限界があるので広域化を図り、ゆくゆくは県単位で標準化したサービス体制にすべきだと思う。
- ・ 自分は衣食住や健康に恵まれていると思う。本当に困っている人には、温かい手を差し伸べてほしい。
- ・ 習志野市の高齢者福祉対策はよくできていると思う。予算内でやれることを丁寧に進め、できることをしっかり対応する市政でよいと思う。
- ・ 介護を受ける前に健康寿命を伸ばす政策をしてほしい。介護が必要になった時は、本人の意思にかなった介護が受けられる助成があればよい。
- ・ 福祉現場の人手不足が今後さらに進むと思うと心細い。若い人にとって魅力があり、働きやすく金銭的にも余裕のある職場として考えてほしい。
- ・ 人間ドックの費用助成を増額してほしい。
- ・ 市外で人間ドックを受ける場合にも補助を受けられるようにし、データ連携や市外受診への補助を検討してほしい。
- ・ 子育てだけでなく高齢者も含め、市民が公平にサービスを受けられるようにしてほしい。支援事業が広く知られ、福祉施設も充実してほしい。
- ・ 施策実施の第一歩は高齢者の実態把握だと思う。声を上げられない人も含め、本当に助けを求める人を知る方法を市で考えてほしい。
- ・ 年金や介護など、高齢者が安心して生活できるように考えてほしい。
- ・ 身寄りや知人がいない人が増えており、いざという時の支援は民間より自治体に行ってもらう方が安心である。
- ・ 一人暮らし高齢者が増えているため、生活に不安がないよう、きめ細かな温かい施策がほしい。
- ・ 高齢者保健福祉施設の多様化や評価は見えづらく、人材確保や待遇が課題ではないか。介護施設に助けられた経験があり感謝している。

第 2 章 一般高齢者、在宅要支援認定者・事業対象者調査

- ・ 独り住まいの安全・安心には見回り、心配り、声かけが大切。高齢者が元気に楽しい時間を持てる生活や福祉が必要だと思う。
- ・ 定期的な訪問。
- ・ 夫が歩行困難となり施設に入居したが、費用負担が大きい。人生の終わりを心配なく穏やかに締めくくる施策を考えてほしい。
- ・ 高齢者施設の利用者は増えたが、介護する人手不足は変わらない。利用料が高く、貧しい人は入れない。
- ・ 現在 82 才で健康に生活している。介護保険は使っていないが、自分が健康なので他人の役に立てばよいと思う。習志野市は住みよい所である。
- ・ 現在は大きな障害なく生活しているが、近い将来の変化をまだ実感できない。現状維持に努め、変化には順応したい。
- ・ 耳に関するアンケートがない。両耳の突発性難聴で会話ができない。
- ・ 夫は足腰やもの忘れ、耳の不調があり、自分の体も含め今後が不安。住宅ローンや物価高もあり、年金生活には厳しい。
- ・ 家族内で精神・身体の介護が必要な者がいると家族の負担が大きい。介護保険の利用範囲を広げ、高齢者向け住宅の設立を希望する。

【要支援・事業対象者】

- ・ 民生委員の人数が少なく、1 人で 50 人近くを受け持っているようなので、増やしてきめ細やかなサービスを望む。
- ・ 認知症の家族が施設と病院を行き来し、二重払いになっている。少ない年金では不安で、今後こうした人が増えることを思うと心配です。
- ・ 子どもに車を出してもらい生活しており感謝している。将来は市の施設に世話になると思う。健康診断に足の診断もあればよかった。
- ・ 視覚障害があり、以前は外出もできず入退院の日々だった。習志野市に来て前向きに過ごせており、地域の皆様に感謝している。
- ・ 現在要支援 1 だが、もう少し積極的な施策があるとよい。例えばリハビリなど。
- ・ 毎週水曜日の午前中、リハビリに歩いて通っている。生活のリズムになり感謝している。
- ・ 老々介護や寝たきりになった時に安心できる介護や施設が整ってほしい。特養が少なく、夜間吸引に対応できる施設も含め充実してほしい。
- ・ 介護支援を受けたくて手術前に申し込んだが、退院直後には役立たず家族に無理をさせた。すぐ利用できる方法があるとよい。
- ・ 要支援 2 でも、同居者が数日不在になる時などに 1 か月 1 週間程度ショートステイを利用できるとありがたい。

第2章 一般高齢者、在宅要支援認定者・事業対象者調査

- ・ ある程度自分でできるように頑張ったところです。そのかわり時間はかかりますが、また要支援を受ける時はよろしくお願いします。
- ・ 介護職の人々の待遇を改善して離職することが無いようにして欲しい。介護職の専門知識を持つ人々を増やして欲しい。
- ・ 支援に依存する考えに偏らないよう努力し、頑張っている高齢者のための支援の仕組みを作してほしい。
- ・ 要支援1や障害認定を受けずに頑張っている人にも、継続的に軽体操を公費で受けられる方法を拡大してほしい。
- ・ 自宅で介護しており、ヘルパーや訪問リハビリ、ケアマネジャーの支援に心から感謝しています。
- ・ だんだん足腰が弱くなってくるので、週2回行けるとうれしく思います。
- ・ 通所リハビリテーションは配車等のサービスは良いが、内容が単純でコミュニケーションがなく、年齢差や男女区分も合わなかった。
- ・ 妻が大病をして5年になるが、何もできず大変で、現在は少し動けるようになり助かっています。
- ・ 本当に介護が必要な人に介護が受けられるようにしてほしい。
- ・ 福祉制度の充実を図る努力をいただければありがたいと思います。
- ・ 市内にはケアマネジャーが不足していると聞きました。福祉の仕事にかかわる方の給料アップを強く希望します。
- ・ 親を20年間介護しました。入浴サービスやケアマネジャー、かかりつけ医がいたことに感謝しています。
- ・ リハビリしてくれる施設が少ないように思います。
- ・ 妻を介護していますが、自分も聴覚障害があり、コミュニケーションに支障があります。税制上の優遇措置がもう少し上がればと思います。
- ・ 私は耳が悪く補聴器を使っているが状況は良くない。テレビは字幕頼りで、回答は面倒だった。全てが正しいとは思っていない。
- ・ 夫の介護でヘルパーや医師に世話になり、介護職の大変さを感じた。終末期医療には疑問も残り、この先どうなるか分からないが迷惑をかけたくない。
- ・ 老々介護でお互いに自分のことで一杯です。入浴介助はできず、近い将来は外部支援をお願いし、ショートサービス利用やケアマネジャーさんに相談したい。
- ・ 二世帯住宅の場合ヘルパーさんの派遣は全てだめですが、息子も忙しく掃除などをしてもらいたいので、是非考えていただきたい。

④ 施設・住まい

【一般高齢者】

- ・ 古い RC 集合住宅に住んでいるため、耐震工事の補助金制度を早く利用できるようにしてほしい。
- ・ 自宅で家族が面倒を見るのは無理なので、簡単な建物でもよいから施設をたくさん作ってほしい。
- ・ 大津市の高齢者シェアハウスや藤沢市の若者と高齢者の共同住宅に興味を持った。習志野市でも選択肢の一つとしてあるとよい。
- ・ アンケート実施に感謝している。秋津総合福祉センターの運動やお風呂、てんとうむし体操を楽しんでおり、高齢者施設のさらなる充実をお願いしたい。
- ・ 低料金(10 万円前後)で入所できる介護施設を充実してほしい。
- ・ 80 才以上の夫婦 2 人暮らしで、昨年できたことが今年はできなくなってきた。いつまでも住み続けられる習志野市を願っている。
- ・ 住宅に困っている。県営住宅に 4 年間応募しても当たらず、単身者向け住宅が増えることを望む。
- ・ 一人暮らしの高齢者が入れる高齢者用住居の充実。終活支援制度、死後事務に関する支援制度。
- ・ 築年数が古くエレベーターのない団地高層階に住む独居高齢者を積極的に調査し、具体的な支援策を考えてほしい。
- ・ 特別養護老人ホームを増やしてほしい。年金の少ない人は民間施設に入れず、特養が空くのを待つしかないため、待機老人を減らしてほしい。
- ・ 特養を増やして、要介護度の低い人でも入所しやすくしてほしい。
- ・ 年金だけで入居できる軽費老人施設を充実してほしい。在宅での看護は困難だと思う。
- ・ 住まいの補修が必要な時に、信頼できる業者を紹介してもらえるとよい。
- ・ 年金生活で公営住宅の家賃が高く、住宅費の援助があると助かる。今後も住み慣れた地域で暮らしたい。
- ・ 団地に長く住んでいるが、今後住まいに不安がある。以前市役所に助けを求めても支援を受けられなかった経験がある。

【要支援・事業対象者】

- ・ 公営高齢者住宅の設置。特養老人ホームのほか、要介護者でなくても独居老人等が利用できる高齢者用住宅を設置してほしい。
- ・ 年金内で入居できる施設が少なすぎる。空いているマンション等を利用し、年金の少ない人でも入居できるように進めてほしい。
- ・ サービス付きホームに入所している。自分でできることはなるべくしたいが、ホームにできるだけ金銭的な補助をお願いしたい。

- ・ 福祉施設に入りたいが、年金で支払える施設が少なく困っている。要支援でも安く入居できる施設を紹介してほしい。
- ・ 住宅街にコンビニのようなものがあると、駅前まで行けない高齢者も助かる。
- ・ 一人暮らしは不安。
- ・ 年金額が低く施設入所が困難と聞き不安。市の制度が、一人の高齢者でも安心して生活できるよう向上してほしい。
- ・ 習志野市も高齢者の方が多く大変だと思います。デイサービスへ通う場所を多く増やして欲しいです。
- ・ 一人住まいの人が何かあった時にすぐ入所できる、安い遺族年金で入所できる施設。順番を待たずに入所できる施設。
- ・ 老人ホームなど充実してほしい。
- ・ 夫が89才で自分のことができず、施設に入院している。月30万円くらいかかり、私もなるべく顔を見せるようにしている。
- ・ 年金で入れる老人ホームをもっと作って欲しい。

⑤ 経済的負担・支援について

【一般高齢者】

- ・ 非課税より少し所得がある独身の年金受給者が支援を受けられないのは不公平である。
- ・ 年金はわずかなのに生活費や施設費が高すぎる。もっと生活しやすい世の中になってほしい。
- ・ 年金を増やしてほしい。
- ・ 働く意志のある高齢者が働けるようにしてほしい。
- ・ 年金だけでは家賃や光熱費等しか賄えず、預貯金を切り崩している。生活破綻や認知症への不安があり、経済的相談や支援を利用したい。
- ・ 低所得のため、これ以上保険料が高くないでほしい。
- ・ 人間ドックの費用助成を増額してほしい。
- ・ 高齢者の医療費1割負担はありがたい。今後3割になると、年金生活者には厳しい。
- ・ 高齢者に対する国民健康保険が高すぎる。
- ・ 年金生活者の市民税は何とかしてほしい。
- ・ 非課税者だけでなく、ボーダーラインぎりぎりの人にも補助が必要。タクシー券などは必要な人に安く販売するなど、平等になるよう見直してほしい。
- ・ 75才以上の年金生活者でも副収入がある人は対象外にし、医療費は年金生活者一律ではなく高額収入者から徴収すべき。
- ・ 医療費の無料化。

【要支援・事業対象者】

- ・ 支援金申請等は、できれば申請なしで利用できると助かる。自分が該当しているか分からない。
- ・ 市民税を払っている人にこそ、何か利用できるサービスを構築してほしい。
- ・ 買い物支払いの代行など、お金に関する支援ができないことが多いので、何とかできることを増やしてほしい。
- ・ 市民税が高すぎる。
- ・ 非課税世帯にタクシー券が交付されているが、とても元気な人に交付されていると納得がいかない。
- ・ 身辺整理のため粗大ゴミを出したが、支援1では行ってもらえず、お金を出して処理した。生活面の負担が大きすぎる。
- ・ 地域クーポン券などの住民サービスが習志野市では行われておらず、アンケートも「やっている感」に見え、税金の無駄遣いに感じます。
- ・ 妻を介護していますが、自分も聴覚障害があり、コミュニケーションに支障があります。税制上の優遇措置がもう少し上がればと思います。
- ・ 介護制度を利用している人への手厚いサービスに疑問を感じることもある。未利用者で低所得でも努力している高齢者も多く、財政難の中で貯蓄のある人への支援に疑問を感じる。
- ・ 年金所得のみでも医療費負担が1割から2割になった。年収200万円が高所得者扱いになることに不安がある。

⑥ 交流・居場所

【一般高齢者】

- ・ インターネットを利用したボランティア活動を長年しているが、今回の設問は「地域で」「会って」など対面前提が多く、ネット上の交流が無視されているようで悲しかった。
- ・ てんとうむし体操は非常によいが、体操の合間に団らんやレクリエーションを入れると、地域の方とのつながりが増えると思う。
- ・ シニア体操後に小さなカフェがあれば、参加者同士でおしゃべりや情報交換ができ、外出意欲にもつながると思う。
- ・ 昼食、お茶飲み、体操、入浴などを自由に楽しめる高齢者の集いの場があれば、話もでき体も動かせるので利用したい。
- ・ 福祉センターなどの見学会や、人と交流できる機会がほしい。昔話やスポーツなども楽しみたい。
- ・ 高齢者向けフィットネスはゆっくりすぎるため、もう少し動き回って楽しめるエアロビ的なものを作ってほしい。
- ・ 高齢者対象の体操教室は役に立つが、外部委託で経費がかかっている。市民ボランティアを指導者とし、身近な施設で週1回以上行えば、より強力な健康サポートになると思う。

- ・ 身近に参加できる場所があれば参加しやすい。地域のつながりが希薄化しているので、町内会の存在を見直せればと思う。
- ・ 交流する場所、認知症予防、健康体操等の教室を開設してほしい。有料でもよい。
- ・ 高齢者だけに特化しすぎるより、若い人や中高年も混ざっている場の方が参加しやすいと思う。
- ・ ボランティアとして運動会やボッチャ等の指導を手伝っている。人と接することが自分のためにもなるので続けたい。
- ・ 近隣にスーパーがなく買い物が大変。公共用のベンチや椅子も少なく、夏の猛暑を考えると住みにくい。
- ・ 高齢者向けに特化したサービスより、若い人も一緒に参加できる活動の方がよい。

【要支援・事業対象者】

- ・ 高齢者の悩みや希望など、どんな些細なことでもいつでも聞いて相談に乗ってくれる受け皿を設けてほしい。
- ・ 高齢者と現役世代の垣根を越えた施策を進め、誰もが楽しく幸せを共有できる習志野を目指してほしい。
- ・ 一人暮らしで寂しいため、近所の方に声かけをしてもらえると明るく楽しい時間が過ごせると思う。
- ・ 地域によって活動が違うので、なるべく年齢差がない人たちで決めてほしい。人柄もよく見てほしい。
- ・ 地域の中に交流できる場を作ることができたらうれしい。
- ・ 息子夫婦が近くに住んでいて安心だが、日中は不安があり、近所の人や友人の声かけが心強い。
- ・ 84才の独り生活者として、近所の方が姿を見せなくなると気がかりでも訪ねようがなく、住宅街の人間関係の薄さにとまどっています。
- ・ 習志野市に引越して4年目で、谷津コミュニティセンターや書道サークルを通じて楽しく過ごしており、老若男女が生き生き過ごせる街づくりを期待しています。
- ・ 高齢者が安心して住める習志野市をよろしくお願いします。
- ・ 習志野市は高齢者への支援が多数あり、ありがたいと思っています。自分でしっかり老後を生き抜き、子供たちに迷惑をかけたくないです。
- ・ 救急車で入院し退院してから閉じこもり、寝たきりにならないよう、つながりをつけて交流を図ることが大切です。対象者の身になって平な気持ちで接し、まず聞くことが大切だと思います。

⑦ 制度・運用への不満

【一般高齢者】

- ・ 手続きの書類は、分かりやすく簡素化してほしい。
- ・ 駐輪場のネット申請が便利になった。窓口の合理化をさらに進め、自宅でできる申請を増やしてほしい。
- ・ 高齢者福祉について他自治体との違いや、理想の形、欠けているものを市民に投げかけてはどうか。
- ・ 高齢者施策を町内会等の地域活動と結び付けたい。
- ・ 住民が言いたいこと、知ってほしいことを行政に容易に伝えられる仕組みを作してほしい。
- ・ 高齢者保健福祉施策について、他自治体との違いや課題を市民に投げかけてはどうか。
- ・ 死別の人は非課税で支援を受けられるようだが、離婚して働いてきた私は市県民税を支払い、タクシー券等の支援が受けられない。年収で区別するなら納得できますが、死別と離婚の差別は何でしょうか。
- ・ 安心して過ごすことができる社会を必ず実現してほしい。
- ・ 現在は元気で不自由はないが、ゆくゆくはお世話になると思うのでよろしくお願ひしたい。
- ・ 他の市町村の施策を学んで、可能な限り取り入れてほしい。
- ・ 子育て支援も大切だが、高齢者の支援も同等にしてほしい。
- ・ 孤独防止のコミュニティ充実、ペットや子どもとの交流、フリー乗降バス、主治医体制などが必要であり、疾病予防施策を優先してほしい。
- ・ 単身高齢者で身寄りのない人を、認知症になる前から市でサポートし、死後の手続き等がスムーズになる施策を望む。

【要支援・事業対象者】

- ・ 現状にほぼ満足している。今より体の状態が悪化することは考えたくない。考えることを避けている。
- ・ どんな相談にもやさしく対応してくださることに感謝している。今後も気軽に話を聞いていただきたい。
- ・ 要支援2だが、転入前との認定基準の違いが分からない。ケアプランナーの考え一つで決定しているのか。
- ・ 市で実施しているスポーツ関係の募集に対して、要支援を受けている人は利用できないとは残念です。意欲的に参加したいのに本当に残念だと思います。
- ・ 特にありません。習志野市や高齢者相談センターの方はよくやってくれていると思いますが、介護の基準には疑問があります。
- ・ 娘と暮らしていて、いろいろな施策が受けられないことがあります。
- ・ 介護制度を利用している人への手厚いサービスに疑問を感じることもある。未利用者で低所得でも努力している高齢者も多く、財政難の中で貯蓄のある人への支援に疑問を感じる。

- ・ 要支援から要介護になるとケアマネジャーが変更になる点に疑問があります。慣れた担当者の継続が望ましいと思います。
- ・ 身寄りのない高齢者に対しての入院、入所時の公的な身元保証制度を求めます。
- ・ 増加するひとりぼっちの老人のため、身元保証、葬式、死後の事務処理、家具等の処分をお願いします。

⑧ 本調査へのご意見

【一般高齢者】

- ・ 資料到着時点でパソコン・スマホで回答できず、その後もパソコンでアクセスできなかったため、案内や確認体制を改善してほしい。
- ・ 本アンケート調査の対象者が要介護者なのかそうではないのか分からず、回答に困る質問が多い。質問の改善を望む。
- ・ 健康で働いているためアンケートの内容があまりピンとこない。対象年齢を上げるなど工夫してほしい。
- ・ 質問が多すぎる。もっと簡単な質問にしてほしい。
- ・ アンケートが老後や今後の生活について考えるきっかけになった。
- ・ アンケートを通して、高齢の日々には様々な事柄があると実感した。今後の日常を大切に、自分にできることを求めていきたい。
- ・ アンケートの内容が、高齢者の生活向上に反映されることを願っている。
- ・ アンケート調査の結果・分析を通して、より充実した効果的・効率的なサービスが構築されることを期待している。
- ・ 調査結果が精神論だけでなく、具体的な活動や仕組みの向上に反映されることを望む。
- ・ 回答したことに対して何かあってほしい。
- ・ このアンケートで市の支援を知り、必要な時は市に相談すればよいと安心できた。
- ・ 高齢者対策を色々考えてくださってありがたい。今後お世話になると思うので、よろしくお願いします。
- ・ Web 回答の有効日が依頼書に記載されておらず不親切だった。2 年連続で対象となったため、重複排除も検討してほしい。
- ・ 習志野市の事業のアンケートなのに、小山市に依頼しているのが理解できない。
- ・ 設問に分かりにくい箇所があり、手書きと PC で相違する箇所もある。アンケートの実施方法を改善してほしい。
- ・ 市民の高齢者保健福祉政策の調査を民間会社に委託することに疑問がある。市の職員が足を使って調査すべきだと思う。
- ・ 今回のアンケートを第三者の事業者に依頼していることに疑問がある。市税の使い方を再検討し、事の重要性を軽く考えないでほしい。

【要支援・事業対象者】

- ・ 質問が多すぎて適当に答えてしまった。簡潔にしてほしい。
- ・ 56 歳です。アンケートの最初の回答欄に選択肢がありませんでした。
- ・ 質問が多すぎて最後まで書くのに疲れた。もう少し端的で分かりやすく、○×だけでも答えられる方法があるとよい。
- ・ 質問が多すぎ、個人情報に関する内容も多かったが、情報漏洩は大丈夫なのか。
- ・ この種のアンケートは重要だが、超高齢者は理解力低下で十分な回答になっているか疑問。ケアマネジャー同席での回答も検討してほしい。
- ・ 全体的に答えをどうすればよいのか、分かりにくい設問に即答できませんでした。私の回答が役に立つのか不安です。
- ・ 今回このような調査を行い、今後の反映に期待しています。内容については当事者と介護士で理解に悩むところがありました。
- ・ 今はまだ健康なため、実感に乏しく回答に困ったところもありました。
- ・ 難しい問題だと思います。要望があってもボランティアだけでは無理なのではないでしょうか。
- ・ 今回、習志野市の支援がいろいろあると分かり、ならしのオレンジテラスも利用したいと思います。